

日本リスクマネージャネットワーク（JRMN）
2025 年度 事業報告書

2026 年 2 月

目次

1. はじめに	1
2. 組織・執行体制・会員数	7
3. 事業報告	8
3.1 環境リスク等勉強会	8
3.2 情報交換会(意見交換会)	11
3.3 深読み会・ディスカッショングループ	15
3.4 知の市場	16
3.5 日本リスク学会との共催の公開セミナー	29
3.6 日本リスク学会との連携	35
3.6.1 日本リスク学会リスクマネージャ委員会(3月7日)及び新規リスクマネージャ登録申請審査	35
3.6.2 日本リスク学会リスクマネージャ委員会(6月11日)及び青森大学養成講座	38
3.6.3 日本リスク学会年次大会(11月8日)への参加報告	43
3.7 サイエンスフェア in 兵庫	47
3.8 講師派遣	65
3.9 講演会開催(JRMN独自セミナー)	65
3.10 他団体との連携	65
4. 会の運営	73
4.1 総会	73
4.1.1 定時総会	73
4.1.2 臨時総会	77
4.2 理事会・執行理事会	77
4.2.1 理事会	77
4.2.2 執行理事会	88
4.3 HP活用等	90
4.4 広報	94
4.5 会計	94
4.6 会員交流集会等	95
4.7 会員拡大の検討	102
4.8 その他	108

1. はじめに

●2025 事業年の一般社団法人日本リスクマネージャネットワーク（JRMN）事業方針

2022 年に打ち出した事業方針を実情に合わせて一部改変した 2024 年度の方針を 2025 年度も継続して踏襲した。

1) 力を合わせ、組織の強化
<ul style="list-style-type: none">・ JRMN 会員は、法人理念（現会則）を理解し、揺るぎない基盤の構築を図る・ 会員間の交流を促進し、事業活動における会員のモチベーション向上を図る
2) 会員の研修
<ul style="list-style-type: none">・ 日本リスク学会との協働による CPD 実践・ 自己研鑽に役立つ勉強会・研修会の実施
3) リスクマネージャとしての社会的実践
<ul style="list-style-type: none">・ 社会的実践を通じ JRMN のプレゼンスの向上を目指す・ シーズを生かした社会的実践と進化

正会員を増やす案

「この法人の目的を達成するための知識を有すると認められる者」の条件を検討。

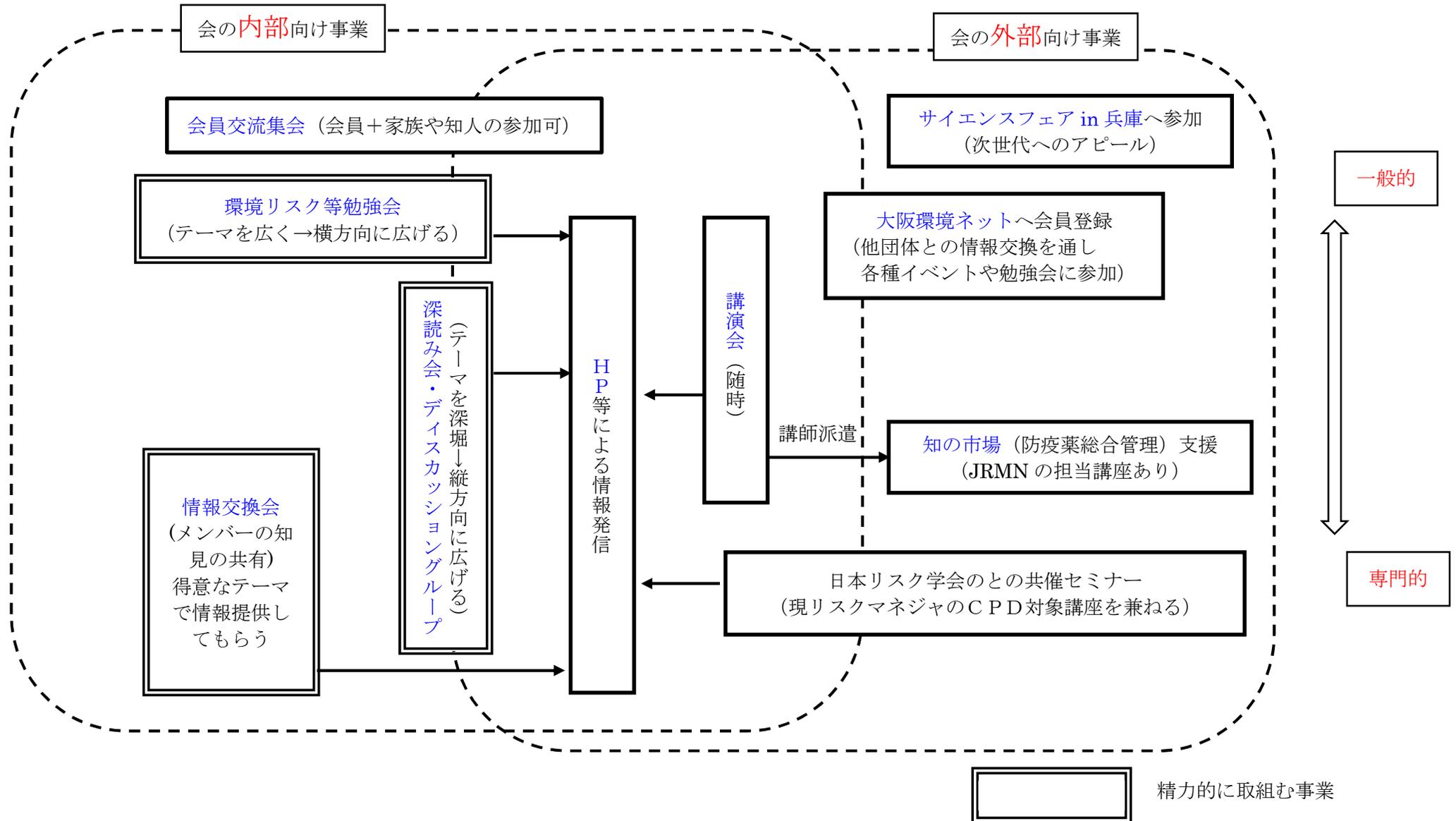
定款にはないサポーター的な会員として「ご縁会員」と「受講会員」を内規で位置づけ、「ご縁会員」を募集したが集まらなかった。

●2025 年度活動報告の概要（事業報告）

事業項目	事業計画
【精力的に取り組む事業】	
1. 環境リスク等勉強会 (担当 刑部)	<p>【計画】昨年度同様、年4回程度(理事会の開催がない月)で、幅広いテーマについて勉強しまとめる。1回当たり1～2時間とする。</p> <p>【実績】5月17日(環境)に第1回勉強会「化学物質のリスク管理」(90分)実施。参加者3名。第2回～第4回は一般からの参加者を募ることを模索したが実現せず中止。</p>
2. 情報交換会 (担当 刑部)	<p>【計画】昨年度同様、一人の会員から各自の知見をもとに話題提供してもらい、参加した会員のスキルアップにつなげる。年間4回程度実施する。理事会の後で1時間程度の時間で実施する</p> <p>【実績】3回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 4月「労働安全衛生とリスクマネジメント」西村理事 参加者5名 ・第2回 7月「令和7年版環境白書について」池田理事 参加者5名 ・第3回 9月「探求学習のPC×Rサイクル」久保田理事 参加者6名
3. 深読み会(ディスカッション* ループ)(担当 未定)	<p>【計画】ほぼ1年間かけて環境リスクやその他リスクに関する1冊の本を深読みし、意見交換するとともに、そこで得られた知見を社会に発信することで会の活性化に貢献する</p> <p>【実績】対象本を「世界は基準値でできている」に選定したが担当者多忙で実施できなかった</p>
【継続的に取り組む事業】	
4. 知の市場「防疫薬総合 管理」(担当 西村)	<p>【計画】昨年度同様「防疫薬総合講座」にJRMNメンバーの講座を組み込む。</p> <p>【実績】(講義は全13回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月22日より参加者募集(受講者16名) ・9月1日から12月22日まで、毎週月曜(祝日は休講)17時から実施。参加者11～16名 ・懇親会を第11回12月8日の講義後に実施(受講生3名、JRMN4名参加) ・受講者の出欠を共通システムに今回は入力。受講者から毎回質問もあった。 ・講師に今回特に依頼し、講師7名が小レポートの講評を記入、9名がアンケートに回答
5. 日本リスク学会との共 催公開セミナー開 (担当 久保田、刑部)	<p>【計画】昨年度同様、日本リスク学会との共催で公開セミナーを開催する。セミナー開催により、社会におけるリスクリテラシーの向上に資するとともに、JRMN会員のリスクマネジャとしての自己研鑽にも有用となる。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月9日に2025年度第1回リスクマネジャ公開セミナー「PRTRデータを用いた環境管理の展開」を大阪大学中之島センター+ズームで開催 ・第2回に予定していた日本リスク学会の一般公開セミナーは都合により対象にならず。 ・2026年3月28日に第2回を実施予定 ・第1回のセミナーは、建設コンサルタンツ協会のCPD認定セミナーとすることで、リスク管理の考え方を100名以上の人に知ってもらうことができた。
6. 日本リスク学会との連携 (担当 久保田、刑部)	<p>【計画】昨年度同様、日本リスク学会のリスクマネジャ委員会との連携により、リスクマネジメントの社会実装および双方の社会的プレゼンス向上を目指す</p> <p>【実績】日本リスク学会リスクマネジャ委員会に出席(2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本リスク学会リスクマネジャ委員会(3月7日)及び新規リスクマネジャ登録申請審査2024年度の活動実績、2025年度の活動予定の確認(日本リスク学会理事会へ報告) ・リスクマネジャの書類審査への申込が1件あり、承認作業に参加 ・日本リスク学会リスクマネジャ委員会(6月11日)及び青森大学養成講座2025年度第1回リスクマネジャ公開セミナーの実施について ・青森大学東京キャンパスでは、2026年度から防災士の養成を進める講義を開講予定でありリスクマネジャ養成講座としての位置づけを模索。(JRMNにも意見を求められた)
7. サイエンスフェア in 兵庫(担当 西村)	<p>【計画】昨年度同様「サイエンスフェア in 兵庫」に参加し、スーパーサイエンス指定校の学生と教員に、リスクマネジメントの必要性を理解してもらう。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2026年1月25日の「サイエンスフェア in 兵庫」に参加した。 <ul style="list-style-type: none"> ①学生ポスター発表の聞取り 学生のポスター発表を聞取り、アドバイスを8枚提出 ②熊のリスクを例にしたリスクリテラシー向上 旅行した時のリスクについて、現時点での評価と熊についての説明を受けたあとの評価を質問票に記入してもらい、リスクリテラシーの向上をはかる。質問票は47枚回収 ・懇親交流会に参加。 ・名刺交換8名。兵庫県で開催される登山部のインターハイでの熊のリスクが話題に。

8. 他団体との連携 (担当 古澤)	<p>【計画】NPO 法人大阪環境カウンセラー協会 (OECA) や大阪環境ネットと連携し、各団体が関連する環境関係等のイベントに参加する。また各団体の勉強会や見学会にも参加する。昨年度の事業計画になかった項目であるが年度途中から連携でき、今年度も継続して連携をはかる。</p> <p>【実績】NPO 法人大阪環境カウンセラー協会 (OECA) と以下のような連携をはかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪環境ネットへの会員継続 (費用は無料) ・「大阪市こどもカーニバル」(4月20日長居公園で開催) で大阪環境ネットのメンバーとしてワークショップ「葉っぱと遊ぼう CO2 を目で見える実験」を実施。参加者 18 組。 ・「エコ緑日」(11月8日鶴見緑地で開催) で大阪環境ネットのメンバーとしてワークショップ「葉っぱと遊ぼう CO2 を目で見える実験」を実施。参加者 13 組。 ・理事同士の意見交換会 (12月13日)
【状況に応じて取組む事業】	
9. 講師派遣 (担当 古澤)	<p>【計画】講師派遣により、環境またはリスク管理に関する知見を提供することで、社会貢献に資する。また、講師となった会員のスキル向上にもつなげていく。</p> <p>【実績】</p> <p>今年も知の市場「防疫薬総合管理」に講師を1名派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月8日 古澤理事「リスクと便益について学ぶ」
10. 講演会開催 (JRMN 独自セミナー) (担当 古澤)	<p>【計画】タイムリーなテーマでセミナーを開催することは、社会におけるリスクマネジメントの普及、会員のリスクマネージャとしての自己研鑽、JRMN の社会的存在意義の向上に資する。</p> <p>今年度は、状況に応じて企画・実施する。</p> <p>【実績】</p> <p>日本リスク学会との共催の「リスクマネージャ公開セミナー」を充実させるため今年度は実施せず</p>

●JRMN2025年事業の全体概要図



2025年度 活動カレンダー

活動実績

年	月	週(日曜～土曜)			日	曜日	予定									
		第1	第2	第3			第4	第5	会合	勉強会等	知の市場	その他	備考			
2025 令和 7年	1	第1		～	1/4											
		第2	1/5		～	1/11	2025/1/6	月								
								2025/1/11	土	理事会		第14回(最終)				第2土曜日
		第3	1/12		～	1/18										
	2	第4	1/19		～	1/25										
		第1	1/26		～	2/1	2025/1/26	日						サイエンスフェア兵庫		
							2025/2/1	土	理事会(第1土曜) (事業報告等)							
		第2	2/2		～	2/8	2025/2/8	土		学会共催セミナー				総会資料発送		大阪大学中之島センター
	3	第3	2/9		～	2/15										
		第4	2/16		～	2/22										
		第1	2/23		～	3/1	2025/2/24	月	総会・理事会	報告会(総会のあと)						大阪大学中之島センター
							2025/3/1	土	執行理事会							
	4	第2	3/2		～	3/8	2025/3/7	金						リスクマネジメント委員会		
							2025/3/8	土	理事会							第2土曜日
		第3	3/9		～	3/15										
		第4	3/16		～	3/22	2025/3/19	水				終了証他送付				
		第5	3/23		～	3/29										
	5	第1	3/30		～	4/5	2025/4/4	金	執行理事会							
		第2	4/6		～	4/12	2025/4/12	土	理事会 情報交換会(西村)							第2土曜日
		第3	4/13		～	4/19										
		第4	4/20		～	4/26	2025/4/20	日						大阪市子どもカーニバル		
	6	第1	4/27		～	5/3	2025/5/3	土						会員交流集会 田植え体験		
							2025/5/4	日						会員交流集会 田植え体験		
		第2	5/4		～	5/10										
		第3	5/11		～	5/17	2025/5/17	土		勉強会						
	7	第4	5/18		～	5/24										
		第1	5/25		～	5/31	2025/5/29	木				キックオフミーティング				
		第2	6/1		～	6/7										
		第3	6/8		～	6/14	2025/6/14	土	理事会							第2土曜日 大阪駅前
	8	第4	6/15		～	6/21										
		第5	6/22		～	6/28	2025/6/23	月				キックオフミーティング				
		第1	6/29		～	7/5										
		第2	7/6		～	7/12	2025/7/12	土	理事会 情報交換会(池田)							第2土曜日
	9	第3	7/13		～	7/19										
		第4	7/20		～	7/26										
		第1	7/27		～	8/2										
		第2	8/3		～	8/9	2025/8/9	土		共催セミナー						第2土曜日
	10	第3	8/10		～	8/16										
		第4	8/17		～	8/23										
		第5	8/24		～	8/30	2025/8/30	土	執行理事会							
		第1	8/31		～	9/6	2025/9/1	月				第1回				
	11	第2	9/7		～	9/13	2025/9/8	月				第2回				
							2025/9/13	土	理事会 情報交換会(久保田)							第2土曜日
		第3	9/14		～	9/20	2025/9/20	土								
		第4	9/21		～	9/27	2025/9/22	月				第3回				
	12						2025/9/23	火						会員交流集会 稲刈り体験1		
		第1	9/28		～	10/4	2025/9/29	月				第4回				
		第2	10/5		～	10/11	2025/10/6	月				第5回				第2土曜日
第3		10/12		～	10/18											
13	第4	10/19		～	10/25	2025/10/20	月				第6回					
	第1	10/26		～	11/1	2025/10/27	月				第7回					
	第2	11/2		～	11/8	2025/11/8	土						エコ縁日		第2土曜日	
	第3	11/9		～	11/15	2025/11/10	月				第8回					
14						2025/11/15	土	理事会					サイエンスフェア準備			
	第4	11/16		～	11/22	2025/11/17	月				第9回					
						2025/11/21	金						サイエンスフェアズーム打合せ			
	第5	11/23		～	11/29											
15	第1	11/30		～	12/6	2025/12/1	月				第10回					
						2025/12/2	火						サイエンスフェア熊勉強会			
	第2	12/7		～	12/13	2025/12/8	月				第11回		サイエンスフェア打合せ(知の市場の前)			
						2025/12/13	土	理事会 (事業計画等)					サイエンスフェア打合せ(理事会の後)		第2土曜日	
16	第3	12/14		～	12/20	2025/12/15	月				第12回					
	第4	12/21		～	12/27	2025/12/22	月				第13回					
	第1	12/28		～	1/3											
					日数	43		13	4	17	13					

2. 組織・執行体制・会員数

1) 組織

2025年度の組織図を次図に示す。業務執行理事ごとの業務分担は現状とあわないことから記載せず、執行理事会を随時開き別途協議している。

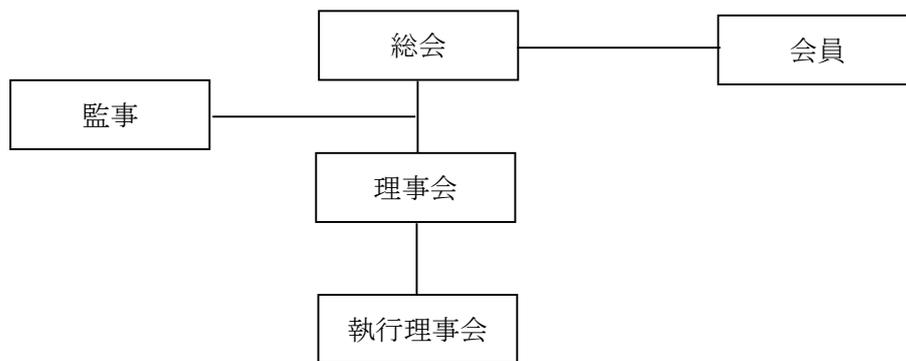


図 2-1 組織図

2) 執行体制

総会及び臨時理事会で2025年度の執行体制は次のとおりとした。

表 2-1 執行体制

	役職	氏名	任期(年度)	備考
理事	代表理事	久保田俊美	2025～2026	
	業務執行理事	西村 庄司	同上	
	業務執行理事	古澤 啓一	同上	
	業務執行理事	刑部 忠彦	同上	
	理事	宮崎 隆介	同上	
	理事	石橋 博	同上	
	理事	池田 博幸	同上	
	監事	奥村 勝	2025～2028	

定款上の規定：理事（5～10名）うち 代表理事1名 業務執行理事3名
監事（2名以内）

3) 会員数

2025年度末の会員数は、2025年度と同じ21名であった。

3. 事業報告

● 精力的に取り組む事業

3.1 環境リスク等勉強会

1) 目的・経緯

環境リスクを体系的に整理、環境リスクの最新の知見に関する勉強会を実施し、会員のレベルの向上をはかる

さらに、勉強した結果を公表することで社会的知見を増やし社会に貢献する。

環境リスクに関する知見は日々更新されており勉強は重要である。

しかし、リスクマネジャの資格をとってから体系的な勉強ができていないのが現状である。

2) 活動内容

当初予定では、年4回程度(理事会の開催がない月)で、環境と一般にわけてテーマを設定し実施する予定であった。

結果は、回数は1回の実施にとどまった。実施予定のテーマ及び活動結果は以下のとおりである。

表 3-1 環境リスク等勉強会の活動結果

回	日時	内容	備考
第1回	5月17日	(環境) 第1回化学物質のリスク管理について	90分
第2回	中止	(一般) 第2回スマホを例にリスク管理について学ぶ	
第3回	中止	(環境) 第3回SDGsと環境リスク管理について	
第4回	中止	(一般) 第4回スポーツにおけるリスク管理について	

3) 活動成果

第1回勉強会の記録を次ページに示す。

表 3-3

環境リスク等勉強会記録（第1回）

JRMN 勉強会・研修会（計画案）

1	タイトル（テーマ）	化学物質のリスク管理について
2	開催趣旨・目的	化学物質のリスク管理について、これまでの問題点、これからの問題点を学ぶ。 さらにPFASについてその問題点について学ぶ。
3	主催	JRMN
4	開催日時	2025年5月17日（土）13:30～15:00（90分）
5	開催場所（方法）	オンライン（ズーム）
6	対象者	JRMN会員
7	定員・参加費	定員：30名以下 参加費：なし
8	教材	1) 国立環境研究所動画チャンネル 2024/09/05 22分 公開シンポジウム創立50周年特別講演「ヒトと生き物の安全・安心のために」 https://www.youtube.com/watch?v=8y81U346jdY 2) 国立環境研究所動画チャンネル 2023/09/14 5分 【わたしたちの暮らしと化学物質④】強い？弱い？遺伝子タイプでかわる！ https://www.youtube.com/watch?v=FXhvK8I40DY 3) NHK（ユーチューブ）2023/06/12 8分 PFAS 汚染の実態 身体への影響は？米軍基地や工場周辺から相次ぎ検出 [クロ現] NHK https://www.youtube.com/watch?v=IbFe_NedSmI
9	プログラム	1. ユーチューブ視聴 ・これまでの有害化学物質の問題 ・現在・これからの有害化学物質の問題等 2. 上記に関するディスカッション 3. ユーチューブ視聴 ・PFAS他について 4. 上記に関するディスカッション
10	告知媒体等	告知媒体：JRMNメーリングリスト 告知日：5月12日 申込締切日：今回はなし
11	実施体制（役割分担）	世話役：刑部 とりまとめ：刑部
12	予算等	参加費：なし JRMN負担金（予定）：なし
13	個人データの安全管理	JRMN個人データ取扱要領に従う

その他の化学物質の話題：農薬のリスク管理、食品安全委員会のユーチューブ

環境リスク等勉強会記録 2025.5.17 開催

件名	環境リスク等勉強会(2025 第1回)
目的	化学物質のリスク管理について、これまでの問題点、これからの問題点を学ぶ。 さらにPFASについてその問題点について学ぶ。
日時	2025年5月17日(土) 13:30~15:00
場所	(開催方法)Zoom
参加者	久保田、西村、刑部(3名)
項目	化学物質のリスク管理について
教材	<p>話題 1-1)国立環境研究所動画チャンネル 2024/09/05 22分 公開シンポジウム創立50周年特別講演「ヒトと生き物の安全・安心のために」</p> <p>1-2)国立環境研究所動画チャンネル 2023/09/14 5分 【わたしたちの暮らしと化学物質④】強い？弱い？遺伝子タイプでかわる！</p> <p>話題 2)NHK(YouTube) 2023/06/12 8分 PFAS 汚染の実態 身体への影響は？米軍基地や工場周辺から相次ぎ検出 [クロ現] NHK</p>
結果感想	<p>1)化学物質のリスク管理のこれまでの問題点、これからの問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前は化学物質で問題となったのは特定の発生源であったが、最近は発生のメカニズムが複雑で、範囲も広範囲となっている。 ・化学物質のライフサイクルの管理が重要。拡大生産者責任を廃棄まで含める必要がある。 ・年表形式の問題の分類がわかりやすかった。 ・環境ホルモンは最近話題になっていないが、欧米では規制強化が進んでおり日本でも新規化学物質の影響検討が必要になってくるのではないかと。 <p>2)PFASについてその問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生源が特定できておらず、影響が出る過程も複雑になっている。 ・規制するにしても難しい。 ・急性毒性はなく、体内への蓄積性もなく徐々に排出され、病気になるリスクがどれくらい高くなるというかも研究されている段階で注視が必要。
懸案事項 予定等	
備考	

4) 振り返り・今後の課題等

- ・開催回数は環境分野の1回であったが、参加者から多様な意見がだされ有意義な勉強会であった。
- ・昨年同様、参加人数が、少なかった。内容はいいものであったことから、参加者が増えるような広報、呼びかけが必要である。

3.2 情報交換会（意見交換会）

1) 目的・経緯

会員はそれぞれの分野で、高い専門知識があり、また現状での関心事について調査研究している方もおられる。そこで、情報交換会として各回で一人の人からそれら知見について話題提供してもらい、参加した会員のスキルアップにつなげることを目的とする。

2022年度から実施し、2022年度は4回実施し、2023年度は1回、2024年度は4回実施している。

2) 活動内容

今年度は年間で4回程度、理事会の後で1時間程度の時間で実施する予定であったが3回の実施にとどまり、4月、7月、9月の各理事会のあとで1時間程度の時間で実施できた。

活動内容は以下のとおりである。

表 3-5 情報交換会の活動内容

回	日時	内容	担当
第1回	4月12日	労働安全衛生とリスクマネジメント	西村理事
第2回	7月12日	令和7年版環境白書について	池田理事
第3回	9月13日	探求学習のPC×Rサイクル	久保田理事
第4回	中止		

3) 活動成果

各回の情報交換会の資料を当会HPにアップした。

なお、第3回の探求学習の会では、久保田理事から探求学習に関する書籍の提供があった。

4) 振り返り・今後の課題等

- ・各回とも、参加者から多様な意見がだされ有意義な情報交換会であった。
- ・参加人数が、1回目5名、2回目5名、3回目6名と少なかった。内容はいいものであったことから、勉強会同様、参加が増えるような広報、呼びかけが必要である。
- ・次年度も実施していくのが望ましい。その際、情報の提供者として、理事以外の会員に積極的に呼びかけていくことが望ましい。また参加者を増やすため、勉強会同様、会員以外の参加も検討していくなどの工夫も必要である

表 3-6

JRMN 会員の意見交換会（2025年4月度）

日 時	2025年4月12日（土） 15:00~16:00（理事会のあと）
参 加 者	5名
開 催 方 法	枚方事務所（ZOOMの参加者を募集したが参加はなかった）
世 話 人	西村
テ ー マ	「労働安全衛生とリスクマネジメント」
資 料 等	事前資料としてパワーポイント49枚＋口頭での実施例
概 要	1. 労働環境における化学物質リスク管理に関する説明 2. 鉛管理に関する事例を説明
参加者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法律や規則が十分守られていないとリスクが発生する事例でその対応を今回うまくやられた。 ・ 対象企業は従業員が40名程度の中小企業でありリスク対応まで手がまわっていない事例であった。 ・ 労働安全衛生における化学物質のリスクアセスメントは今ホットな案件であり、今回ののは貴重な事例となる。
世話人の振返	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前資料の配付が遅れた。 ・ 参加者が限られていたため、事例で口頭で会社名を話したが、守秘義務を考慮した資料づくりが必要である。 ・
参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な例でわかりやすかった。 ・ 安全衛生等その分野の専門家との協働が重要であるとわかった。 ・ 1カ月でチェックリストを含む報告書を取りまとめたのは素晴らしいと思った。
備 考	

表 3-7

JRMN 会員の意見交換会（2025 年 7 月度）

日 時	2025 年 94 月 13 日（土） 14：40～15：30（理事会のあと）
参 加 者	5 名
開 催 方 法	枚方事務所 5 名
世 話 人	池田
テ ー マ	「令和 7 年版環境白書について」
資 料 等	環境白書概要版 12 ページ、環境関連用語集 1 ページ
概 要	1. R7 年度の取組の概要を確認 2. 環境関連の用語について確認
参加者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・「TNFD」（Taskforce on Nature-related Financial Disclosures：自然関連財務情報開示タスクフォース）を最近知る機会があり環境関連の動向をおっていく必要がある。 ・温室効果ガス削減における SCOP1～3 の考え方は、以前からあったとのことであるが、再認識できた。
参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・最新の環境白書を知る機会となりよかった。 ・環境関連の情報収集は大事であると改めて思った。
備 考	

表 3-8

JRMN 会員の意見交換会（2025年9月度）

日 時	2025年9月13日（土） 14:40~15:50（理事会のあと）
参 加 者	6名
開 催 方 法	枚方事務所5名+ZOOM1名
世 話 人	久保田
テ ー マ	「探求学習のPC×Rサイクル~よりよく問題を発見していくために~」
資 料 等	<ul style="list-style-type: none"> ・教材（PPT） ・「粘土鉱物から学ぶ自然科学とサステナブルな地球のしくみ」 持続可能な地球のための教育 実行委員会 ・「ハロウィンイベント（和泉リサイクル環境公園内）」10月26日（日）10時~12時 主催：大栄環境グループ和泉リサイクル環境公園
概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校学習指導要領（2018年）の改訂に伴い、指導経験の有無にかかわらず、一定の探究成果が期待できる指導方法「探究学習のPC×Rサイクル」が環境探究学研究会によって開発された。 ・探究学習とは、生徒が自らの興味や関心に基づき、課題を見つけ、深く掘り下げて解決策を探し出す学習プロセスのこと ・「リスクマネジメントプロセス（JISQ31000）」と「探究学習のPC×Rサイクル」には、その目的、プロセスならびに主体性など多くの共通項があり、リスクマネージャのリスクアセスメントにおける実践の質の統一が図れる。 ・又、探究学習の課題設定には社会との接点をテーマにすることも多く、生徒自ら導き出した（環境リスクにかかる）探究課題の解決のため、リスクマネージャによる探究学習の支援（＝社会的実践）ができ、JRMNのプレゼンスの向上に寄与するものとする。
参加者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を読んでみたい。 ・
世話人の振返	<ul style="list-style-type: none"> ・私自身、教材「探究学習のすべて PC×Rサイクルによる指導原理と評価法」をすべて網羅した訳でもありませんが、少なからず関心を示してくれた会員がいたことに安堵しています。 ・今回のご紹介は、高等学校学習指導要領の改訂に伴う「探究学習のPC×Rサイクル」のプロローグなので、関心が高いようであれば、有志の会員共々自己研鑽に努めたい。
参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・面白い内容で参考になった。 ・本まで頂けてありがたかった。
備 考	

3.3 深読み会・ディスカッショングループ

1) 目的・経緯

2024年度は、東元理事を中心に、ディスカッショングループとして、「使用済み核燃料の処分をどうするか」をテーマに、『核のゴミをどうするか』（今田高俊他著）の書籍をもとに、調査・研究を行い、メンバー間の自由で活発なディスカッションを実施した。2025年度はディスカッショングループの担当者が不在となることから、2025年度の実施方法を参考に、1冊の本を参加者全員で読み込み意見交換しあう、「深読み会」として実施する方向とする。この活動を通し、一つのテーマについて参加者の見識を深め、あわせて会の活性化に貢献することを目的とする。

2) 深読み会での対象本

日本リスク学会の桑垣理事より、リスクについて興味深く書かれている次の5冊の本を紹介頂いた。担当者はすべての本を読んだうえで、⑤の続編の「世界は基準値でできいる」が深読み会で取り上げる本として妥当と判断した。

①安全四学 ―安全・安心・ウェルビーイングな社会の実現に向けて（2021）

向殿 政男, 北條 理恵子, 清水 尚憲 2,420円

https://webdesk.jsa.or.jp/books/W11M0100/index/?syohin_cd=330708

※基礎的な内容だけでなく新しい提案も含まれており議論の余地もあると思いました。

②科学技術の失敗から学ぶということ リスクとレジリエンスの時代に向けて

（2020）寿楽浩太、1800円

<https://www.ohmsha.co.jp/book/9784274225666/>

※事故の背景や組織責任について事例を中心に読みやすくまとめられています。著者に講義も頼めます。

③グリーン戦争―気候変動の国際政治（中公新書 2807）（2024）上野貴弘

※昨今話題のテーマです。同僚の本です…。著者に講義も頼めます。

④未来倫理（集英社新書）（2023）戸谷洋志

※哲学の本ですが読みやすいです。環境、原子力などの世代間リスクについて語られています。

⑤基準値のからくり、村上道夫ほか

<https://www.kodansha.co.jp/book/products/0000194829>

→改訂版が出されるということだったので…出版されたらそちらでも。

3) 深読み会実施結果・課題

深読み会については、実施予定であったが、担当者が多忙で開催日を特定するなど、詳細を決定することができず実施できなかった。次年度は担当者を増やすなど実施体制を整える必要がある。

●継続的に取り組む事業

3.4 知の市場

1) 目的・経緯

昨年度同様、「防疫薬総合管理セミナー」の運営を担当した。講座は主にオンラインで行ったが、関西大学で一部ハイブリッドでの講座も行った。

なお、当会として今年度は、昨年度同様、防疫薬総合管理セミナーに講師を派遣し、今年度は13講座の内1講座を担当することとなった。

2) 活動内容

活動内容のうち、主な内容を以下に示す。

なお、下表以外に、知の市場システム上での申込準備、教室の確保、受講者の確認、講師資料の確認・システムへアップ、各回のズーム URL の連絡、成績等の取りまとめなどの活動がある。

また、2024年度の課題（次ページ）より、受講生が質問しやすい状況を作ること、講師の小テストのフィードバックとアンケートの記入を毎回講師にお願いすることに取り組んだ。

表 3-19 知の市場に関する活動内容

年月日	活動内容	方法	備考
	関西大学福永先生訪問 今年度の講義の予定などを確認		
2025.5.29	キックオフミーティング		活動記録添付
2025.6.23	キックオフミーティング第2回		活動記録添付
	手嶋さん、西村理事が関西大学へあいさつに 防疫薬総合管理セミナーの案内文作成		案内文添付
2025.7.22	JRMN ホームページで申込受付の開始を発信 (受付は知の市場システム利用)		
2025.9.1	第1回防疫薬総合講座開始	ハイブリッド	シラバス添付
	講義ごとに講師に、小レポートの結果をワードに取り纏めたものと受講生のアンケート結果をメールで送り、フィードバックとアンケートをお願いした。		
	知の市場事務局へ 2026 年度防疫薬総合講座 (案)を提出。来年度も継続で講座を行う予定		2026 年度予定
2025.12.8	JRMN 担当回「リスクと便益について学ぶ」 古澤講師 講義後懇親会 受講生 3 名講師 1 名、JRMN	ハイブリッド	
2025.12.22	第 13 回（最終回）防疫薬総合講座終了		
2026.1.26	受講生最終レポート締切り		
	関西大学訪問（終了証を連名で発行することの確認）		
	終了証等の受講者への発行		

(参考資料) 2024 年度の課題

①運営

- ・ズームの設定、運用を忘れそうになる
- ・受講生へズーム連絡の遅れ
- ・受講生の出席の定義の伝達の不具合
- ・出席状況を共通システムに入力できていない

②講師

- ・講師からの資料の遅れ
- ・小レポートへのコメント少ない
- ・最終レポートへのコメント
- ・アンケートへの回答が少ない

③受講生

- ・質問等が少ない（講師とのやりとりが少ない）
- ・小レポートの提出遅れ
- ・小レポートは提出したが最終レポートを提出しない人が若干名いた
- ・小レポート提出者が徐々に減少した
- ・大学院生の参加が徐々に減少し、最終レポートを提出した人はいなかった

表 3-20 渉外活動記録（2025.5.29 知の市場事前打合せ）

件名	2025 年度知の市場 防疫薬総合講座 事前打合せ
目的	キックオフミーティング
日時	2025 年 5 月 29 日（木） 16 : 00～
場所	ズーム
相手	安部様、手嶋様
担当	西村理事
内容	1. シラバスの確認 シラバスは東氏担当分を削除し、1 3 回とすることを確認した 2. チラシの確認 チラシの体裁は OK であり、内容については一部修正する 3. 講師の確認 手嶋さんから昨年度の講師に連絡し、6/13 までに返事を頂く 4. 今後の予定 次回事前打合せ 6/23(月)16:00～
備考	6/4 に西村理事が「関西大学の共催と教室について福永教授から承諾のメールをいただきました。」

渉外活動記録（2025.6.23 知の市場事前打合せ第2回）

件名	2025 年度知の市場 防疫薬総合講座 事前打合せ第2回
目的	キックオフミーティング第2回
日時	2025 年 6 月 23 日（月） 16：00～16：50
場所	ズーム
相手	安部様（日本環境動物昆虫学会理事）、手嶋様（日本家庭用殺虫剤工業会）
担当	西村理事、刑部理事、久保田理事
内容	<p>1. シラバス・講師の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手嶋さんが今年の講師を確認したところ 2 名が同じ会社での引継ぎ者に変更があった。 ・日程は、No3 と No4 を講師の都合で入れ替えた。 ・所属の欄の住友化学健康・農業関連事業研究所の名称が変更となっているので修正が必要である。 <p>2. チラシの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募締め切りは、直前に申し込んでくる人がいるため 8/29(金)としている。9/1 までの 2 日で直前の申込者には対応できる。 ・応募開始は 6/16 でよいが、安部さんから「日本環境動物昆虫学会」への連携機関としての確認が必要であり、シラバス各程度 2 週間程度必要。 ・手嶋さんから業界の PCO（ペストコントロールオーガナイザー）新聞へ講座の案内を 7/1 に掲載してもらう予定であり、調整して頂く。 <p>3. 運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業会から JRMN への支払いは連絡だけで今年に対応できる。（昨年度は久保田理事が工業会事務局へ訪問した） <p>4. 昨年度の反省と今年度の改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刑部理事より、知の市場の体制の説明、昨年度の実施結果について説明があった ・受講者 22 名のうち最終レポート提出は 12 名と少なかった ・受講者の満足度は、満足と回答があったので平均 90% で高かった ・講師の受講者へのレポートへのコメントが 3 名と少なかった ・講師の本講座についてのアンケート回答が 1 名であり少なかった ・各回の質問が少なく講師とのやりとりが少なかった。 ・今年度は、講師へのコメント作成、アンケート回答について呼びかけていく ・講義での質問についてはチャット機能の利用を呼び掛けていく <p>5. 今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手嶋さん、西村理事のほうで、関西大学へあいさつに行く。 ・申し込み受け付けは JRMN のホームページへ掲載する
備考	

(参考資料)

【知の市場の概要】(応募及び受講に関する規定より)

1. 基本条件

(1) 知の市場は、強い学習動機と積極的な参加意思を有する者が、自由に受講科目を選択して自己責任により学ぶ場である。

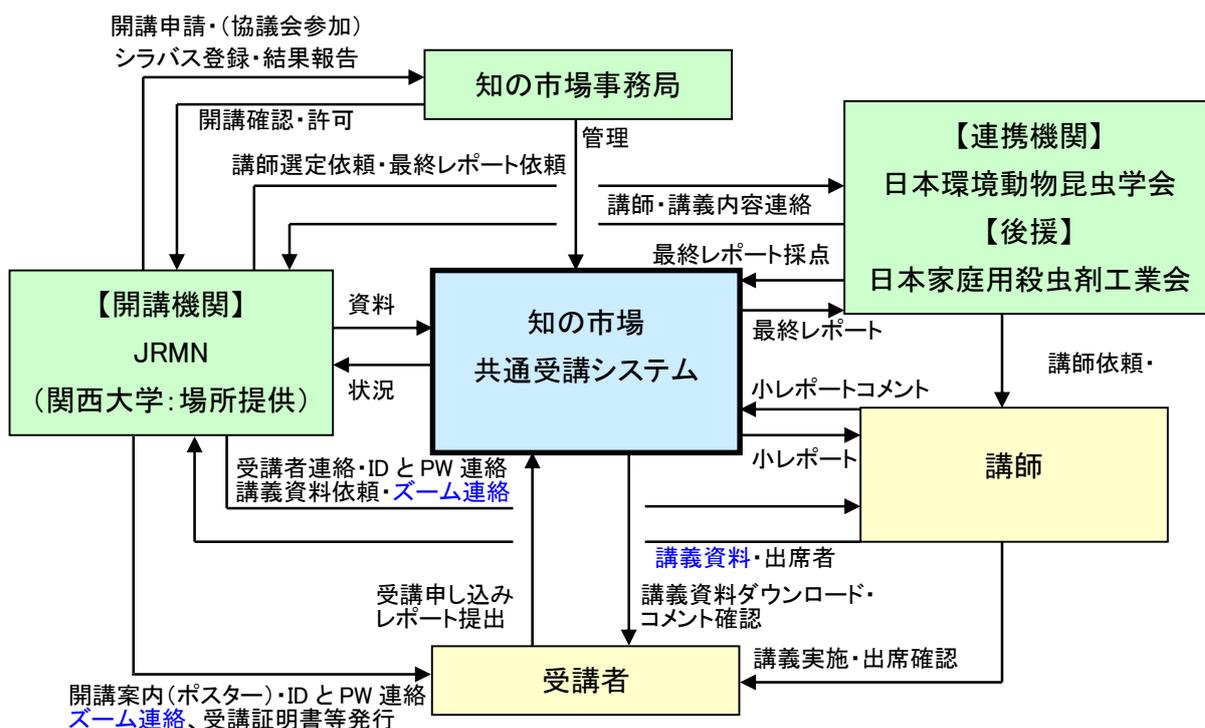
2. 受講科目応募の資格

(1) 開講する科目に関心のある社会人(学生、大学院生を含み、年齢、男性・女性の別を問わない。)で、継続して講義に出席すること。

3. 受講料

共催講座については原則無料である。ただし、一部の科目においては資料代など実費程度を徴収することがある。なお、ボランティア精神に基づく自由な意思による資金や役務の提供などの貢献を歓迎する。関連講座については、開講機関が知の市場の理念を踏まえつつ別途定める。

【防疫薬総合管理の実施体制】(受講システムの利用は無料)



受講者募集

— 受講料無料 —

知の市場関連講座

第15回防疫薬総合管理セミナー

身近な生活・環境害虫防除

日本が世界をリードしてきた家庭用殺虫剤や、ハエ・蚊・ゴキブリ・ダニなどの身近な生活環境害虫の防除技術など、充実した講義内容と講師陣です。

開講日時

2025年9月1日～2025年12月22日（全13回）17:30～19:30（毎週月曜日）
講義は、オンライン（Zoom）、ハイブリッド（オンライン+関西大学での対面）併用で実施します

講義内容

	講義日	科目構成	講義内容
1	9月1日	害虫防除の歴史	講義概要説明害虫防除の歴史とその役割
2	9月8日	害虫の生態と防除Ⅰ	衛生、不快害虫、その他の生態とその防除策
3	9月22日	家庭用殺虫剤	家庭用殺虫剤の製剤の特徴と使い方
4	9月29日	害虫の生態と防除Ⅱ	害虫の習性を利用した駆除
5	10月6日	家庭用殺虫剤	家庭用殺虫剤の開発とその背景
6	10月20日	害虫防除剤の開発	害虫による被害と防除剤開発の実際
7	10月27日	害虫防除の実際	薬剤による害虫防除の課題とPCOの取り組み
8	11月10日	ベクター防除技術	マラリアを防除するオリセットネット(防虫蚊帳)
9	11月17日	木材害虫	木材害虫防除
10	12月1日	製剤とその利用技術	家庭・防疫用殺虫剤新規製剤の特徴と使用方法
11	12月8日	リスクマネジメントの基礎	リスクと便益について学ぶ
12	12月15日	安全性	防疫薬の登録と安全性
13	12月22日	総合防除	防疫薬の今後の方向

応募資格

年齢・性別不問（講義内容に関心があり、継続して講義に出席する意志のある方）

受講料

無料（受講終了後、成績判定基準に基づいて、受講修了証が発行されます）

募集期間

7月16日～8月29日（定員30名）

申込み先

一般社団法人 日本リスクマネージャネットワーク (<https://jrmn.net/>)
のURLまたは添付のQRコードからホームページに入り、お申し込みください

会場

オンライン（Zoom）、ハイブリッド（オンライン+関西大学での対面）併用
受講登録された方にはZoom接続用URLをお送りします



開講機関：日本リスクマネージャネットワーク
／関西大学化学生命工学部
連携機関：日本環境動物昆虫学会
後援：日本家庭用殺虫剤工業会
問い合わせ先：日本リスクマネージャネットワーク
(jrmn.office2023@jrmn.net)

2025年6月23日

表 3-21 防疫薬総合管理セミナーシラバス

2025年度後期		知の市場(シラバス)					継続				
科目No.	関連講座JK131b	科目名	防疫薬総合管理				副題	身近な生活・環境害虫防除—世界をリードする防疫薬と害虫防除技術—			
連携機関名	日本環境動物昆虫学会	水準	中級	教室定員	-	配信定員	30	講義日時	月曜日17:30~19:30	拠点 (開講機関)	大阪(日本リスクマネージャネットワーク・関西大学化学生命工学部)後援:日本家庭用殺虫剤工業会
科目概要	熱帯地域には多くの感染症が流行し、これらが大きな経済的損失をもたらしてさらなる貧困を生み出している。その最大の原因のひとつはマラリアであり、その他にデング熱、日本脳炎、黄熱病などがあり、いずれも蚊が媒介する感染症である。最近の世界のマラリアの感染者数は年間約2億3千万人、死者数はサハラ砂漠以南のアフリカの5歳以下の子供を中心に約62万人と報告されている。主なマラリア対策として、殺虫剤を家屋内に残留処理することやピレスロイド殺虫剤を含有させた蚊帳などの使用により、ベクターである蚊の防除が行われている。また、近年の人々の移動のグローバル化により、特定の地域の熱帯病であったものが、我が国の2014年のデング熱の感染例のように、容易に他地域に拡大する事態も増えている。一方、風土病、熱帯病が減少した先進地域では、人々の快適な生活を維持するために、不快害虫などの防除が不可欠になっている。これらの防除には、ピレスロイドなどの安全性が高い殺虫剤が使用されており、これら薬剤の開発では日本が常に世界をリードしてきた。本講座では、防疫薬・家庭用殺虫剤を用いた害虫防除について、各分野の専門家が、防除の歴史、社会的役割、薬剤の開発、使用技術の改良、安全性の確保および新たな技術などについて解説する。併せてリスクリテラシーの育成のためリスクマネジメントの基礎について学ぶ。										
科目構成	No.	講義	講義概要				講義日	講義場所	取組み	講師	所属
害虫防除の歴史	1	講義概要説明 害虫防除の歴史とその役割	害虫防除法の歴史、背景とその役割について紹介する。				2025/9/1	関西大+オンライン (Zoom)	手嶋 勇人 (顧問:安部 八洲男)	手嶋 勇人	日本家庭用殺虫剤工業会
害虫の生態と防除Ⅰ	2	衛生、不快害虫、その他の生態とその防除策	感染症を媒介する衛生害虫、気持ち悪い、臭い、刺されると痛いなどの不快害虫、衣服を食害する衣料害虫など(節足動物や軟体動物も含め)の分類・生態・被害状況とその対策について紹介する。				2025/9/8	オンライン (Zoom)		岡本 央	住友化学 アグロ&ライフソリューション研究所
家庭用殺虫剤	3	家庭用殺虫剤の製剤の特徴と使い方	家庭用殺虫剤や人体用忌避剤はWHOが感染症媒介害虫対策として推進しているプライマリーヘルスケア(PHC)において重要な役割を担っている。家庭用殺虫剤の歴史、製剤・製品の変遷、並びにそれらの特徴と正しい使い方について概説する。				2025/9/22	オンライン (Zoom)		手嶋 勇人	日本家庭用殺虫剤工業会
害虫の生態と防除Ⅱ	4	害虫の習性を利用した駆除	食品衛生害虫の代表として、飲食店の厨房や一般家庭の台所に出没するゴキブリが挙げられる。また、家屋害虫の代表として、家屋・建造物などの木質部を食害するシロアリが挙げられる。これらの害虫を中心として、害虫の生態、習性を利用した防除法の考え方や実例を紹介する。				2025/9/29	オンライン (Zoom)		田中 豊一	(元)ダスキン
家庭用殺虫剤	5	家庭用殺虫剤の開発とその背景	過去に上市された製品について、①時代背景②開発の経緯③開発の課題について、幾つかの事例を基に概要を解説し、家庭用殺虫剤の変遷を紹介する。				2025/10/6	オンライン (Zoom)		菊田 幸雄	大日本除虫菊中央研究所
害虫防除剤の開発	6	害虫による被害と防除剤開発の実例	私たちの周囲には、人または人の生活に被害をもたらす色々な虫たちが生息している。それらの被害は多岐に渡っており、その被害防止のために様々な防除剤が開発されている。これら防除剤を開発する上での留意点とポイントを実例を交えて紹介する。				2025/10/20	オンライン (Zoom)		野村 美治	アース製薬 研究開発本部
害虫防除の実例	7	薬剤による害虫防除の課題とPCOの取り組み	防疫用殺虫剤の歴史と法律による現場防除の課題。また、実際の現場環境の違いによるPCOの駆除業務。防疫用殺虫剤の特長を生かした、各害虫への防除機材の選択。				2025/10/27	オンライン (Zoom)		五十嵐 真人	麟図商事
ベクター防除技術	8	マラリアを防除するオリセットネット(防虫蚊帳)	世界三大感染症の一つであるマラリアへの対策として、オリセットネットをはじめとする殺虫剤を含有した長期残効性防虫蚊帳がマラリア流行地帯に配布され、大きな効果を上げてきている。オリセットネット開発の経緯、マラリアコントロールの現状、および今後の展望等について解説する。				2025/11/10	オンライン (Zoom)		大橋 和典	住友化学 アグロ&ライフソリューション研究所
木材害虫	9	木材害虫防除	主として木造建造物の主要害虫であるシロアリや、近年被害が増加しているアメリカカンザイシロアリ、ヒラタキクイムシ類について、その生態や被害等状況を紹介する。更に、その防除方法についても解説する。				2025/11/17	オンライン (Zoom)		馬場 庸介	住化エンバイロメンタルサイエンス 研究開発本部
製剤とその利用技術	10	家庭・防疫用殺虫剤新規製剤の特徴と使用方法	家庭・防疫薬分野においては、新しい特徴を有する有効成分の発見に伴い、その効能を最大限に発揮するために、今まで各種製剤が提案されてきている。主として殺虫剤における製剤化の意義と、新しい家庭・防疫用殺虫剤製剤に関する基本技術について解説する。				2025/12/1	オンライン (Zoom)		山崎 誠司	住化エンバイロメンタルサイエンス 研究開発本部
リスクマネジメントの基礎	11	リスクと便益について学ぶ	リスクについての考え方やリスク評価と便益との関係についての基礎知識を学ぶ。				2025/12/8	関西大+オンライン (Zoom)		古澤 啓一	日本リスクマネージャネットワーク
安全性	12	防疫薬の登録と安全性	日本(薬機法、化審法、毒劇法など)をはじめ、米国EPA(FIFRA)やEU(EUBPR)、その他世界各国の防疫薬登録制度について解説する。また、防疫薬を使用する消費者の安全性を担保するために必要なデータと意義、消費者リスクの評価法についても解説する。				2025/12/15	オンライン (Zoom)		山口 尊史	住友化学 生活環境事業部
総合防除	13	防疫薬の今後の方向	人々の生活の都市化や、住宅構造、生活様式などの外部環境の変化や、化学物質の安全性に対する人々の意識の増加などから、防疫薬に対するニーズも変化し、それに対応して防疫薬も変革が必要とされる。ここでは、防疫薬が抱えている今までの問題点と今後の方向について考える。さらに、総合防除(IPM)の考え方について解説する。				2025/12/22	オンライン (Zoom)		安部 八洲男	(元)大阪青山大学

3) 活動成果

各講義での、出席人数・小レポート提出者数、講師のフィードバック数・アンケート数を次ページに示す。

① 受講者数

16名

② 出席状況

14名が修了証 優秀賞が3名、皆勤賞4名

2025年度後期 防疫薬総合講座 実施結果

科目構成	No.	講義	講義日	講師	所属	受講生(人数)		受講生(率)		講師	
						出席	レポート提出	出席	レポート提出	コメント数	アンケート
害虫防除の歴史	1	害虫防除の歴史とその役割	2025/9/1	手嶋勇人	日本家庭用殺虫剤工業会	16	16	100%	100%	0	0
害虫の生態と防除 I	2	衛生、不快害虫、その他の生態とその防除策	2025/9/8	岡本 央	住友化学 アグロ&ライフソリューション研究所	16	16	100%	100%	1	1
家庭用殺虫剤	3	家庭用殺虫剤の製剤の特徴と使い方	2025/9/22	手嶋勇人	日本家庭用殺虫剤工業会	11	12	69%	75%	0	0
害虫の生態と防除 II	4	害虫の習性を利用した駆除	2025/9/29	田中豊一	(元)ダスキン	13	15	81%	94%	15	1
家庭用殺虫剤	5	家庭用殺虫剤の開発とその背景	2025/10/6	菊田 幸雄	大日本除虫菊 中央研究所	15	16	94%	100%	0	0
害虫防除剤の開発	6	害虫による被害と防除剤開発の実際	2025/10/20	野村美治	アース製薬 研究開発本部	14	15	88%	94%	15	1
害虫防除の実際	7	薬剤による害虫防除の課題とPCOの取り組み	2025/10/27	五十嵐真人	鵬図商事	15	14	94%	88%	0	0
ベクター防除技術	8	マラリアを防除するオリセットネット(防虫蚊帳)	2025/11/10	大橋和典	住友化学 アグロ&ライフソリューション研究所	16	14	100%	88%	14	1
木材害虫	9	木材害虫防除	2025/11/17	馬場庸介	住化エンバイロメンタルサイエンス 研究開発本部	13	11	81%	69%	6	1
製剤とその利用技術	10	家庭・防疫用殺虫剤新規製剤の特徴と使用方法	2025/12/1	山崎誠司	住化エンバイロメンタルサイエンス 研究開発本部	15	14	94%	88%	14	1
リスクマネジメントの基礎	11	リスクと便益について学ぶ	2025/12/8	古澤啓一	日本リスクマネージャネットワーク	16	14	100%	88%	14	1
安全性	12	防疫薬の登録と安全性	2025/12/15	山口 尊史	住友化学 生活環境事業部	15	11	94%	69%	0	1
総合防除	13	防疫薬の今後の方向	2025/12/22	安部八洲男	(元)大阪青山大学	13	12	81%	75%	0	1
最終レポート		締切1/26(月)					14		88%	計	10

実受講者数 16 人

4) アンケート結果

①小レポート提出状況時の受講生アンケート結果

各講義のレポート提出者数・アンケート結果・講師コメント

講義ID		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
レポート提出者人数		15	15	12	14	16	15	14	14	11	14	14	11	12
満足度	非常に満足	6	5	6	7	4	4	1	7	3	6	4	4	3
	満足	9	10	5	5	11	10	12	6	8	8	10	6	9
	どちらとも言えない	0	0	1	2	1	1	0	1	0	0	0	1	0
	不満足	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	極めて不満足	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
レベル	易しい	2	5	5	3	5	3	1	0	1	0	0	0	2
	普通	13	10	7	10	11	11	9	14	10	12	14	9	10
	難しい	0	0	0	1	0	1	4	0	0	2	0	2	0
理解度	良く理解できた	9	9	6	7	6	4	1	8	5	4	5	3	6
	概ね理解できた	6	6	5	2	9	10	6	5	5	8	6	5	6
	普通	0	0	1	5	1	1	6	1	1	2	3	3	0
	あまり理解できなかった	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	全く理解できなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
分かり易さ	とても分かり易かった	6	8	4	1	4	4	1	3	2	2	3	3	4
	分かり易かった	8	4	7	6	6	8	6	9	7	9	7	5	4
	普通	0	2	1	6	5	2	5	1	1	3	4	2	3
	分かり難かった	0	1	0	0	1	1	2	0	0	0	0	1	1
教材	とても分かり易かった	6	7	4	2	4	3	0	5	1	4	2	4	5
	分かり易かった	6	4	8	6	6	8	8	7	8	6	7	4	4
	普通	2	3	0	5	5	3	4	1	1	4	4	2	3
	分かり難かった	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	1	1	0

平均

満足度%	非常に満足+満足	100	100	92	86	94	93	93	93	100	100	100	91	100	96
レベル%	普通	87	67	58	71	69	73	64	100	91	86	100	82	83	79
理解度%	良く理解+概ね理解	100	100	92	64	94	93	50	93	91	86	79	73	100	86
分かり易さ%	とても分かり易い+分かり易い	93	80	92	50	63	80	50	86	82	79	71	73	67	74
教材%	とても分かり易い+分かり易い	80	73	100	57	63	73	57	86	82	71	64	73	75	73

②最終レポート時の受講者アンケート結果

受講者最終アンケート

1 学生・院生の方は在学中の学校を回答欄から選んでください。

高等学校	専修・各種学校	高等専門学校	短期学校	大学（理科系）	大学（文科系）	大学院（理科系）	大学院（文科系）
0	0	0	0	1	0	1	0

2 学生・院生以外の社会人の方は最終学歴を回答欄から選んでください。

高等学校	専修・各種学校	高等専門学校	短期学校	大学（理科系）	大学（文科系）	大学院（理科系）	大学院（文科系）
0	0	0	0	3	0	11	0

3 この科目を履修して満足していますか

非常に満足	概ね満足	普通	やや不満足	極めて不満足
8	6	0	0	0

4 科目の内容について、どの程度予備知識や理解がありましたか

殆ど知っていた	知っていることが多かった	半分くらい知っていた	あまり知らなかった	全く知らなかった
0	2	7	4	1

5 科目をとおして講義内容は理解できましたか

よく理解できた	概ね理解できた	半分くらいは理解できた	あまり理解できなかった	全く理解できなかった
8	5	1	0	0

6 科目のレベルはどうでしたか

適切だった	少し難しかった	少し易しかった	難しかった	易しかった
12	2	0	0	0

7 科目全体の構成についてはどうでしたか

非常に良い構成であった	特に問題はなかった	一部の講義にやや問題がある	構成にやや問題がある	構成が悪い
6	7	1	0	0

8 講師は熱意の感じられる講義をしていましたか

非常に熱意を感じた	概ね熱意を感じた	どちらともいえない	あまり熱意が感じられなかった	全く熱意が感じられなかった
5	6	3	0	0

9 講師の話し方や説明は分かりやすかったですか

非常に分かりやすかった	概ね分かりやすかった	どちらともいえない	少し分かり難かった	分かり難かった
4	8	1	1	0

10 講師は質問・疑問に対して丁寧に対応していましたか

非常に丁寧であった	概ね丁寧であった	どちらともいえない	あまり丁寧ではなかった	丁寧ではなかった
7	7	0	0	0

11 あなたご自身は質問・発言・討論などにより、この科目に積極的に参加しましたか

非常に積極的に参加できた	概ね積極的に参加できた	どちらともいえない	あまり積極的に参加できなかった	積極的に参加できなかった
3	4	4	3	0

12 あなたご自身は、予習・復習などの自習により、より深く勉強しましたか

予習も復習も毎回行なった	可能な範囲で予習・復習を行なった	予習・復習は全くしなかった
0	12	2

13 どのような立場で受講しましたか

生活者（市民）として	職業人として	その他
1	13	0

14 この科目を受講した動機をお答えください(複数回答可)

教養を高めるため	学業に生かすため	仕事に生かすため	資格取得に役立てるため	自己啓発・再勉強のため	上司などの指示で	受講料が無料であるため	余暇を活用するため	その他
9	1	14	0	5	6	2	0	0

15 上記14で選択した受講動機は満たされましたか

満たされた	概ね満たされた	どちらともいえない	やや不満足	不満足
7	7	0	0	0

16 この科目を受講して、どのような点で役に立ったと感じましたか(複数回答可)

現代人としての教養を高めることができた	学業に役に立つ知識や理解を得られた	職業に役に立つ知識や理解を得られた	学習をしているという充実感や楽しさを感じた	講師や受講者を含め今まで知らなかった人とコミュニケーションができた	その他
6	1	14	2	3	0

17 この科目を受講したことが活かされた事例について記載してください(複数回答可)

業務の実施・改善	研修・教育の実施・改善	キャリアアップ	受講修了証を組織に提出	資格・免許の取得	研究会・ボランティア活動の設立・運営	委員などに就任又は応募	執筆や講演などの活動の実施・改善	その他
13	2	0	1	0	0	0	0	1

18 この科目の講義の中で特に評価する3講義 (3講義程度、順位をつける)

4,8,2	1,2,3	3,4,9	12,9,6
4,5,8	12,3,2	4,10,13	8,10,1
12,6,5	10,4,6	4,13,11	
4,13,7	10,5,12	4,3,12	

18 この科目の講義の中で特に評価しない3講義 (3講義程度、順位をつける)

9,1,2	11,8,13	2,4,6
11,3,6	11,9,5	

19 この科目に対する要望・意見・講師への感想・教材の配布方法について等ご自由にお書きください。

参考文献などの論文のリンク等があれば、より理解を深められましたが、大変だということを感じています。
貴重な勉強の機会をいただき、ありがとうございました。
前問の評価しない3講義についてですが、評価しないわけではなく、業務上知っている内容が多かったものを選びました。
マイクが小さくよく聞き取れないときがありました。
毎回興味深く受講させていただきました。ありがとうございました。
講師の皆様、お忙しい中、教材作成及び当日のご説明ありがとうございました。

20 この科目の開講機関の事務局の対応はどうか

非常に良かった	良かった	普通	悪かった	非常に悪かった
7	6	1	0	0

21 開講機関の事務局へのご意見・ご感想等についてご記入ください

貴重な勉強の機会をいただき、ありがとうございました。
一度だけZoomの案内が来ないことがあり(自分だけ?)、講義に参加できなかった。

22 来年度も「知の市場」の講座を受講したいと思いますか

来年度も受講したい	来年度は受講したくない
7	7

23 他の人に「知の市場」を紹介したいと思いますか

思う	思わない
13	1

24 受講料について、どの範囲であれば受講をされますか

無料の場合のみ	5,000円以下	5,000円～10,000円以下	15,000円～20,000円以下	20,000円～25,000円以下	25,000円～30,000円以下	30,000円以上
6	5	2	0	1	0	0

25 知の市場へのご意見・ご感想等をご記入ください

貴重な勉強の機会をいただき、ありがとうございました。
ありがとうございました。
13回の講義でそれぞれ新たな知識を得ることができ、毎回大変興味深く受講することができました。レポート課題で内容を振り返る機会にもなったのでとても有効的だったように思います。お忙しい中、このような場を設定いただき感謝申し上げます。

③講師アンケート結果

講師アンケート結果 2025年度

回答者数 9名

No	質問	回答別の人数				
		多い	やや多い	適当	やや少ない	少ない
1	受講人数は適当でしたか	0	0	8	1	0
2	受講者の受講態度・意欲はいかがでしたか	非常に良かった	良かった	普通	悪かった	非常に悪かった
		2	5	2	0	0
3	受講者とのコミュニケーションはいかがでしたか	活発な意見交換ができた	受講者との意見交換ができた	普通	質問が少なく、やや物足りなかった	全く会話が成り立たなかった
		0	3	4	2	0
4	受講者は講義内容を理解したと思いますか	良く理解したと思う	どちらかといえば理解したと思う	どちらかといえば理解していない	全く理解していないと思う	理解したかどうか判断できない
		2	6	0	0	1
5	受講者に満足しましたか	満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満
		5	2	2	0	0
	講義内容が難しい、あるいは興味ない分野であった可能性について私自身への反省点を残しました。質問が少なかつたので理解度の確認は小レポート・アンケート結果に頼らざるを得ません。質問を受けることで理解度や興味を推し量ることもできるところもあるので課題に感じました。(回答:普通)					
	多くの方が講義内容を理解されたうえで、ご自身の言葉でレポートを記載されており、取り組みに対する意識の高さを感じたため(回答:満足)					
	オンラインで相手の様子がわからないので、明確には答えられない部分もありますが、課題に対する回答から、このように判断いたしました。(回答:ほぼ満足)					
	様々な業界の方でしかも興味を持った方の受講のため熱心さが感じられた。(回答:満足)					
6	社会人の中に学生・院生が入って受講することについてどのように考えますか	学生・社会人双方の学習にとって良い	学生の学習にとってよい	社会人の学習にとってよい	普通	学生の学習にとってよくない
		8	1	0	0	0
7	毎回の講義の後で受講者から提出された小レポートに記入された受講者からのコメントは有益でしたか	非常に有益	有益	普通	無益	全く無益
		2	4	3	0	0
	受講者がどの程度理解できたのかや、内容に興味があったのかなどが理解できる。(回答:有益)					
	上手く伝えたい事項を説明できているかどうかの指標になりました。(回答:非常に有益)					
	5.に記載の通り、取り組みに対する意識の高さを感じ、有益に思った。(回答:有益)					
	予想される回答以外の回答を得られることがある。また今回、何か意見があれば書いてもらう項目を設けたため、一部の方から質問や意見を得ることが出来たから。(回答:非常に有益)					
8	ご担当科目の開講機関の対応について評価してください。	非常に良かった	良かった	普通	悪かった	非常に悪かった
8-1	全体として	4	3	2	0	0
	丁寧にご指示いただいたので対応に苦慮しませんでした。(回答:非常に良かった)					
	講義の際にサポートいただいたり、後の問い合わせにも丁寧に回答をいただきました。(回答:非常に良かった)					
8-2	事前準備、当日の対応、事後対応と連絡体制、その他について	4	3	2	0	0
	分かりやすい指示で円滑に講義に臨めました。(回答:非常に良かった)					
8-3	会場及び使用機材について	1	5	3	0	0
	オンラインのみでしたが特に不具合なかったです。(回答:普通)					
9	「知の市場」事務局の対応について評価してください	2	5	2	0	0
	丁寧かつ分かりやすい指示をいただきましたので、不安なく講義に臨めました。可能であれば当日の出欠確認を事務局で管理いただければ、遅刻あるいは早退の受講生の状況もタイムリーに確認できるのではないかと思います。(回答:良かった)					
	私は何度目かの講義なので慣れていますが、初めてだと、手順がわからず戸惑うかもしれません。もう少し、丁寧な説明と、質問に対して迅速なメールでのレスポンスが必要かと思います。(回答:普通)					
	ご案内のメールに返信したつもりが、適切な宛先ではなかったようで、こちらからの返信が届いていなかった。案内文をより分かりやすく記載いただけると助かります。(回答:普通)					
	講義の際にサポートいただいたり、後の問い合わせにも丁寧に回答をいただきました。(回答:非常に良かった)					
10	知の市場を充実させるためには、どのような分野の科目を取り入れたらよいと思われませんか。					
	以前は防疫薬メーカーの研究所見学もあったように思うので、座学だけでなく、実習のような体感できるような内容もあっては良いのではと思いました。					
11	開催時期・曜日及び開催場所、開講機関などについてご提案があればご記入ください。					
	受講生の都合を優先するべきですが、月曜日は週のはじめて業務に追われることも多いので、火曜日～木曜日あたりの開催も検討できると思いました。					

5) 振り返り・今後の課題等

今年度も JRMN の西村・刑部が事務局 2 名体制で運営し、予定通り実施できたのがよかった。

①各回でのトピック

- ・講師の音声途中でミュートに (10 秒ぐらい)
- ・講師の通信途中で途絶える (約 5 分)
- ・資料で 10MB はメールで届かない人がある
- ・受講者ログインできない→解消
- ・欠席するときの連絡方法を教えて

②懇親会でのヒアリング結果

- ・視聴は別室などで
- ・残業がつく場合がある
- ・K さんは毎回質問考えてる

3.5 日本リスク学会との共催の公開セミナー

1) 目的・経緯

昨年同様、リスクマネージャ公開セミナーとして、リスクマネージャに加え一般の人も参加できるセミナーを開催す。

年3回の実施を予定していたが、第1回は2025年8月9日に実施し、第2回は2026年3月28日に実施予定である。

(実施概要)

- ・8月9日に2025年度第1回リスクマネージャ公開セミナー「PRTRデータを用いた環境管理の展開」を大阪大学中之島センター+ズームで開催
- ・第2回は昨年同様11月に実施される日本リスク学会第38回大会の一般公開セミナーを2025年度第2回リスクマネージャ公開セミナーとして実施する予定であったが、リスク学会独自で配信することになり、リスクマネージャ公開セミナーとしての位置づけはなくなった。
- ・3月28日に2025年度第2回リスクマネージャ公開セミナーを大阪大学中之島センター+ズームで開催予定
- ・第1回のセミナーは、建設コンサルタンツ協会のCPD認定セミナーとすることで、リスク管理の考え方を100名以上の人に知ってもらうことができた。第2回も同様の認定セミナーとなるよう準備している。

2) 2026年度第1回リスクマネージャ公開セミナー（8月9日）

開催までの経緯、セミナーの概要（案内書）、セミナーの結果を以下に示す。

開催までの経過及び日本リスク学会とJRMNの役割分担

No	日本リスク学会	JRMN	備考
1	セミナーの内容、日時、場所、講師決定		6月17日 竹田先生メール
2		会場の仮申し込み	6月22日 (6月30日本申込)
3	セミナー案内チラシ(案)作成		6月23日 竹田先生メール
4		申込フォーム案作成 登録内容変更・不参加連絡 フォーム作成	6月26日
5		建設コンサルタント協会 CPD認定プログラム申請	7月3日 (修正7月6日)
6	セミナー案内チラシ完成		7月5日 竹田先生メール
7	日本リスク学会HP案内掲載		7月7日
8	日本リスク学会会員への案内メール	建設コンサルタント協会 CPDホームページ公開	7月8日
9		JRMN会員へのメール連絡	7月13日
10	リスクマネージャへのメール連絡		—
11		大阪環境カウンセラー協会 への依頼	—
12		前回参加者へのメール案内	7月27日
13		アンケートフォーム作成	7月27日
14		参加申込者へのズーム案内 等（学会申込者は除く）	7月31日(木)
15	配信用ズーム設定		8月3日
16		申込フォームの停止	8月6日(水)
17		参加申込者への再案内等	(8月7日(木)予定)
	講演会資料入手	講演会資料配布	
18 当日	配信用パソコン、インターネット接続機器準備	現地受付、CPD受講証明書 配布等	8月9日(準備)
19	司会 ズームの管理	講演後アンケートをメール 配信	8月9日(進行)
20		オンラインCPD受講証明書発行 CPD事務局へ参加者報告	8月16日
21		(実施結果のとりまとめ) (アンケートとりまとめ)	8月16日
22		(経費精算)	
23		振り返り	

(一社) 日本リスクマネージャネットワーク、大阪大学、(一社) 日本リスク学会共催

2025年度第1回リスクマネージャ公開セミナー

PRTRデータを用いた環境管理の展開

上下水道部門との連携の視点から

一般公開

2025年8月9日(土) 14:00~17:00 開場13:30

本セミナーは、リスク学の基本的な考え方と現状について講演し、その今後について、リスク学会関係者と一般市民との対話を通じて共に考える連続講座です。

場所 大阪大学中之島センター セミナー室 6E 参加費無料

<https://www.onc.osaka-u.ac.jp/access/>

オンラインは中継のみとなります。

参加申し込み (締切 2025年8月6日(水))

参加を希望される方は以下のフォームまたはQRコードでご登録ください。資料の共有や
接続先のご案内を別途メールで行います。 <https://forms.gle/N1eUGdkd2z5Kd2WY5>



(1) 趣旨説明：本セミナーの趣旨と進め方について (5分)

(2) 話題1「下水道事業との連携に向けたPRTRデータの活用事例」 中久保 豊彦 大阪大学 (85分)

事業者が対象となる化学物質管理制度の一つである、化学物質管理促進法は制定から20年が経ちました。法に基づき届け出られた環境中への化学物質の排出量は、公開されるとともに、様々な環境管理に役立てられています。本講演では、化学物質管理促進法の重要な柱であるPRTRの基礎や自主管理の重要性、PRTRデータを活用した下水道事業との連携に関して説明します。

※ なかくぼ・とよひこ 大阪大学 環境エネルギー工学専攻 環境マネジメント学領域 准教授
大阪大学大学院修了。博士(工学)。専門は 循環型社会システム、環境負荷、リスク評価管理。

休憩 5分

(3) 話題2「水道事業との連携に向けたPRTRデータの活用事例」 北本 靖子 大阪大学 (85分)

南海東南海地震のリスクが懸念される中、水道事業でも大阪湾における地震・津波対策等の重要性が増しています。その一方で、水源からの化学物質流出も比較的高頻度で発生し、水道水質へ影響する場合があります。本講演では、近畿地方の大切な水源である淀川の最下流から取水する浄水場を対象とした、水道事業における突発的な化学物質流出の影響を評価したケース、特に水源水質事故時を想定したリスクマトリックスの作成事例について、話題提供します。

※ きたもと・やすこ 大阪市水道局 水質管理研究センター 課長代理、大阪大学 招へい研究員、
大阪大学大学院修了。博士(工学)。専門は 水道水質管理。

連絡先 一般社団法人日本リスクマネージャネットワーク 担当理事 刑部(ぎょうぶ)・西村
e-mail jrmn.comu@jrmn.sakura.ne.jp (ホームページ <https://jrmn.net/>)

セミナー・講演会記録

(記録：刑部)

件名	2025年度第1回リスクマネージャ公開セミナー
主催・共催	(一社)日本リスクマネージャネットワーク、大阪大学、(一社)日本リスク学会共催
目的	本セミナーは、リスク学の基本的な考え方と現状について講演し、その今後について、リスク学会関係者と一般市民との対話を通じて共に考える連続講座である
日時	2025年8月9日(土) 14:00~17:00 開場 13:30
場所 (開催方法)	大阪大学中之島センター セミナー室 6E オンラインは中継のみ
内容	PRTR データを用いた環境管理の展開 上下水道部門との連携の視点から 話題1「下水道事業との連携に向けた PRTR データの活用事例」 中久保豊彦 大阪大学 話題2「水道事業との連携に向けた PRTR データの活用事例」 北本 靖子 大阪大学
準備	詳細は別紙参照 6月23日にセミナー案内チラシ(案)作成 8月16日にアンケートとりまとめ
当日進行	司会 日本リスク学会 竹田先生 サポート 桑垣先生(オンライン) ズーム 静岡大学 上野先生(オンライン) 受付 JRMN 刑部
参加者数	現地9名 オンライン167名 計176名
資料	JRMNのHPからダウンロード 話題2の資料の未発表分については、当日のみの説明
結果	当日12:50に鍵を受取り、17:00過ぎに終了し予定通りであった (ホワイトボードは廊下に出さないことを施設管理者から指摘された)
アンケート	詳細は別紙 約90%が満足したと回答あり
良かった点	前回のセミナーと同程度の参加者があった 現地参加者と名刺交換が少しできた
改善点	現地参加者が少なかった 現地での質疑の音声がもう少し聞こえるような工夫が必要 参加者募集についてSNSなどの利用をもっとはかる
備考	今回の費用 会場費12500円(大阪大学との共催で半額:日本リスク学会へ請求) バックアップ ズームにトラブルがあった時のためのバックアップのズームを静岡大学の担当者が今回準備してくれた ズームの費用 竹田先生より日本リスク学会が今年より経費節減のためズームの費用を削減したため今回のセミナーより使えなくなった。今回は静岡大学のズームを使ったが、今後は対策が必要と説明があった

アンケート結果の概要

1) アンケート回答率

セミナーへの出席者は対面 7 名、オンライン 169 名で合計 176 名であった。

アンケートへの回答は 144 名で、回答率は 82%であった。

申込者数	244		
出席者数	176	出席率%	72
アンケート回答数	144	回答率%	82

2) セミナーの満足度

話題1で、「とても満足」「やや満足」の合計は 91%、話題2では 94%であった。

話題への意見は、どちらも5割程度の人記入があった。

話題1 満足度	91%	意見数	73	0.51
話題2 満足度	94%	意見数	71	0.49

満足度は「とても満足」「やや満足」の合計

3) 本セミナーを知った情報源

今回セミナーの広報は学会からのメール等案内とJRMNからのメール等案内に加えて、いろいろな工夫を行った。もっとも効果があったのは「建設コンサルタンツ協会 CPD プログラム」として認定をとったことで76%の人の情報源であった。

情報源	比率%
建設コンサルタンツ協会CPDプログラム	76
日本リスク学会からの案内など	8
所属する会社等からの案内など	4
第2回セミナー参加者へのメール案内	1
大阪環境ネットまたは大阪カウンセラー協会からの案内など	0
一般社団法人日本リスクマネージャネットワークからの案内など	8
知人からの案内	2
FACEBOOK	1
計	100

4) 次回第2回セミナー案内の希望・その他

次回以降のセミナーの案内を希望する人の割合は 88%であった。

またその他意見数は、44 件で 3 割程度の人意見の記述があった。

第2回案内希望者数率	88%
その他意見数	44

3) 2026年度第2回リスクマネージャ公開セミナー (2026年3月28日予定)

2025年1月23日に日本リスク学会竹田理事から、当会刑部理事に「2025年度の第2回セミナーですが、京都大学の島田先生(3/28(土))、2026年度の第1回を神戸大学の村山先生(8月末)で、企画したいと思います。阪大の中之島センターを使用したいと思います。」とのメールがあり理事会に諮り、当会もこの日程で共催することとなった。

開催までの予定・作業内容を以下に示す。

(2025年第2回セミナー) 日本リスク学会とJRMNの役割分担

No	日本リスク学会	JRMN	備考
1	セミナーの内容、日時、場所、講師決定		1月23日 竹田先生メール
2		会場の仮申し込み	1月26日 (2月 日本申込)
3	セミナー案内チラシ(案)作成		(予)2月20日 竹田先生メール
4		申込フォーム案作成 登録内容変更・不参加連絡 フォーム作成	(予)2月21日
5		建設コンサルタント協会 CPD 認定プログラム申請	(予)2月24日 (修正 月 日)
6	セミナー案内チラシ完成		3月 日 竹田先生メール
7	日本リスク学会 HP 案内掲載		3月 日
8	日本リスク学会会員への案内メール	建設コンサルタント協会 CPD ホームページ公開	3月 日
9		JRMN 会員へのメール連絡	3月 日
10	リスクマネージャへのメール連絡		—
11		大阪環境カウンセラー協会 への依頼	—
12		前回参加者へのメール案内	3月 日
13		アンケートフォーム作成	3月 日
14		参加申込者へのズーム案内 等 (学会申込者は除く)	3月19日(木)
15	配信用ズーム設定		3月 日
16		申込フォームの停止	3月 日 (水)
17		参加申込者への再案内等	(3月26日(木)予定)
	講演会資料入手	講演会資料配布	
18 当日	配信用パソコン、インターネット接続機器準備	現地受付、CPD 受講証明書 配布等	3月28日(準備)
19	司会 ズームの管理	講演後アンケートをメール 配信	3月28日(進行)
20		オンライン CPD 受講証明書発行 CPD 事務局へ参加者報告	4月 日
21		(実施結果のとりまとめ) (アンケートとりまとめ)	4月 日

3.6 日本リスク学会との連携

3.6.1 日本リスク学会リスクマネージャ委員会(3月7日)及び新規リスクマネージャ登録申請審査

1) 目的・経緯

2025年3月28日に、日本リスク学会の理事会があることから、リスクマネージャ委員会としての報告事項について打合せした。

また、書類審査での新規リスクマネージャ登録申請が1件あり、申請の概要や審査の方法等について打合せし、その後メールでのやりとりで、新規リスクマネージャ登録を承認した。

2) 日本リスク学会理事会(3月22日)のリスクマネージャ委員会資料案

2025年3月28日

リスクマネージャ担当理事 竹田、桑垣

【リスクマネージャ委員会報告】案

1. 2024年度実績

(1) リスクマネージャ委員会の開催(2回) リスクマネージャ委員会規定の変更

(2) リスクマネージャセミナーの実施

① 開催実績(省略)

2. 2025年度予定

(1) リスクマネージャセミナーの開催

リスク学会の活動と連携し、市民向け広報活動を目的として、理事の専門とする話題について講演を行う。

第1回(7月大阪:ハイブリッド)、第2回(11月、大阪オンライン:年次大会)

第3回(2月大阪:ハイブリッド)

(2) リスクマネージャの管理

現登録者数31名。(2024年度書類審査登録1名) 次の更新発生は2026年3月

(3) 予算規模 5万円程度

(4) リスクマネージャネットワークとの協働

(5) リスクマネージャ委員会の開催

3. 2025年以降の課題

(1) リスクマネージャの新規付与の必要性について

書類審査制度の整理(現行ルールの確認と整理が必要。申請書の審査方法、記録、適格性の確認方法、学会としてのリスクマネージャに求める要件、公平性などの視点。

(2) リスクマネージャセミナーの継続的な見直し

3) 3月7日打合せ記録 (JRMN 作成分)

渉外活動記録 (日本リスク学会 2024.3.23 作成)

件名	2024年度第2回リスクマネージャ委員会
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネージャ委員会規定の改定など ・2024年度活動報告 ・2025年度活動計画
日時	2025年 3月7日(金) 14:00時～ 16:00時(予定) 14:00時～ 15:50時(結果)
場所	・オンライン(ズーム)
相手	出席者 岸本委員、竹田委員、関澤委員、桑垣委員、久保田委員(jrmn)、刑部委員(jrmn) (6名)
担当	記録 刑部
内容	<p>1)リスクマネージャ委員会規定の改定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本リスク学会と名称変更する前に作られた規定で、現状とそぐわないことから変更案を竹田先生が作成し確認した。 ・日付の確認し、委員の人数を実態に合わせ6人とする <p>2)2024年度セミナー開催結果(参加者数、アンケート結果など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数も多く盛況で、満足したとの回答も多く好評であった ・建コンの参加者が多く、建コンのCPDについて説明した ・アンケートの自由記述の結果を、講師にフィードバックしたほうがよい。(ラベリングした結果をMLで連絡するが、回答そのものだけでも良い) <p>3)2024年度セミナー開催結果(経費報告)と2025年度予定(委員会報告事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度のセミナー関係の費用は5万円弱であり、次年度も5万円確保する。 ・次年度も3回、共催セミナーを開催する。 ・JRMNとの連携の中の、JRMNの勉強会等をCPDイベントとすること、深読み会(読書会)の推薦本については、リスクに関する書籍紹介ともあわせ理事会への報告内容に記載する ・リスクマネージャの書類審査に応募された方が1名いる。事務局で書類に必要事項の記載があるかを確認中で、これまでの例に倣い、事務局で確認できたあとメールでリスクマネージャ登録が妥当かの審査をする予定である。 <p>4)その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有料セミナーを過去に行ったことがあり、必要に応じ検討する。 ・次年度のセミナーの前半はリスク学辞典の内容の講義、後半は専門的な講義とする方向で考える。 ・セミナーでは、リスク学のどの分野の講義なのか、体系的な分類があったほうがよい ・セミナーでは、個人に関するリスク、団体に関するリスク、社会に関するリスクなどの分野の分類もあったほうがよい。 ・リスクマネージャ登録の審査について、適格、不適格の具体例や考え方を、JRMNの立場から考えて、今後の審査の具体化につなげていく
備考	<p>13:30から竹田先生とJRMNで事前打ち合わせ(進め方などについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント資料のうち1と2はセミナー報告時に説明し、3と4は2025年度予定時に説明する ・本日の決定事項は資料4の日本リスク学会の理事会への報告事項である ・リスクマネージャのCPD登録でイベント参加の2回目が入力できない対応については、別対応が必要(HPの変更には費用がかかる) ・共催セミナーをJRMNの会員要件とすることは、報告するだけでよい ・JRMNの事業は、リスクマネージャ委員会のMLの連絡することでCPD対象イベントとすることが可能である ・深読み会の推薦本は、理事会でも聞いてもらう

4) 新規リスクマネージャ登録の承認

新規リスクマネージャの書類審査での登録申請があり、その経緯や承認までの手続きについて、JRMN の視点でまとめた資料を以下に示す。

(資格の書類審査)JRMN 作成書類

件名	新規リスクマネージャ登録の書類審査
目的	新規リスクマネージャ登録希望者から書類審査が提出され下登録要件に従い審査
経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2024.12.3 に「riskmanager@sra-japan.jp」あてに申請者が審査書類提出 ・ 2025.3.2 に審査書類を再提出（2024.12.3 提出に対して返信がなかったため?） ・ 事務局で書類に必要な事項が記入されているか確認（2025.3.7 委員会間に合わず） ・ 2025.3.7 リスクマネージャ委員会で資格申請者がいることが報告されメール審議に ・ 2025.3.13～3.21 を審議の期間 ・ 審議の結果、資格認定
申請者	（一財）化学物質評価研究機構 片桐氏
提出書類	様式 1（1 枚）、様式 2（4 枚）、様式 3（1 枚）
審査者	リスクマネージャ委員会委員（6 名）
審査内容 (JRMN 委員)	<p>久保田委員のコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 化学物質の試験方法や健康リスク評価手法の開発に携わり、その成果の社会実装に尽力されていることから、リスクマネージャとしての資質を充分兼ね備えた人材と認めます。 <p>刑部委員のコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様式 2 の「リスクに関連する教育活動」では大学での寄付講座で複数回講師をされ、直近の 2024 年では「化学物質のリスク評価」で 90 分の講義をしている。 ・ 「リスクに関する業務経験」では、日本リスク学会で複数回ポスター発表され、他の学会では「リスクアセスメント」について口頭発表している。 ・ 「リスクに関するその他の活動の実績」では専門誌「月刊化学物質管理 2020 年 2 月号」に「消費者製品に含まれる化学物質の健康リスク評価」で 9 ページ執筆 ・ 以上より、リスクマネージャに必要な知識を十分もたれており、資格認定は妥当である（養成講座受講者以上の知識と経験はありと判断）。
新規リスクマネージャ登録の要件 (HP より)	<p>新たにリスクマネージャ登録を受けるためには、日本リスク学会の会員となった上で、以下の要件のいずれかを満たす必要があります。</p> <p>【課程修了者登録】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本リスク学会が開催する養成講座を受講した者 <p>【書類審査者登録】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本リスク学会に 5 年以上在籍するとともに、リスクに関する業務に 5 年以上従事した経験を持つ者のうち、リスクマネージャ委員会が認める者 2. 大学において、リスクに関する科目を担当する教授、准教授または常勤の講師である者、またはかつてあった者のうち、リスクマネージャ委員会が認めるもの。 3. その他リスクマネージャ委員会が、上記相当と認める者

3.6.2 日本リスク学会リスクマネージャ委員会(6月11日)及び青森大学養成講座

1) 目的・概要

日本リスク学会理事会へのリスクマネージャ委員会としての報告事項に関する打合せをした。
打合せ内容は主に以下の2点である。

- ①2025年第2回リスクマネージャセミナーについて
- ②青森大学での地域貢献防災論のリスクマネージャ養成講座連携について

①については、当初は昨年同様の方針で進めていたが、10月17日に日本リスク学会の竹田理事からメール連絡があり、その抜粋を以下に示す。今年度は、一般公開セッションはリスクマネージャ公開セミナー対象とはしないこととなった

2025年第2回リスクマネージャセミナーについて

- ・会場の機材は大学保有の設備を使用し、オンラインの配信は委託業者が行う。
- ・参加者へのアドレス等の案内は実行委員会が行う。

以上のことと、今回は建設コンサルタント協会のCPDにならないことから、リスクマネージャセミナーとしての共催は今回は取りやめにしたいと思います。第2回以降のテーマ等は追って、ご相談したいと思います。

②については、「6月11日打合せ記録」、「6月12日～7月11日の連絡記録」、「9月1日日本リスク学会理事会資料抜粋」を次ページから示すが、詳細については決定していない状況にあり、今後とも日本リスク学会と連絡を取っていく。

2) 6月11日打合せ記録 (JRMN 作成分)

渉外活動記録：JRMN 作成 (2025.6.11 リスクマネージャ委員会)

件名	2025 年度第 1 回日本リスク学会リスクマネージャ委員会
目的 (議題)	1. 2025 年 7 月リスクマネージャセミナーについて 2. 青森大学での地域貢献防災論のリスクマネージャ養成講座連携について 3. その他
日時	2025 年 6 月 11 日 (水) 9:30~10:30
場所	ズーム
出席者	竹田委員長、岸本委員、関澤委員、桑垣委員、 久保田委員(JRMN 代表理事)、刑部委員(JRMN 執行理事：本記録作成)
資料	青森大学の地域貢献防災論に関する資料 (A4 で 2 枚 4)
内容	<p>1. 2025 年 7 月リスクマネージャセミナーについて (セミナー一年 3 回の 1 回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師は大阪大学の中久保先生に竹田先生が依頼済み 7/26、8/9 で調整する テーマは有害物質管理の PRTR などについて 建コンの CPD 認定講座に申請する (1 カ月前に申込締切に間に合わせる) <p>2. 青森大学での地域貢献防災論(仮)のリスクマネージャ養成講座連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> 竹田先生より資料をもとにした説明あり 1)大学の正式な講座で 2026 年から前期 2 単位(13 回程度の講義) 2)防災士養成講座に位置づけ。日本防災士機構に予備審査を申請済 3)私立青森大学東京キャンパスが江戸川区にありそこで実施 4)対象は全学科(1 学年約 270 名)の 1~3 回生、都立紅葉川高校 1~2 年生、江戸川区が募集した防災士取得希望者など 5)日本リスク学会のリスクマネージャ養成講座とできなか打診がある 6)日本リスク学会の竹田理事、李理事、桑垣理事が対応にあっている ・桑垣委員より、青森大学の久保先生に確認した事項の報告 1)学生は対面で、一般枠は市民講座で実施。(ネット、録画での受講は検討中) 2)防災士の資格をとれるが、講義だけの受講でもよい (リスクマネージャの資格についても同様で、周知、宣伝にも役立つ) 3)13 回程度の講義に講師として日本リスク学会への要請の可能性あり ・防災士資格についての確認等 1)NPO 法人日本防災士機構が実施している民間資格。約 30 万人以上取得 2)資格を取るために、①事前学習(レポート提出)、②会場研修(講座の受講 2 日間)、③資格取得試験の受験、④救急救命講習の受講が必要。 3)青森大学の地域貢献防災論は②の研修に該当し、2 日で研修する項目が決まっておりますカリキュラムに入れる必要がある。 4)会場での研修機関として他の大学でも実施しており状況確認が必要。 ・JRMN の意見 1)関心の高い防災関連の分野であり、リスクマネージャ養成講座として進めることに賛成。<u>カリキュラムの内容を確認したい。</u> 2)講座へ希望することについて等については理事会で話し合ってから連絡する ・今後について 1)日本リスク学会から青森大学への意見を含めてカリキュラムが今後作成されることとあり、意見をまとめていく必要がある 2)日本リスク学会からの講師の派遣についても調整が必要である <p>3. その他</p> <p>例年リスクマネージャ委員会は 2 回程度であるが、今年度は複数回開催予定</p>
備考	・JRMN の深読み会へ本を推薦して頂いたことにお礼し、6/19 発行の「基準値のからくり」続編をよんでから取り上げる本を決めることを報告。

3) 6月12日～7月11日の連絡記録 (JRMN 作成分)

渉外活動記録 (2025.6.12～7.11 リスクマネージャ委員会)

件名	青森大学での地域貢献防災論のリスクマネージャ養成講座連携について
目的	情報交換のため
日時	2025年 6月12日～ 7月1日
場所	メールでのやり取りの抜粋
出席者	竹田委員長、刑部委員(JRMN 執行理事：本記録作成)
内容	<p>① 6/12 刑部→竹田先生 ・リスクマネージャ委員会資料について 資料のほう詳しく追加して頂きありがとうございます 費用については記載して頂いたとおりですが、他の大学を調べると研修費用が必要などころもあるようです (大阪公立大学は13000円、民間では55800円なのでだいぶ安い) (なお、救急救命講習は消防署で受ければ無料のようです)</p> <p>② 6/12 竹田先生→刑部 受講料の件ですが、防災士機構の言うところのステップ1の経費は意識する必要があると思います。とはいえ、大学講義なので学生は学費を払っているわけですし、将来想定されている、江戸川区の区民は江戸川区が立て替える形になると思います。今のところ、青森大の講義を受けた方がリスクマネージャになる、というルートを考えているわけですが、リスクマネージャになりたい方が、青森大の講義を希望することも想定しておかねばいけないと思います。</p> <p>③ 6/24 竹田先生→刑部 本件ですが、リスクマネージャネットワーク様からのご意見等、ございましたでしょうか？ 今後は、青森大学と講義の内容を詰めながら、養成講座への指定における課題の洗い出しなどの作業を進めたいと思います。お忙しい所恐縮ですが、よろしくお願いいいたします。</p> <p>④ 6/24 刑部→竹田先生 6/14に理事会を行い意見がでましたが、会員にも意見がないか聞いてみるということで現在、意見を待っているところですが 養成講座については進める方向性で意見はまとまると思いますが 今のところ出ている意見(理事会での意見)は次のようなものがあります 1)「リスク」と「マネジメント」の両方を講座の中で学び身につけられるようにするのがよい 2)講義を受けたのち何らかの試験(or論文提出)などを実施するのがよい(防災士も試験を受けて資格取得できる) 3)リスクマネージャの資格を防災士の資格にあわせてとれるのではなく、できればリスクマネージャを主するか、少なくとも並列の位置づけにしてほしい 4)これまでのリスクマネージャと区別しリスクマネージャ(防災)のような区分(または青森大学養成講座で取得)としてほしい</p> <p>⑤ 6/25 竹田先生→刑部 メールの文意から、検討を進めることに対しては、ネガティブなご意見はなく、検討に当たって、幾つかの課題が提示されたと理解しました。ご検討ありがとうございます。 青森大学には一報入れたうえ、課題整理に進めたいと思います。なお、7月の理事会でのご意見はそこに含めるとして、対応していきたいと思います。 ちなみにですが、阪大のリスクマネージャ養成講座の際には、認定試験のようなものはあったのでしょうか？青森大学の場合は、学生が対象の講義ですので、当然</p>

	<p>単位認定の試験はあります。ご参考まで、ご教示いただければ幸いです。よろしくお願いたします。</p> <p>⑥ 7/1 刑部→竹田先生 ・阪大のカリキュラムについて 添付の資料（旧カリキュラム）にありますように 30 単位取得で講義ごとにレポートの提出がありました 資格認定に当たっては試験はありませんが面接があったと思います なお、資料は JRMN 代表理事の久保田さんが所有する以下の資料の抜粋です 「2008 年 11 月に開催された同人材養成プログラムにかかるシンポジウム予稿集・最終成果報告書「リスク管理教育が導く持続可能社会」発行：大阪大学大学院工学研究科「環境リスク管理のための人材養成」プログラム代表 盛岡 通印刷・製本所（株遊文舎）」</p> <p>⑦ 7/1 竹田先生→刑部 貴重な資料の共有、ありがとうございます。今回の検討に参考になりますし、関係資料として引き継ぎたいと思いますので、よろしくお願いたします。</p>
備考	

第3節 旧カリキュラムの概要

本教育プログラムのカリキュラムは、必修科目（各2単位）6科目、選択科目（各2単位）9科目および選択必修科目2科目（演習科目、各8単位）の全17科目により構成される（図1）。各科目で修得されるスキルは、第2節で述べたとおりである。

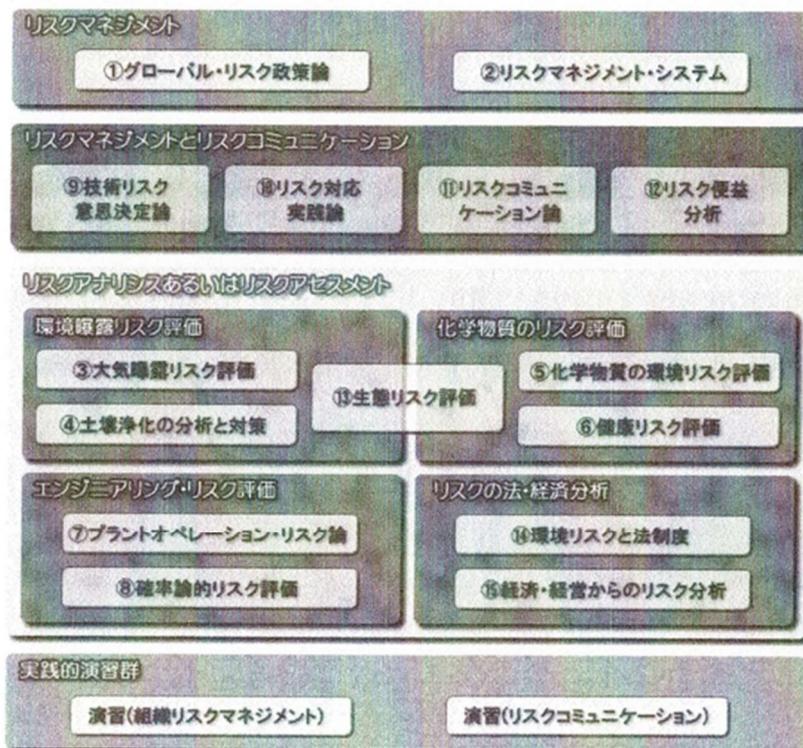


図 旧カリキュラムの科目構成

4) 9月1日日本リスク学会理事会資料抜粋(青森大学養成講座)

リスクマネージャ担当理事 竹田 桑垣

2025年9月1日

リスクマネージャ委員会報告事項等

(2) 青森大学 地域貢献減災論(防災士養成)への協力について

7/14(月)16時~17時半に、久保元会長、桑垣理事、竹田で打ち合わせを行った。議事概要は以下の通り。なお、本件は8月中の動きはなかった。

- ① 防災士制度変更(新規認定には、自校の60名以上の防災士資格受験生が必要)につき、受験者60名の確保について調整を行っている。調整後、認定校への手続きを行う。
- ② 想定される作業(不確実性は大きい)
 - ・青森大学は地域コミュニティ減災論を2026年11月29日~30日に集中講義で行う。
 - ・日本リスク学会は、本講義に講師を派遣し、カリキュラムを協働して作成する。年内12月末まで?
 - ・日本リスク学会は、新規リスクマネージャ登録要件である、日本リスク学会が認める講座として本講義を認定する事務手続きを行う。
 - ・江戸川区民、一般市民の受講に関して、受講料、防災士登録料、リスクマネージャ登録料などの経費について透明性をもって整理が必要。

3.6.3 日本リスク学会年次大会(11月8日)への参加報告

日本リスク学会年次大会へは、刑部理事が現地参加、久保田理事がオンライン参加（一般公開セッション）した。一般公開セッションは当初、リスクマネージャ公開セミナーとして実施予定であったが、日本リスク学会が直接配信することとなったセッションであること、青森大学で防災士に合わせたリスクマネージャ養成講座を計画しており、その関連の企画セッションが実施されたことから、その参加報告を以下に示す。

1) 一般公開セッション

(11/8 15:00~16:40 会場参加 100人ぐらい オンライン 30人 配布資料なし)

●プレナリー講演 1 三浦麻子 (大阪大学)

「コロナ禍 4年間で追うー30波パネルデータが語るリスク認知の変化」

【内容】パネル調査した内容の報告、考察など

パネル調査は、2020.1.31~2024.3の期間で1~2カ月に1回、インターネットのサービスを利用し、合計30回同じ内容で同じ人に質問し回答の変遷等をみた。回答者は、6割女性、30~40歳台が多く、最初は1200人、途中で600人まで減った段階で1200人になるよう追加。リスク認知として、「怖しさ」と「未知性」を中心に7段階で回答してもらう。怖ろしさは、時間経過とともにリスク認知は減少（リスクは少なくなる）したが、未知性はオミクロン株などがでてくるなどでそれほどリスク認知は減少しなかった

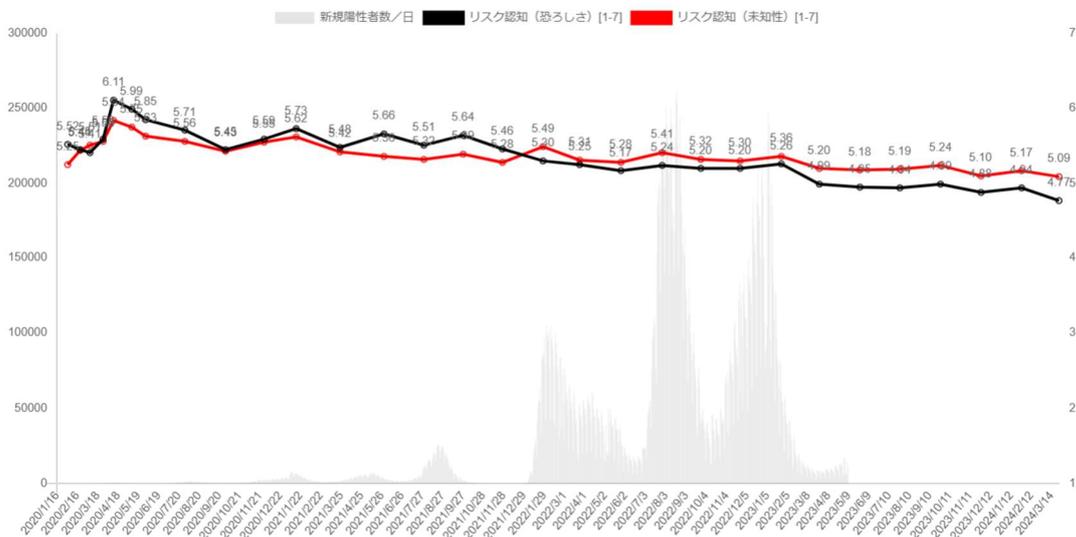
【感想】

- ・リスク認知として「怖しさ」と「未知性」があると知ったが、その説明も重要であると思った（恐ろしさ：「死に至る可能性がある」「いつ起きるか分からない」、未知性：「気づかないうちに影響をうけているかもしれない」「どんな影響があるかよくわからない」）
- ・毎回、最もリスク認知が大きくなった当初を回顧してもらうと、徐々に過小評価となる傾向にあり、回顧にもバイアスがあることを知った。

感染者数の日別棒グラフと選択された指標の折れ線グラフ
各指標の具体的な内容は[こちら](#)

※グラフ上で右クリックすると画像としてダウンロードできます。

[CSVダウンロード](#) [戻る](#)



●プレナリー講演2 大竹文雄（大阪大学）

「新型コロナ対策のリスク」

【内容】 新型コロナの感染を減らす行動変容を行動経済学から取り組んだ内容の紹介など

- ・行動変容について、どのようなナッジ（英語で「軽くひじでつつく」「背中を押す」）を与えたとき、行動変容があるかをインターネット調査で調べ、「あなたが〇〇すると他の人も〇〇する」と利他的なナッジに効果があるとわかり、適切な情報を発信するのが重要。
- ・感染対策により、小中学生の学力の低下、不登校の増加、自殺率がふえるなどのデメリットが発生した。
- ・新型コロナのような非常時では、命の価値があがり、経済的には1年余命を伸ばすのに医療では約5000万円投資したことになるが、通常時の薬の私用で1年余命を伸ばすのには約500万円程度であり、通常時の10倍投資したことになる。

【感想】

- ・新型コロナでの人との接触8割削減のポイントの分は、当初は「帰省を控えてオンライン帰省」であったが、「控えて」が印象に残るため「ビデオ通話でオンライン帰省」に変えた点があるほどと思った。

人との接触を8割減らす、10のポイント

緊急事態宣言の中、誰もが感染するリスク、誰でも感染させるリスクがあります。
 新型コロナウイルス感染症から、あなたと身近な人の命を守るよう、日常生活を見直してみましよう。

<p>1 ビデオ通話で オンライン帰省</p> 	<p>2 スーパーは1人 または少人数で すいている時間に</p> 	<p>3 ジョギングは 少人数で 公園はすいた時間、 場所を選ぶ</p> 
<p>4 待てる買い物は 通販で</p> 	<p>5 飲み会は オンラインで</p> 	<p>6 診療は遠隔診療 定期受診は間隔を調整</p> 
<p>7 筋トレやヨガは 自宅で動画を活用</p> 	<p>8 飲食は 持ち帰り、 宅配も</p> 	<p>9 仕事は在宅勤務 通勤は医療・インフラ・ 物流など社会機能維持 のために</p> 
<p>10 会話は マスクをつけて</p> 	<p>3つの密を 避けましょう</p> <p>1. 換気の悪い密閉空間 2. 多数が集まる密集場所 3. 間近で会話や発声をする密接場面</p>	

手洗い・
咳エチケット・
換気や、健康管理
も、同様に重要です。

○同会議では、これまで基本的な感染症対策として、手洗いや咳エチケット等の重要性、クラスター（集団感染）が生じやすい、「3つの密（密閉空間、密集場所、密接場面）」の回避などを呼びかけてきました。

2) 企画セッション

(2025年11月9日(15:00~16:30) A会場(会議室1))

●企画セッションA6: 資料【P171-174】

急がれる大都市激甚災害に対応する共助の再構築—東京都江東5区の250万人の住民から学会へのSOS : オーガナイザー: 臼田裕一郎(防災科学技術研究所), 久保英也(青森大学)

2011年東日本(地震+津波)、2016年熊本(地震)、2024年能登半島(地震+豪雨・水災)と激甚災害は続く。そこから多くの経験や示唆を獲得、次の減災対策に生かしてきたが、これらは地方・郡部を中心に発生した。一方、都市部で発生した1995年の阪神淡路大震災は、その被災地の人口、企業などの集積が桁外れに大きく、公助の限界が露呈した。

大都市部で公助を補完するはずの肝心の共助は、ここ30年で住民のつながりの希薄化と自治会役員の高齢化による組織率の低下などにより、その推進力を急速に低下させている。

このような中で、桁外れに高い人口密集が「災害関連死」を激増させることは容易に想定され、大都市部での「新しい共助」づくりについて真剣に議論するタイミングに来ていると考えている。

そこで本セッションでは、東京都江東5区、とりわけその中で最大の人口を抱える江戸川区を一つの題材に、「予防原則」に則り大都市激甚災害への対応できる「新しい共助」の在り方・枠組みについて、提案、議論することを目的としている。その範囲は防災・減災の研究者に留まらず、リスクコミュニケーション、金融まで幅広く、分野横断&横串の当学会としての特性に合致する。同時にそれは学会の真価を問うテーマでもある。(以上資料より)

●A6-1 久保英也(青森大学): 大都市激甚水害に直面する江戸川区民からSRA-JへのSOS

【内容】大水害時の避難対応への強い危機感がありヒト・モノ・カネへの対応が必要

- ・江戸川区は人口70万人であり、大水害時には区の9割は浸水し、避難者は25,000人。
- ・青森大学東京キャンパスは南の高台にあり、避難所となっている。区内に避難所は7箇所あるが避難対応人数は約2,000人しかなく、避難所に来れない人が多数発生し、災害関連死は1,000人以上になると想定している。
- ・大学が行政と接触できる機会は少なく、地域へリスクをどう伝えるか、イメージできるものとする必要がある。
- ・「ヒト」は防災士の増員(年間50人)を目指す、実働できる防災士とする必要がある
- ・「モノ」室内テント、水循環型シャワーの準備、避難所受入支援システム、避難所をつなぐホームページの立上げを実施中。
- ・「カネ」少額保険料で設備費用を賄える「コミュニティ水災保険」を活用。

【感想】

- ・防災士の増員の目的がわかり、実働防災士を目指していることを知ることができた
- ・最も影響の大きい大水害を想定することで、地震等への対応も基本的なところはカバーできそうだが、災害関連死への対応が今後重要になることがわかった。

●A6-2 李泰榮(防災科学技術研究所): 共助を動かす「ヒト」の育成とそのプログラムの在り方—防災士の見直

【内容】地域防災支援人材育成プログラムを作成し防災士のフォローアップ研修などが必要

- ・災害対策基本法では地域防災組織の立ち上げを記述しているが、人材が不足している
- ・また、地域が多様化していることへの対応もできていない
- ・指定避難所への対応は行政中心でできるが、自主避難所への対応は後回しになる
- ・地域防災支援人材育成プログラムを作成し、全国で約 32 万人いる防災士のフォローアップ研修などに活用して支援人材を育成することが重要。

【感想】

- ・技術士の資格取得のための講義の中に、地域とのかかわり方の方法論をいれるのがよいといわれたがその通りだと思った。

●A6-3 奥村与志弘（関西大学）、久保英也（青森大学）：災害関連死の抑制は可能か

【内容】災害関連死を減らすことへの取組が必要

- ・災害関連死者数は東南海地震の被害想定としてはじめて数字（5.3 万人）＝リスクとして示された。
- ・災害関連死者数は、現れない死もあり、把握がむずかしい。超過死亡者数から想定できるが内容まではわからない。
- ・また、災害ごとでかわり、阪神淡路大震災はインフルエンザや、口腔ケアができなかったことによる災害関連死が多かった。西日本水害では暑さによる関連死が多かった。
- ・災害関連死相関図を作成しており、民間でそれぞれがどこに貢献できるかがわかる。

【感想】

- ・災害関連死が今後の災害では死因として最も多くなる可能性があり、取組んでいく必要があることを熱く語っておられた。

●A6-4 臼田裕一郎（防災科学技術研究所）：令和 6 年能登半島地震後の防災対策の変革と大都市災害への適用可能性

【内容】拠点への対応から一人一人へ変革が必要

- ・災害を経るたびに制度が変わり、能登半島地震を受けては、拠点への対応から一人一人への対応へと変わった。
- ・能登半島地震では、防災科学技術研究所が中心となり、交通系 IC カードと読み取り機を大量に導入し、サービス提供場所で IC カードを読み取ってもらうことで、サービスが届いていない人へ担当者を派遣し対応した。
- ・防災 DXを導入している自治体もあるが、都道府県ごとなどで機能が違い、能登半島地震では 1 人に対して 38 件もの入力が必要で、今後統合が必要である。
- ・災害時には平時の取組がまわらなくなることから、平時の仕組みに災害時の考えを反映する必要がある。

【感想】

- ・防災科学技術研究所は、能登地震では、2 分後にオンライン会議を行い、30 分後に派遣を決定し、その日のうちに現地にヘリコプターで入ったとのこと。仕組みができています。
- ・DX を用いて、一人一人への支援をする体制へと変化していることを知れた。

3.7 サイエンスフェア in 兵庫

サイエンスフェアは1月末の日曜日に開催されるため、準備から実施まで、JRNMNの事業年をまたぐことになるが、総会までに結果がとりまとまることから、2027.1.25実施のサイエンスフェアについてその準備と結果について報告する。

1) 目的・経緯

スーパーサイエンス指定校の発表の場としての「サイエンスフェア in 兵庫」があり、2016年からJRNMNはポスター発表とリスクのワークショップ等を行っている。

今回は次の2点について取り組んだ。

①学生ポスター発表の聞取り

学生のポスター発表を聞取り、アドバイスシートに記入し記録写真をとってから提出する。参加者で分担してなるべく多くのポスターを見る。

②熊のリスクを例にしたリスクリテラシー向上

旅行した時のリスクについて、現時点での評価と熊についての説明を受けたあとの評価を質問票に記入してもらうことで、リスクリテラシーの必要性を知ってもらう。

なお、ポスターの掲示と、ブックレットの自由配布を同時に行った。

2) 活動内容

サイエンスフェア公開セミナーを実施するにあたっての、活動内容のうち主なものを次表に示す。

表 3-1 サイエンスフェアin兵庫に関する活動内容

年月日	活動内容	方法	備考
2025.11.17 頃	サイエンスフェア in 兵庫事務局より開催案内のメールあり	メール	
2025.11.21	「サイエンスフェアの今年度の内容」について打合せ（参加者代表理事と執行理事）	ズーム	
2025.11.28	西村理事が参加申し込み	メール	
2025.11.28	事務局より JRMN の申込を受理したとのメールあり	メール	
2025.12.2	「熊についての勉強会」「具体的な方針案」について打合せ（3名）	公立大文化交流センター	別紙打合せ記録
2025.12.8	知の市場の前に、「学生のポスター発表への助言」「熊のリスク」の概要について打合せ(4名)	関西大学	別紙打合せ記録
2025.12.13	理事会のあとに「学生のポスター発表への助言」「熊のリスク」の詳細について打合せ(4名)	公立大文化交流センター	別紙打合せ記録
2025.12.25	事務局よりプログラムの初版の送付あり	メール	
2026.1.10	「学生のポスター発表への助言」「リスクリテラシー向上の質問」のロールプレイを実施（4名）	公立大文化交流センター	別紙打合せ記録
2026.1.24	理事会で当日参加者、懇親・交流会参加を確認	阪大中之島	
2026.1.25	（開催当日）		3名参加
2026.1.27	活動報告書作成		別紙
2025.2.14	調査結果についての取りまとめの打合せ		

打合せ記録（2025年度サイエンスフェア）2025.11.21

会議名	サイエンスフェア		
日時	2025/11/21(金)18:00~19:20(結果)	場所・開催方法	ZOOM
参加予定者	久保田、西村、刑部、古澤		
参加者	久保田、西村、刑部、古澤		
予定作成者		結果記入者	刑部
目的	サイエンスフェアについて		
資料			
	予定	結果	
1. 本日の内容、進め方について	検討項目 サイエンスフェアの内容、方法 目標時間 60分		
2. 昨年度のサイエンスフェアの確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター発表、資料配布と説明、アンケートを実施した ・話を聞いてもらえた人は約65名、熱心に聞いてくれた ・ハザードの説明用に資料があったほうがよかった ・内容についてもう少し絞ったほうがよかったかもしれない ・説明に関する感想をとるようにしたほうがいい 		
3. サイエンスフェアの今年度の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードとリスクの違いについては、今話題のクマを対象としたほうがいい ・ハザードが同じでもリスクのとらえ方は、人によって、状況によって違うのでまずそのことを知ってもらうことから始めるのがよい ・そのためには、短い数分の中で効果的に進めるため、カードをあらかじめ準備しておくのがよい ・新技術導入のリスク管理については、昨年度と同様で行うのがよいが、感想を聞くようにする ・アンケートは10問ぐらいにし、パソコンも持って行ってその場で答えてもらう。 		
4. 今後の予定	<ul style="list-style-type: none"> ・クマのリスクについては、知見がないので、各自調べて、12/2(火)14時より、大阪公立大学文化交流センター（大阪駅前第2ビル6F）で、これだけについて打合せする ・何回か対面での打合せが必要 		
5. その他	<ul style="list-style-type: none"> ・次回理事会は12/13で忘年会を兼ねるので、大阪公立大学文化交流センターで実施する。 ・大阪環境ネットの水藻さんが交流を兼ねた忘年会の準備をしており、その忘年会に参加する ・会員には忘年会があることを、なるべく早く知らせるようにする 		

メモ

●新技術導入のリスク管理についての感想アンケート

- ・内容
意味がある、意味はない、よくわからない、もっと知りたい、その他
- ・方法
ぜひやりたい、なんとかやりたい、面倒くさそう、やりたくないその他

打合せ記録 (2025 年度サイエンスフェア) 2025.12.2

会議名	サイエンスフェア (執行委員勉強会+打合せ)		
日時	2025/12/2 (火)14:00~17:00(結果)		
場所・開催方法	大阪公立大学文化交流センター (大阪駅前第2ビル6F)		
参加予定者	久保田、西村、刑部、古澤		
参加者	久保田、刑部、古澤		
予定作成者		結果記入者	刑部
目的	サイエンスフェアのため熊について知るなど		
資料			
	予定	結果	
1. ビデオを見て熊について知る		<ul style="list-style-type: none"> ・久保田理事提供のビデオをみる。(約1時間20分) ・聞き手は記者、講師は日本クマネットワークの代表理事 ・クマの生態、熊被害の増加の原因、熊に遭遇しない対策、遭遇した時の対策など。 ・クマについての知見はリスク評価する上で重要 	
2. 現在の熊のリスクは大きいか		<ul style="list-style-type: none"> ・メディアの報道からはリスクは大きいと感じる ・一方、交通事故の死者数、発生件数と比較するとリスクは小さい(2024年の全国の交通事故の死者は約2700人、熊被害による死者は2人)。ただし2025年の熊被害の死者は10月末で13人と多い。 ・クマのハザード(襲われた時の被害)は大きい。 ・被害の発生頻度を数字で表すことが重要ではないか 	
3. 熊についての情報		<ul style="list-style-type: none"> ・リスクについて考えるとき熊についての正しい情報が必要 ・熊は人を恐れ、人の気配があると隠れるのが一般的だが、人に突然出くわすと、身を守るため襲ってくることもある ・熊は頭がよく、餌の場を覚えており、例えば山菜取りで熊の餌場に近づくと襲ってくる場合がある ・熊は昼行性で日の出と、日の入り時に活発に活動する。ただし、人里近くの熊は昼間人がいるので寝て、夜行性となることもある。 ・熊は単独行動をするが、縄張りを持たず、お互いの距離は嗅覚などを使い、距離はとるようにしている。ただし餌が多いときは複数の熊がいる場合もある ・熊はまれに共食いをすることもあり、子熊を襲うこともある 	
4. サイエンスフェアでの活動(熊)		<ul style="list-style-type: none"> ・サイエンスフェアでは熊のリスクをリストマップに落とし、他のリスクと比較する方法が考えられる ・メディア等の情報から今のリスクを評価してもらったあと、熊に関する情報を整理したあとに、リスクを再評価してもらい、リスクリテラシー向上をはかってもらう方法も考えられる ・パネルは今ままでよい(今回作る時間はない) ・熊に関する配布資料があったほうがよい 	
5. サイエンスフェアでの活動(他)		<ul style="list-style-type: none"> ・学生のポスター発表に対して、社会実装を実現するためにどんなリスクがあるか聞くことも重要 ・JRMNの展示箇所に来る人にきくより、発表を回って質問をしたほうがいいのではないか ・昨年度行った「新技術に対するリスク対策」については、参加人数によって実施の可否を考えたほうがよいのではないか 	
6. 今後の予定		<ul style="list-style-type: none"> ・次回は12/8に地の市場の関西大学で講義の前に15時から実施する。 ・どんな方法がいいのか具体案を考えてくる ・資料についてもどんな資料があればいいか各自考えてくる 	

打合せ記録（2025年度サイエンスフェア） 2025.12.8

会議名	サイエンスフェア		
日時	2025/12/8(月)15:20~16:30(結果)	場所・開催方法	関西大学
参加予定者	久保田、西村、刑部、古澤		
参加者	久保田、西村、刑部、古澤		
予定作成者		結果記入者	刑部
目的	サイエンスフェアについて		
資料			
	予定	結果	
1. 12/2の打合せ結果の確認等		<ul style="list-style-type: none"> ・12/2の打合せ記録を確認する ・サイエンスフェアでは、学生のポスター発表の社会実装におけるリスクと、熊のリスクをとりあげる。 	
2. サイエンスフェア(学生発表の社会実装とリスク)		<ul style="list-style-type: none"> ・学生の悩みがないかを聞く方向 ・ポスター発表を社会実装する場合のリスクとして何があるかを聞き、まずそれを明確にすることでよい。 ・社会実装におけるリスクが思いつかない場合は、市場性や技術優位性等について聞いてよい ・リスクの基本的な対応方法は聞き手としては心得ておいたほうがよい（個別のアドバイスは難しい） ・リスクに対する手法はあることを必要に応じ伝える ・学生が委縮しないような聞き方とする必要がある ・どこを回るかは発表の概要が出てからでもよい ・記録表には発表している内容のメリットも記録する ・今回はじめて取り組む内容でありとにかく実施してみる 	
3. サイエンスフェア(熊のリスク)		<ul style="list-style-type: none"> ・熊を事例にハザードとリスクの違いを説明する ・現状でのリスクを考える上でマスコミの資料を使う方法も ・科学的なデータを説明するのにパネルのようなものが必要 ・結果をリスクマップにまとめる方法もある ・光合成実験のように順番に回っていく方法もある ・ロールプレイでやってみて理解しやすい方法をさがす 	
4. 今後の予定		<ul style="list-style-type: none"> ・12/13の理事会のあとでさらに内容をつめていく 	

打合せ記録（2025年度サイエンスフェア） 2025.12.13

会議名	サイエンスフェアについて（第3回会議）		
日時	2025/12/13(月) 15:20~16:30(結果)	場所・開催 方法	大阪府立大学文化交 流センター
参加予定者	久保田、西村、刑部、古澤		
参加者	久保田、西村、刑部、古澤		
予定作成者		結果記入者	刑部
目的	サイエンスフェアについて		
資料			
	予定	結果	
1. サイエンスフェアへの出展		<ul style="list-style-type: none"> ・出展の意図をわかりやすく提示する必要がある。 ・出展に意図に従い、実施内容を考えるのが重要である 	
2. サイエンスフェア(学生発表の社会実装とリスク)		<ul style="list-style-type: none"> ・対象とするポスター発表については、昨年度のスケジュールでは1週間前に概要がわかるので、前日の1/24の理事会のあとで調整することとする。 ・サンクスカードへの記入も必要であり、ヒアリング内容は絞っておく必要がある。 ・JRMNの参加者を3名とすると、2名はJRMNの場所での説明となるため、残り1名がまわることになる。 ・今回はじめて取り組む内容であり次回打合せではロールプレイ形式で試してみる 	
3. サイエンスフェア(熊のリスク)		<ul style="list-style-type: none"> ・質問のシートにはハザード（影響の大きさ）を追加してはどうか ・質問は少ないほうがよいので、住んでいるところのリスクはほぼないことから豊岡市と鹿角市の2問とする ・まず、今回の体験（考えてもらう）の意図を説明し、考えてもらう質問の内容を説明する。熊のリスクについて回答を記入してもらうが、ある程度時間が必要。そのあと熊のリスクに関する情報をわかりやすく説明し、再度熊のリスクについて回答してもらう ・質問の解答用紙は提出してもらい熊の説明用紙は手渡す。 ・説明用にA3程度の拡大用紙があったほうがよい。 ・次回打合せではロールプレイでやってみて資料や方法をレベルアップさせる ・結果を後日リスクマップにまとめてみる（当日は時間が少ないので今回、当日は実施しない） 	
4. 次回の予定		<ul style="list-style-type: none"> ・1/10（土）14:00 から、大阪公立大学文化交流センターで当日を想定したロールプレイを行い内容のレベルアップをはかる。 	

打合せ記録（2025年度サイエンスフェア）2026.1.10

会議名	サイエンスフェア（執行委員打合せ）		
日時	2026/1/10(土)14:00～16:30(結果)		
場所・開催方法	大阪公立大学文化交流センター		
参加予定者	久保田、西村、刑部、古澤		
参加者	久保田、西村、刑部、古澤		
予定作成者		結果記入者	刑部
目的	サイエンスフェアについて		
資料			
	予定	結果	
1. 本日の内容、進め方についてなど		<ul style="list-style-type: none"> ・検討項目 サイエンスフェアの集合場所等の確認 ロールプレイによる内容の確認 ・目標時間 120分 ・久保田代表理事から、学習指導要領が4月から変わり、学校の裁量が増え、学校独自の取組がしやすくなるなどの説明があった。新しい学習指導要領を前提として、取り組んでいく必要がある。 	
2. 当日の集合場所・集合時間		<ul style="list-style-type: none"> ・集合場所は総合受付がある神戸大学校舎1F ただしポスター展示は神戸県立大学校舎5F ・集合は9:30、展示開始は10:30 	
3. 学生ポスター発表の聞取り		<ul style="list-style-type: none"> ・開催概要資料に記載のポスター番号 H1(災害時のゆたんぼ)と H23(ビニール袋を代替する紙袋)について、一人が説明し、他の人が意見をいうロールプレイを行った。 ・目的について、賛同できる点をまず伝える。 ・目的を明確化、具体化することが必要であることを伝える必要がある。 ・先行研究に関する情報収集を深めることが必要であることを伝える必要がある。 ・発表する学生が、萎縮しないような質問、意見(アドバイス)となるよう気を付ける。 ・社会実装するためのリスク管理については、そこまで話が及ばないことがほとんどになりそう。ポスターの概要をよく読んでおく必要がある。 ・ポスター番号が奇数番号と偶数番号で発表時間が違うため、JRMN 担当者が聞きたい発表と、時間帯を担当者間で調整する必要がある。 	
4. 熊のリスクを例にしたリスククリテリオンについて		<ul style="list-style-type: none"> ・一度ロールプレイで、実際の説明を行ったが、8分程度かかった。なるべく多くの人に聞いてもらうために、時間短縮の工夫について考えてみる。 ・記入用紙は以下の点を修正する <ul style="list-style-type: none"> ・①は「あなたは熊のリスクについてどう思うか」とする ・秋に旅行に行った場合とする ・①では具体的な目撃数は記載しない→後日リスククリテリオンの面から情報は記載するに変更 ・用紙は回収すると記載する。 ・配布資料は以下の点を修正する <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードは脅威ではなく、危険源とする ・旅行者の目撃頻度は、秋と限定するため10倍見込む ・説明資料は固い紙に貼ったものを2部作成する。記入資料・配布資料はプリントパックなどの外部のサービスを用い100部作成する。 	
5. 今後の予定		<ul style="list-style-type: none"> ・1/24(土)の理事会時に最終確認、調整する。 ・学生ポスター発表の聞取りの分担はそれまでに大まかな調整を済ませておく。 	

3) 当日揭示資料



一般社団法人 日本リスクマネージャネットワーク

Japan Risk Managers' Network



環境リスクマネジメントで持続可能な社会の実現に貢献

【設立経緯】

「一般社団法人日本リスクマネージャネットワーク」は、大阪大学大学院の運営する「環境リスク管理のための人材養成」プログラム（2006年～2012年）で学んだ社会人有志がその知識を有効に生かそうと結成したものです。プログラム修了者は日本リスク研究学会（現リスク学会）から「リスクマネージャ」資格の認定を受け、学会に登録されています。

【目的】

本会はリスクマネージャが社会の要請に応じてリスク事象に取り組み、リスクマネジメントの普及・支援と調査研究を行うことにより、社会の安全・安心の向上に資することを目的として設立されました。

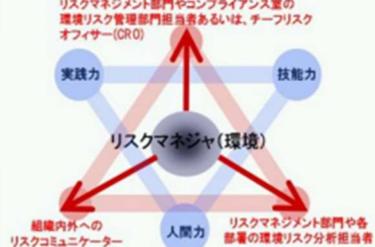
【活動内容の一例】

- エコ検定対策講座企画運営
- リスク研究学会での発表
- 「環境基礎論」ブックレット発刊
- ＜市民向けセミナー＞
- 小島直也氏（大阪大学）
「自動車排ガス対策にみるリスクトレードオフ：大気汚染VS地球温暖化」
- 竹田宣人氏（横浜国立大学）
「リスク学辞典からみた社会と経済：リスク学辞典がどう変わったか」
- 岸本亮生氏（大阪大学）
「リスクに対する主観的判断と客観的評価バイアス、ナッジ、費用便益分析」
- 竹本菊郎氏（元住友電工、工学博士）
「日本における環境問題に対する取り組み方とは？ 放射能汚染の現状と今後のあり方」 など多数
- ＜会員交流会＞
阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター（HAT神戸）など

【知の市場】

「知の市場」は、「互学互教」の精神のもと「現場基点」を念頭に「社学連携」を旗印として実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指して、人々が自己研鑽と自己実現のために自立的に行き交い自律的に集う場とする。（「知の市場」ホームページより抜粋）

- 知の市場関連講座の開催（2010年～）
「環境基礎論（持続可能な社会と環境）」 「防疫薬総合講座」



リスクマネジメント部門やコンプライアンス室の環境リスク管理部門担当者あるいは、チーフリスクオフィサー（CRO）

実践力 技能力

リスクマネージャ（環境）

組織内外へのリスクコミュニケーター 人間力 リスクマネジメント部門や各部署の環境リスク分析担当者

数千名の講師と万人の受講者が互いに自己研鑽

互学互教
プロの現場の知恵を 広く社会に活かす

現場基点
多様な経験との多様な能力で教養を高める

社学連携

知恵のフリーマーケット





持続可能な社会と環境





受講者募集



【リスクマネジメントが必要な理由】

1. “リスク”の語源と定義

誰もが、普通の会話で使う“リスク”という言葉、そもそも“リスク”の認識は古く、その語源は、伊弉語の「risicare（リジカシ）：勇気を持って試してみる」で、17世紀に船舶での交易が芽生えた時期に、荒波や岩礁などの危険を切り抜け、富を得ることに由来するという説があります。



レヴァント「ガリヤ湖の嵐」

今では、“リスク”は、一般的には「危険」とか「損害の恐れ」、つまり「好ましくない結果になる。又は、影響を受ける可能性」という意味で使用されていますが、長い歴史の中で、さまざまな分野の概念が入り、捉え方も多様化し、言葉の定義も変遷しています。

2. リスク(Risk)とハザード(Hazard)

リスクをもたらす源(危険源)のことをハザードといいます。
※つまり、ハザードを認識しなければ、リスクを認知できません。

<ハザードとリスクの違いの例>

トラは固有の危険性をもっているためハザードにあたりますが、左の図はトラのそばに人がいないので、トラに襲われる危険性はありません。この状態は、トラによって負傷の生じるおそれ(リスク)がない状態です。反対に右の図はトラの近くに人がいるので、リスクが高まっている状態となります。

危険性・有害性(ハザード)



人がいないため災害が起こらない

リスク



人がいるので災害が起こる可能性がある

【例】危険性の特定：トラ（ハザード）がいて、うかつに接近して襲われ怪我をする。

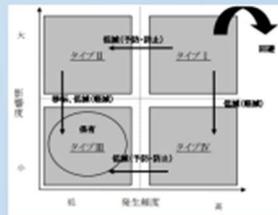
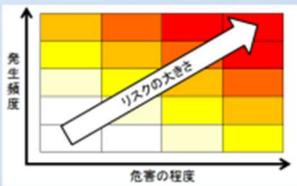
平成24年度中小零細規模事業場集団リスクアセスメント研修事業 リスクアセスメント事例
厚生労働省

3. リスクの大きさ

リスクの大きさは、以下のように表せます。

$$\text{リスク} = \text{影響の大きさ(重大性)} \times \text{発生の可能性(発生頻度・確率)}$$

4. リスクのマップ・対策



- リスク度①：発生頻度少 損害規模小
- リスク度②：発生頻度多 損害規模小
- リスク度③：発生頻度少 損害規模大
- リスク度④：発生頻度多 損害規模大

先進企業から学ぶ事業リスクマネジメント 実践テキスト 平成17年3月経済産業省

5. 科学技術とリスクマネジメント

科学技術の進歩に伴い、人々の健康や環境にどのような影響を与えるかわからない場合があります。リスクマネジメントとは、新たなリスクを予測し、最小限に抑えるための取り組みであり、リスクの特定、リスクの評価、リスク対策の選択などのプロセスが含まれます。

研究活動の国際化やオープン化に伴う新たなリスクに対しては、研究の健全性・公正性(研究インテグリティ)の自立的な確保が必要です。

6. 科学技術のリスクコミュニケーション

リスクコミュニケーションには、リスクに関する情報を収集し、分析することが含まれます。新たなリスクが生じることを予測し、そのリスクを最小限に抑えるための取り組みの一環として、重要な役割を担っています。

リスクに関する情報を、科学者や政府、企業などの専門家から市民に向けて、わかりやすく伝えることを目的としています。



「科学技術社会の危機管理について」-新たな危機に備えるための考え方と方策-瀬台晴之

7. 伝わらないコミュニケーション

専門家である科学者は、分からないことは「分からない」と率直に伝える努力が必要です。

<専門家であるということの条件>

- ①自分の専門を正確に分かりやすく、専門外の人に説明できる
- ②自分の専門が社会的にどのような意味があるのかということを知れる
- ③そして自分の専門にはどのような限界、制約があるかを知れる。

<科学技術を社会に実装>

科学技術を社会に実装するとき、どうしたらいいのでしょうか。難しい問題だと思いますが、仮にリスク論で語るとしたら

- ・リスクはゼロではない
- ・つまり失敗する確率はゼロではない
- ・納得のできる失敗とは何だろうか考える

<欧米での後悔の最小化 (Least Regret Policy)>

やるべきことをすべて尽くして、これだけやって失敗したのなら仕方ないだろうと思えば、失敗は許容できます。

それが尽くされず、知らないうちにリスクを負われ、被害をこうむれば怒るのは当然です。

こうすれば100%安心ということがない以上、ベストエフォート型で、議論を尽くしていくことも必要となります。



「トランス・サイエンス」は、1970年代にアメリカの核物理学者、アルヴィン・ワインバーグが作った用語です。

トランス・サイエンスの課題は、遺伝子組み換え、原子力発電、ナノテクノロジー、ICTなど、今後ますます社会に深く浸透していく。

この課題解決に有用な概念として「ELSI (ethical, legal and social implications)」がある。「倫理的・法的・社会的な課題」と訳される。

ゲノム編集をはじめ科学技術によって「できること」が爆発的に拡大している反面「やって良いこと」「やらなければならないこと」そして「やってはならないこと」の検討がなおざりにされている。

科学技術が社会で活用するための必要不可欠な概念です。

(出典：『トランス・サイエンスの時代』)

リスクコミュニケーションは科学者と市民の「対話」 大阪大学名誉教授 小林傳司

4) 質問票・配布資料

質問票

2025年度サイエンスフェア 熊を例にリスクリテラシー向上をめざして

①あなたは熊のリスクについてどう思うか？

質問1	熊(ハザード)による被害の大きさは	回答
	<p>1)ほとんどない 2)小さい(許容できる) 3)ある程度大きい 4)大きい</p> <p>小 ←————— 被害の大きさ —————→ 大</p>	
質問2	兵庫県豊岡市に秋に1泊2日で旅行に行った時の熊の被害にあうリスクは (2025年の熊の目撃件数119件、人身被害(ケガ)1名：人口約7.5万人)	回答
	<p>1)ほとんどない 2)小さい(許容できる) 3)ある程度大きい 4)大きい</p> <p>小 ←————— リスク —————→ 大</p>	
質問3	秋田県鹿角市に秋に1泊2日で旅行に行った時の熊の被害にあうリスクは (2025年の熊の目撃件数748件、人身被害(ケガ)7名)：人口約2.7万人)	回答
	<p>1)ほとんどない 2)小さい(許容できる) 3)ある程度大きい 4)大きい</p> <p>小 ←————— リスク —————→ 大</p>	

②熊についての説明を聞いたあとに熊のリスクについてどう思うか？

質問1	熊(ハザード)による被害の大きさは	回答
	<p>1)ほとんどない 2)小さい(許容できる) 3)ある程度大きい 4)大きい</p> <p>小 ←————— 被害の大きさ —————→ 大</p>	
質問2	兵庫県豊岡市に秋に1泊2日で旅行に行った時の熊の被害にあうリスクは (2025年の熊の目撃件数119件、人身被害(ケガ)1名：人口約7.5万人)	回答
	<p>1)ほとんどない 2)小さい(許容できる) 3)ある程度大きい 4)大きい</p> <p>小 ←————— リスク —————→ 大</p>	
質問3	秋田県鹿角市に秋に1泊2日で旅行に行った時の熊の被害にあうリスクは (2025年の熊の目撃件数748件、人身被害(ケガ)7名)：人口約2.7万人)	回答
	<p>1)ほとんどない 2)小さい(許容できる) 3)ある程度大きい 4)大きい</p> <p>小 ←————— リスク —————→ 大</p>	

③答えられる範囲で記入して下さい

現在住んでいる市町村 () 出身市町村(居住市町村と違う場合) ()

①野生の熊を見たことがある ②熊に関するいやな思い出がある ③熊のことが好きである

①～③で該当するもの () 複数回答可

この用紙は回収します。ご協力願います

1. リスクに関する基礎知識

- ・ ハザードとは「危険源」で「被害の大きさ」がある
- ・ リスクとは「危険性(被害の可能性)」
リスク=被害の大きさ×発生頻度



トラはハザード（お腹がすいていたら人も食べる）→被害があれば大きい
檻に入っているトラのリスクはほとんどない（被害の発生頻度はほぼないため）

2. 熊に関する知識

1) 熊のことをよく知る（「熊にあったらどうするか」ちくま書房他より）

①. 熊の性質

- ・ 熊は本来、人を襲うような動物ではなく、熊は人を恐れ、人を見たら隠れる。
（目撃件数約 100 件につき 1 件程度の被害の発生で熊は人を見たら襲うのではない）
- ・ 人間を怖れる熊が生き残ってきた（人を襲う動物は人により絶滅されてきたのでは）

②. 熊の脅威

- ・ 熊は人に突然会って驚き威嚇する。特に母熊は子熊を守るためすごい剣幕で怒る。
- ・ 突然出会ったとき、人が逃げると追ってきて襲う場合が多い（熊のほうが強いと認識）
（熊は時速約 50km で走ることができ襲われたら逃れられない）
- ・ 襲われたら、爪や牙で人は大けがをし、死ぬ場合もある。
- ・ 若い熊は経験が少なく好奇心が旺盛で、人里にも近づく場合がある。
- ・ 熊は頭がよく、山菜がある場所、残飯がある場所を一度知ると何度でもくる。

2) 実際の熊の目撃件数より目撃する頻度等を整理してみる

①. 豊岡市での目撃頻度（熊の目撃は 1 件当たり 1 人と仮定）

人口約 75,000 人 ÷ 目撃 119 件 = 約 630

住人 → 1 年間で熊を目撃するのは約 630 人につき 1 人

→ 1 人の人が熊を 1 回目撃するには 630 年生きて 1 回

旅行者 1 泊の旅行の場合さらにその 365 分の 1、秋は 10 倍頻度が高いと考える。

$630 \times 365 / 10 = \text{約 } 23,000$ → 秋の旅行を約 2.3 万回して目撃は 1 回

②. 鹿角市での目撃頻度（熊の目撃は 1 件当たり 1 人と仮定）

人口約 27,000 人 ÷ 目撃 748 件 = 約 36

住人 → 1 年間で熊を目撃するのは約 36 人につき 1 人

→ 1 人の人が熊を 1 回目撃するには 36 年生きて 1 回

旅行者 1 泊の旅行の場合さらにその 365 分の 1、秋は 10 倍頻度が高いと考える。

$36 \times 365 / 10 = \text{約 } 1,300$ → 秋の旅行を約 1,300 回して目撃は 1 回

裏面へ

3. リスクリテラシーの活用

1) リスクをよく考えて適正に見積もりベネフィットとあわせて行動

- ・リスクは人の安全・安心に関わるため、何事もリスクが大きいと思うのは当然。
- ・逆に思い込みからリスクを小さいと思うのは危険。
- ・「被害の大きさ」と「発生頻度」をよく考えリスクを適正に見積もることが重要。
- ・このとき、リスクに関する科学的・客観的な情報を得ることが重要

2) 熊の目撃があった地域では熊のリスクはゼロではない

- ・熊の出やすい場所、出やすい時期や時刻があり、発生頻度は上記計算より大きくなる。
- ・〇〇〇人に1人の、その1人になる可能性もある。(不幸はある)

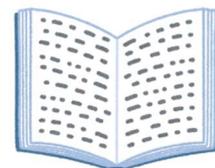
3) 熊のリスクに対する心構えは必要

- ・見通しのきかない道では、熊と出会わないよう音を出すなどこちらの存在を知らせる。
- ・熊と突然出会っても逃げない。落ち着いて、少しずつ距離をとる。
- ・熊の活動時間の日の出頃、日没頃に出歩くときは特に注意する。

(以下参考ワード)

●バイアス (先入観、思い込み)

- ・住んでいる人は熊のリスクを小さいと思う傾向にある
- ・旅行者は熊のリスクを大きいと思う傾向にある



●メディアリテラシー (情報を批判的に評価し、適切に活用する能力)

- ・メディアは話題性のあるものを取りあげ、事象の発生頻度などは相対的にしか伝えない
- ・危険な熊(人の味を占めた熊など)の発生情報を伝える役割は重要(かつて不幸があった)

●統計リテラシー (統計データを正しく理解し、適切に活用する能力)

- ・発生頻度の理解には統計的な理解力が必要
- ・Aの箱は100個の玉がありうち7個も赤い玉があり、Bの箱は10個の玉がありうち1個しか赤い玉がない場合、どちらの箱が赤玉を手に入れやすいと言えるか？

●リスクリテラシー (リスクに関する情報に適切に対処する基本的能力)

- ・よくわからないリスクはリスクを大きく見積もりがちである
- ・内容をよく知るとリスクは小さいと思うように変わる
- ・ただし、リスクは複雑で場合によってはリスクが高くなる場合を改めて知る必要がある

●目標達成のリスク管理

- ・目標をたてるとき、達成は容易だと思いがち
- ・詳細につめていくと、大変なことがわかってくる。
- ・個々のリスク (大変なこと) も大事な順に取組めば解決できそうになる

- 4) 活動成果・振り返り・今後の課題等
活動記録等を次表に示す。

2025 サイエンスフェア in 兵庫 活動記録

件名	サイエンスフェア in 兵庫への参加記録
目的	リスクリテラシーの重要性、JRMN の活動を紹介することで、リスク管理の考えを学生や教員に普及させる。
日時	2026 年 1 月 25 日 (日) <u>ポスター発表 10:30 時～ 15 時 (受付 9:30)</u> <u>懇親・交流会 18:00～20:00</u>
場所 (開催方法)	兵庫県立大学神戸情報科学キャンパス 512 号室 (ポータライナー「計算科学センター」駅下車) 神戸市中央区港島南町 7 丁目 1 番 28
参加者	<u>ポスター発表 3 名</u> 久保田、西村、刑部 (昨年と同じ) (申込み 4 名) <u>懇親・交流会 2 名</u> 久保田、刑部 (昨年度は参加せず)
項目	ポスター発表で、熊を例にリスクリテラシーを身につけてもらうことの重要性、JRMN の活動を紹介 ①熊のリスクに関する質問票(3 項目)を配布し各自の評価を 4 段階で記入 ②次に熊による被害の大きさ、熊の目撃頻度の実際について説明(資料配布) ③再度同じ質問に解答してもらう
結果	1) ポスター発表 予定通り 10 時から 15 時まで普及活動を実施できた <u>質問票回収数 47 枚</u> 先生(うち 4 枚は交流会で)への <u>配布 5 枚</u> 合計 52 枚 <u>サンクスカード受領 12 枚</u> (昨年 12 枚) <u>アドバイスシート提出 8 枚</u> (昨年数枚) <u>環境基礎論 (冊子) 配布 数冊</u> 2) 懇親・交流会 <u>名刺交換 8 名</u> (ポスター展示での配布 1 名 (刑部) を含め合計 9 名) 名刺交換した桑田先生から、「 <u>2026 年 8 月 5 日～10 日に、氷ノ山・鉢伏山・蘇武岳を中心とする山域で登山部のインターハイが開催され</u> 」このときの熊のリスクに関して先生とお話をし今後問い合わせがある可能性あり
感想等	(別紙)
予定等	回収した質問票の結果のとりまとめ
備考	

(別紙：感想)

件名	サイエンスフェア in 兵庫への参加記録 その2 (感想)
よい点	<ul style="list-style-type: none">・旬の話題 (関心事) をテーマとしたこと・50人近い回答が得られ、多様な回答があってよかった。・回答してもらったあと、どう思うかと問うと色々な意見が聞けた。・アドバイスシートは10枚配れ、聞くだけはもっとできた。
反省点	<ul style="list-style-type: none">・情報や意見を効果的に伝えられたか、疑問が残る・私の体調がよくなり十分な活動ができなかった。・ポスター発表の聴講はもっと行いたかった。・説明用厚紙へ貼るのが弱かった (スティックのりで補強はした)。・前もって全員がロールプレイしたほうがよいかい(家族などに対しても)。
改善点	<ul style="list-style-type: none">・課題設定 (→リスクの特定) を具体的に絞り込む・短時間でプレゼンを行うスキルを身に付ける必要性を痛感した・プレゼン資料として図やグラフ、スライドなど視覚的要素を取り入れたかった。・学生のポスター発表のアドバイスは、前もって考えておく方がよい。・同じ部屋のポスター発表は全部回り、当会にもきてもらうのがよい。・すぐ撤去できる準備をしておけるようにする。
その他 (交流会等)	<ul style="list-style-type: none">・参加者は兵庫県教育委員会、企業・大学、高等学校の関係者であり、開催趣旨に沿った課題を共有しているので、「熊のリスク」について、探究学習の観点からも話題性があったと思う。・交流会は関係者と話ができてよかった。JRMNの紹介にもなった。・参加者は32名であり、名刺を次回はその数用意する必要がある。

5) 来訪者の感想

企業向けにも「Thanks!!カード」があり、来てくれた高校生が以下のような感想を書いたカードを受け取った。

Thanks!!カード

No	記入者	内容
1	高校生	熊に会うリスクは思っていたより低かったように、先入観に惑わされずに、自分でよく調べて、冷静にリスクを見極めて対処を考えるのが大切だと思いました。
2	高校生	そこまで実はクマには会わないことは驚きだった。情報の多さのみで出会いやすいと錯覚してはいけないと思いました。
3	高校生	偏った情報で判断するのではなく、1つ1つの情報から適切に対処して行ってリスクを評価することが大切と分かりました。
4	高校生	リスクの考え方を数値化できるのがすごいと思った。数分で考えが変わった。
5	高校生	分かりやすかったし、質問形式で楽しかったです。
6	高校生	情報リテラシーはやっぱり大切だと思った。リスクとハザードの意味が知れてよかった。
7	高校生	リスクは人それぞれ違うことがわかった。自分の地域はどうか調べようと思った。
8	高校生	山登りをよくするので、熊の目撃情報があると行きにくいかなあとと思うけど、意外と確率でみたら少なくてびっくりした。
9	高校生	リスクリテラシーのことは初めて知りましたが、分かりやすくてよかったです。
10	高校生	クマの目撃が最近多くて、計算で自分を守れることができるには、すごいなと思いました。
11	高校生	メディアの報道だけでなく実際のデータもみることが大事だと分かった。1つの入手先のみで判断するには危ないと思う。
12	高校生	予想していたよりもクマのリスクは小さいものだと分かったが、それでもクマの被害は大きく、住んでいる地域的にも対策することは大事だと考えた。

5) アドバイスシートの提出

今回は、学生のポスター発表に対して、積極的に聞きに行き、アドバイスシートを提出（控えとして写真にとる）した。提出したアドバイスシートの内容を次表に示す。

なお、提出していなくても、ポスター発表の内容を箇所はこれ以外にもある。

アドバイスシートの概要

No	発表No	発表者	タイトル	総合評価	アドバイス内容	担当
1	H19	兵庫県立小野高等学校	竹の特性を活かした持続可能な建築構造を考案する	3	<ul style="list-style-type: none"> ・竹の特性を活かした建築構造その他の具体例は？ ・アーチ型の構造が強い理由は？ ・実験結果から見えてくる課題は？ ・新たな発見と期待します 	久保田
2	H25	兵庫県立姫路西高等学校	長三和音の構成音の音量比 ヒートマップを用いた試みー	5	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の心地よさを数字であらわせるとAIなどに使えるようになると感じよかった ・人の感覚と数字の整合性は確認しておくのがよい 	刑部
3	H27	神戸大学附属中等教育学校	紅茶ポリフェノールはインフルエンザ以外の病気予防にも有効か	5	<ul style="list-style-type: none"> ・実際のとりを対象とした実験としてどういうものがあるかを想定しているのがよかった 	刑部
4	H29	兵庫県立尼崎小田高等学校	接ぎ木による薬用成分の移行について	5	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的、専門的な内容でよかった ・プエラリンの効用の分かりやすい説明があったらよかった ・研究を後輩に引き継ぐために参考資料は記載しておいたほうがよい 	刑部
5	H32	兵庫県立明石高等学校	身近な材料を使って防音効果が高い構造を探る!!	5	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究を参考にしているのがよい。 ・できれば建築用の防音材でやってみるのがよいのでは 	刑部
6	H33	兵庫県立明石高等学校	感圧ゴムを用いてアナログジョイスティックを制作する	4	<ul style="list-style-type: none"> ・応答時間や、費用のことも考がえているのはよかった 	刑部
7	H29	兵庫県立尼崎小田高等学校	接ぎ木による薬用成分の移行について	3	がんばって下さい	西村
8	H30	兵庫県立豊岡高等学校	周波数スペクトルを用いた音の表情	3	音の世界は深いのでいろいろ勉強してトライして下さい	西村

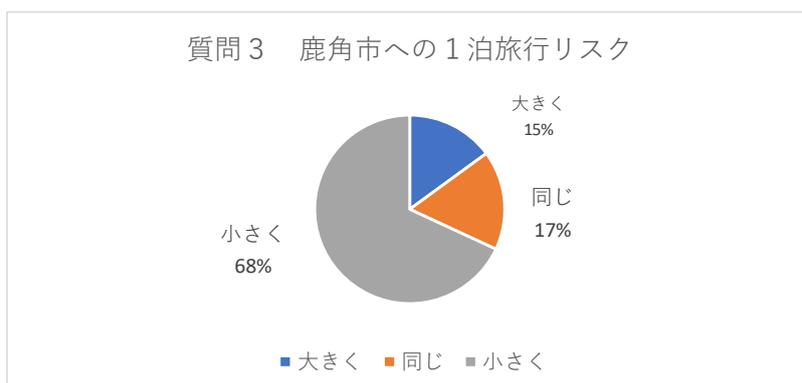
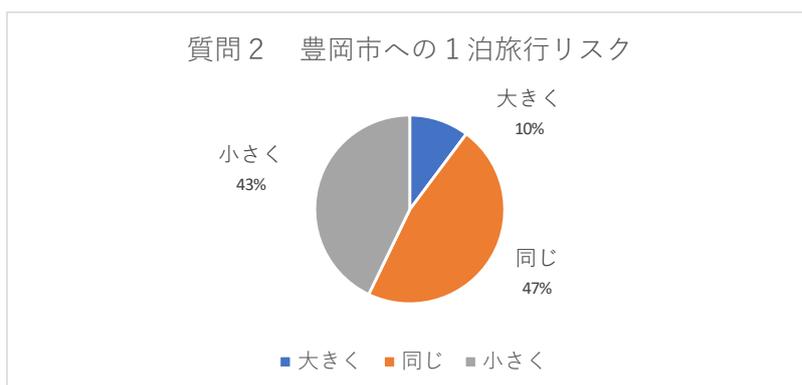
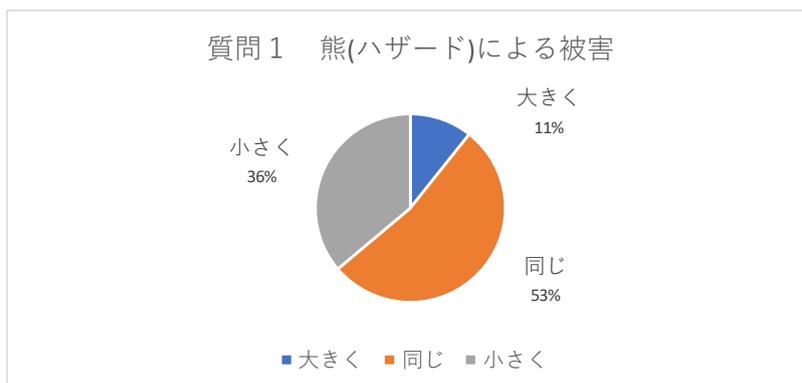
6) リスクリテラシー向上のための質問票への回答結果

3つの質問に対し、現時点での被害・リスクの大きさに対する回答に比べ、熊に関する情報を得た後での被害・リスクの大きさの回答がどうなったかをまとめた結果を次表に示す。回答者数は47名であった。

質問①の被害の大きさは、被害が大きく、そのまま同じ割合が多いと予想していたが、熊についての説明を聞き、熊の被害は大きいと評価しなおす人が約1割、逆に被害は小さいと評価する人が約4割と意外な結果になった。

質問②の豊岡市への1泊旅行、質問③の鹿角市への1泊旅行とも、熊についての説明を聞き、リスクは小さいと評価しなおす人ばかりと予想していたが、1割程度は逆に、リスクは大きいと評価しなおす人がいたのは以外だった。しかし、リスクリテラシーの面から見ると、熊のリスクを過小評価していた人が、より現実に即した認識にかわったということでリスクリテラシーが向上したと考えられる。

質問		熊の説明を聞いたあとの評価変化（人数）		
		大きく	同じ	小さく
質問1	熊(ハザード)による被害の大きさ	5	25	17
質問2	兵庫県豊岡市に秋に1泊2日の旅行でのリスク	5	23	21
質問3	秋田県鹿角市に秋に1泊2日の旅行でのリスク	7	8	32



(全回答)

	当初質問			再質問			居住市町村	出身市町村	① 野生の熊	② 熊の記憶	③ クマが好き
	質問1	質問2	質問3	質問1	質問2	質問3					
回答1	3	1	3	2	1	1	川西市				
回答2	4	1	3	4	2	4	宝塚市				
回答3	4	2	3	4	3	3	三田市		1		
回答4	1	1	3	1	1	1	宝塚市				1
回答5	4	2	3	4	1	2					
回答6	1	1	3	1	1	1	西宮市	洲本市	1		
回答7	3	1	2	2	1	1	養父市	大屋町			
回答8	3	1	3	2	1	2	豊岡市				
回答9	4	2	3	2	1	2	明石市				1
回答10	4	2	3	3	1	2	神戸市	小野市			
回答11	3	1	2	2	1	1	明石市				1
回答12	1	2	4	2	1	2	神戸市北区				1
回答13	4	1	1	4	1	2	神戸市	竜野市			1
回答14	2	1	2	2	1	2	加古川市				1
回答15	4	4	4	3	2	2	西宮市		1		
回答16	3	1	2	3	1	1	神戸市				
回答17	3	2	2	4	1	1	西宮市				1
回答18	3	2	3	2	2	2	神戸市				
回答19	3	1	1	3	1	2	神戸市		1		
回答20	3	2	3	3	2	2					
回答21	3	2	2	2	1	1					
回答22	1	2	4	1	1	2	姫路市	吉野			
回答23	4	3	4	3	2	2	姫路市			2	
回答24	3	1	2	3	1	2	網干				
回答25	3	2	3	3	2	3	神戸市	米子市			
回答26	1	1	2	1	1	1	尼崎市				
回答27	1	2	3	1	1	2	尼崎市				
回答28	4	1	2	4	1	1	神戸市		1		
回答29	2	3	3	3	2	2	神戸市				
回答30	4	2	3	3	2	2	西宮市				
回答31	4	3	4	2	2	2	西宮市				
回答32	4	2	4	1	1	1	大阪市				1
回答33	3	2	2	3	1	3	神戸市		1		
回答34	3	3	4	2	2	2	大阪市				
回答35	2	4	4	3	2	2	伊丹市				
回答36	1	3	3	1	2	3	尼崎市				1
回答37	1	2	3	1	1	1	西宮市				1
回答38	1	1	2	1	1	1	尼崎市				1
回答39	1	2	3	1	2	4	加西市	洲本市	1		
回答40	2	3	4	1	1	2	多可町	広島県			
回答41	2	3	4	2	3	4	西宮市				
回答42	3	3	4	2	2	3	西宮市	川西市		1	
回答43	3	2	2	3	1	2					
回答44	3	2	3	3	2	2	神戸市				
回答45	3	1	2	2	1	2					
回答46	3	1	3	3	1	4	神戸市				
回答47	3	2	3	4	3	4	芦屋市				

●状況に応じ取り組む事業

3.8 講師派遣

昨年同様、知の市場の「防疫薬総合管理セミナー」において、会員が講師として活躍し、本会の社会貢献の一面となった。

- 1)防疫薬総合管理セミナー「リスクと便益について学ぶ」(古澤啓一 令和7年12月8日)

3.9 講演会開催（JRMN独自セミナー）

1) 予定

タイムリーなテーマでセミナーを開催することは、社会におけるリスクマネジメントの普及、会員のリスクマネージャとしての自己研鑽、JRMNの社会的存在意義の向上に資する。

今年度は、他の精力的に取り組む事業などの状況に応じて企画・実施する。

2) 結果

今年度は、日本リスク学会との共催の「リスクマネージャ公開セミナー」を計画では3回実施の予定（結果は2回実施：2026年3月実施を含む）であり、このセミナーを充実させるため今年度、JRMN独自セミナーは実施しなかった。

3.10 他団体との連携

1) 目的・経緯

昨年同様、NPO法人：大阪環境カウンセラー協会（OECA）と交流し、お互いの団体が協力することでいろいろなメリットがあることから、今年度は以下のような連携活動を実施した。

- ①大阪環境ネットの会員継続（費用は無料）
- ②「2025 大阪市こどもカーニバル」（4月20日長居公園で実施）でネットのメンバーとしてワークショップ「葉っぱと遊ぼう CO2を目で見る実験」を実施。実験参加者16組。
- ③「エコ縁日」（11月8日鶴見緑地で開催）で大阪環境ネットのメンバーとしてワークショップ「葉っぱと遊ぼう CO2を目で見る実験」を実施。参加者16組。
- ④理事同士の意見交換会

2) 大阪環境ネットの会員継続

- (1)大阪環境ネットとは

「大阪環境ネット」(任意団体)は、「なにわエコ会議」に参加しているエコパートナーであり、情報の交換が中心となるネットワークであり(当会のセミナーの参加募集の案内先とできる)、会費は不要である。

「大阪環境ネット」についてHPを抜粋して次に添付した。

(大阪環境ネットのホームページよりその紹介文)

大阪環境ネットについて

大阪には多くの環境関連活動団体が活動しています。

しかし、各環境団体は独自に活動しながらも財務問題、人材不足、情報不足、団体運営、行政との連携など様々な悩みを抱えています。

このような現状問題を基に「大阪環境ネット」を作り、環境関連活動団体がより活発に、円滑に活動できるように応援体制を強化していく予定です。

年2回の最新環境知識研修会、年1回の活動発表会、最新情報の伝達などの運営支援などなど。

大阪環境ネット規約

■目的

「大阪環境ネット」は、環境団体・企業および個人を対象にして、環境関連法・環境概況・環境技術などをすみやかに広めることのできるシステムを構築し、会員相互の交流を図りながら環境活動を一層円滑かつ効果あるものにするための支援を積極的に行うことを目的とする。

■会の名称

名称は「大阪環境ネット」とし、略称はOEN(Osaka Environment Network)。

■役員と事務局

代表1名、副代表1名、幹事若干名、監事1名、事務局1名。

■会員

会員は環境関連の活動を実施している団体・企業および個人。

■会員の資格

特に無し。

■事業年度

毎年4月1日から翌年3月31日までを事業年度とする(会計年度)。

(2) 会員登録のメリット

後述の、「大阪市子どもカーニバル」、「エコ縁日」は、大阪環境ネットに参加実績があることから、JRMNは大阪環境ネットの会員として参加することができた。

3)「大阪市子どもカーニバル」ワークショップ「葉っぱと遊ぼう CO2 を目で見える実験」を実施
 (1)イベントの概要

大阪市子ども会育成連合協議会が主催するイベントであり、「子どもたちの健やかな成長を願い、昭和54(1979)年から開催しています。子どもたちによる演奏や開会宣言、大型のこいのぼりの掲揚など、子どもたちが主役となって活躍し工作、ゲームなど、子どもたちが家族や友だちと楽しく参加できる多彩な催しで、一日中笑顔と歓声があふれるカーニバルです。」。

!

うちの
イ子押し!

大阪市
子どもカーニバル2025

自由
入場

市内の青少年団体などの協力を得て、全市の子どもたちが家族や友だちと楽しく遊べる
 子ども同士の交流の場として、わくわくドキドキの楽しい催しを行います!

- セレモニー広場…子どもたちによる鼓笛隊やブラスバンド等の演奏などが行われます
- わんぱくひろば…スタンプラリー、ゲーム、ストラップ工作など
- 模擬店コーナー…ポップコーン、フライドポテト、ジュースなど
- 遊び体験コーナー…ふわふわ、バルーンアート、輪投げ、スマートボール ほか

日時 4月20日(日) 10:00~15:00

場所 長居公園自由広場(Osaka Metro・JR「長居」)

対象 どなたでも

費用 入場無料(コーナーにより一部有料)

※雨天中止(小雨決行)

お問い合わせ

大阪市総合コールセンター

(年中無休・8~21時)

電話: 4301-7285 FAX: 6373-3302



※写真は大阪城公園で実施時のものです

長居公園マップ



至なかもす 長居公園通(R479号)

主催: 大阪市 実施主体: 大阪市子ども会育成連合協議会

大阪市子どもカーニバルとは

市内の青少年団体などの協力を得て、子どもたちの健やかな成長を願い、昭和54(1979)年から開催しています。子どもたちによる演奏や開会宣言、大型のこいのぼりの掲揚など、子どもたちが主役となって活躍し、工作、ゲームなど、子どもたちが家族や友だちと楽しく参加できる多彩な催しで、一日中笑顔と歓声があふれるカーニバルです。

大阪市子どもカーニバル 2025

葉っぱと遊ぼう・CO₂を目で見る実験 2025.4.20



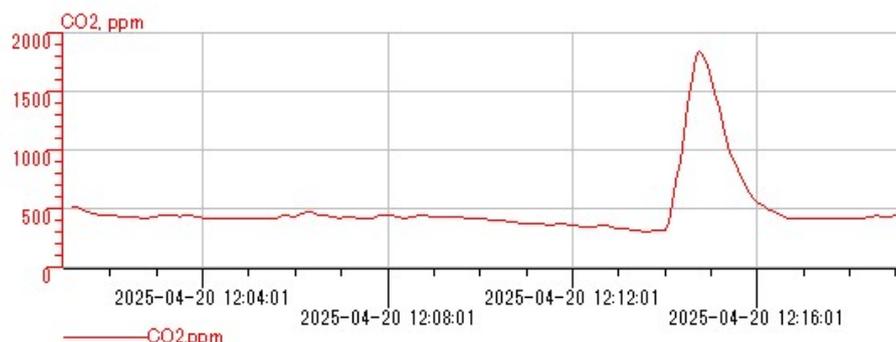
大阪環境ネット

大阪市子どもカーニバル 2025 の出展報告です。こどもたちの健やかな成長を願い、市内全てのこどもたちが家族や友だちと楽しく遊べる企画を立て、こども同士の交歓・交流の場として 46 年も続いており、特に大阪市内の各区の子供会が参加し、遊び場を提供していました。消防局がはしご車を 3 台も出品し、子供達は先端かごに乗せてもらい大はしゃぎ。大阪環境ネットは CO₂ はかり隊が出展し、子供たちと環境学習をしました。大阪環境ネット OEN(4名)、JRMN(4名)、大阪女学院(2名)の計 10 人のスタッフで取り組みました。「葉っぱと遊ぼう」と声をかけて、5 歳の園児から 77 歳のおじさんまで 18 組 37 人の参加者が実験しました。隣のブースでは大阪環境カウンセラー協会が「手回し発電機 10 秒回して電車 GO!」「科学者になろう!! ベントナイト実験」で子供たちを集め、大変賑やかでした。二つあわせて、SDGs とはどんなことか子供たちにも伝わります。



オリズラン

さて次のグラフは測定計器の記録で 4 月 20 日 12 時 1 分から 15 分間 CO₂ の変化を示しています。縦軸が CO₂ の値で単位は ppm です。横軸が時間です。測定開始時は袋の中は 420ppm でしたが、5 分後に 260ppm まで下がりました。葉っぱが光合成して、CO₂ を吸収し、酸素を作りました。袋から測定器を出して、人間の呼気を測定したところ、急激に CO₂ は 1800ppm まで上昇(ピーク値)したことがわかります。その後環境値の 420ppm に戻っています。



実験の手順は以下の通り。1組当たり15分ほど必要です。

- ① 絵本{葉っぱのフレディ}を翻案した紙芝居です。葉っぱの一生は短いですが、春に生まれ、夏には人や動物のために日陰をつくり、光合成し、そして冬に枯れて散った後は土に溶け込んで木を育てる力になります。フレディは友人のダニエルから「いのち」を学び、悔いのない一生を終えたことを知り、散っていきます。今上天皇も幼いころに母の美智子皇后に読んでもらったそうです。
- ② 試験木はオリズルラン、キン芽ツゲ玉、セダムゴールドンカーペット(万年草)の三本を順次使用しました。いずれもきっちり仕事(光合成)をしました。試験木にCO₂測定器を載せ、45%の透明のビニール袋で覆い、しっかり紐で縛ります。
- ③ 太陽光を浴びて、葉っぱは光合成をします。毎分ごとにCO₂の値を読み取り、ホワイトボードに記入。太陽の明るさ(照度)や温度、湿度なども計器で読み取り記入します。5~6分の測定後、ビニール袋を開放し、その後呼気も測定します。
- ④ ホワイトボードの数字をグラフに移し、「葉っぱのCO₂吸収曲線」を完成し、写真を撮って、グラフと復習用メモを渡します。

実験に参加して頂いた方は18組で保育所から、高齢者まで多彩な参加があった。

第1組 はかり隊員(大阪女学院の二人)の予行演習

第2組 地元N小の五年生と父

第3組 T小4年生と1年生の外国人兄弟

第4組 O小3年生と園児の兄弟

第6組 H小の小五三人組

第7組 S中2生

第10組 年長さんとお母さん二人組

第11組 Y小1年生

第12組 N小2年生

第13組 N小3年生

第14組 環境専攻大学生二人組

第15組 男性77歳

第16組 T幼稚園5歳児

第17組 B小5年生①

第18組 I小とG小5年生二人組

4) 「エコ緑日」でワークショップ「葉っぱと遊ぼう CO2 を目で見える実験」を実施

(1) イベントの概要

大阪市環境局が主催し、運営は特定非営利活動法人イー・ビーイングが実施する環境啓発のイベントである。

なお、出展者・出演者マニュアルに記載されている開催趣旨は次のとおりである。

開催趣旨／テーマ

ECO
緑日

市民がECOと縁を結ぶ一日、それがECO緑日 今年のテーマは、「遊んで、笑って、体験して、「いのち」はぐくむ一日」

ECO緑日は、SDGsをテーマとしたイベントに、多くの人が集い、楽しむ場です。

来場者と出展者がこの場で出会い、人と自然、生活と環境の関わりなどについての気づきや、学びの機会となります。

この気づきが、地球をはぐくみ、全ての「いのち」をはぐくむ行動につながることを期待します。今年も、環境活動団体などのブース出展、キッチンカーなどのマルシェブース、ステージプログラムなどの構成により、出展団体、出演団体と協力し市民のみなさまと「ECO」をつなぐ一日とします。

ECO緑日を、遊んで、笑って、体験して「いのち」はぐくむ一日にさせていただくことを目標に、開催します。

<出展内容例>

省エネ・省CO₂／ECO技術／国産木材利用／ごみ減量・3R／食品ロス／プラスチックごみ削減／生物多様性／フェアトレード／地産地消／オーガニック／都市環境保全 など

(2)活動報告（遠藤元理事作成の活動報告書から抜粋）

当会からは、古澤理事、石橋理事、西村理事の3名が参加した（日本リスク学会の年次大会が同日にありそれぞれに分担しての参加となった）。

ECO緑日・CO2はかり隊出展報告

2025年11月8日



大阪環境ネット

快晴の土曜日・鶴見緑地公園の環境値CO2は410ppmでした

ECO緑日はSDGsをテーマとし、人と自然、生活と環境のかかわりに気軽に気付こうとの狙いで開催されています。大阪環境ネットは、楽しく遊ぼうというECO緑日の趣旨に相応しい「CO2はかり隊」を出展しました。今年で3年目です。大阪環境ネット(3人)とJRMNの(3人)の隊員が協力して、「葉っぱと遊ぼう」、「CO2を見よう」と声をかけると、年長さん(6歳)から老夫婦(85歳と79歳)の13組24人が実験に協力してくれました。最初は何をやるのか不安げでしたが、実験が進むにつれて面白くなってきて、だんだん真剣に取り組んでくれました① 隣のブース②では大阪環境カウンセラー協会が「電気の旅路を知ろう」と手回し発電機とベントナイトの実験を展示し、参加者でにぎわいました。二つ合わせてSDGsがよく理解できます。試験木はあじさい③とオリズルランと金目ツゲ④を準備しました。



①



②

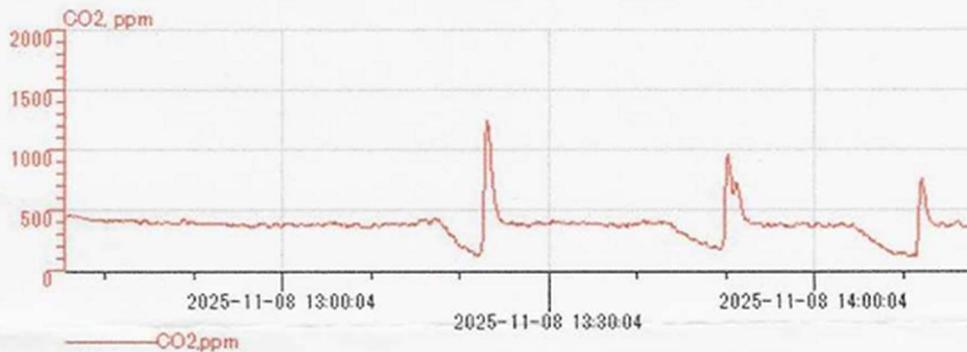


③



④

CO₂測定グラフ



さてこのグラフは令和7年11月8日午後1時から1時間程度のCO₂計の測定記録グラフです。縦軸がCO₂の数値ppmで、横軸が経過時間で分単位です。午後1時前後は400~410ppmです。これは鶴見緑地の当日の環境値と言えます。13時18分にビニール袋をかぶせて光合成実験を始めると、13時23分（五分後）に150ppmまで低下していることがわかります。その後袋から測定器を取り出して、人間の呼気を測ります。すると1200ppmまで急上昇していることがわかります。この値は吹きかけ方や、実験者によって変わります。次の吹込みでは950ppm、次の次では750ppmがそれぞれの方の呼気のピーク値であることを示しています。葉っぱが一生懸命に仕事をして150ppmまでCO₂を下げた（つまり酸素を作り出した）のに人間の吐く息は簡単にCO₂値を上げてしまうことが、このグラフから読み取れます。

実験の手順は以下の通り。1組当たり15分ほど必要です。

- ① 絵本【葉っぱのフレディ】を翻案した紙芝居です。葉っぱの一生は短いですが、春に生まれ、夏には人や動物のために日陰をつくり、光合成し（草木自身のためにCO₂を使って養分を作り、いらぬ酸素を吐き出す）、そして冬に枯れて散った後は土に溶け込んで木を育てる力になります。フレディは友人のダニエルから「いのち」を学び、悔いのない一生を終えたことを知り、散っていきます。
- ② 試験木はオリズラン、キン芽ツゲ玉、あじさいの三本を順次使用しました。いずれもきっちり仕事(光合成)をしました。試験木にCO₂測定器を載せ、50%の透明のビニール袋で覆い、しっかり紐で縛り、外気と遮断します。
- ③ 太陽光を浴びて、葉っぱは光合成をします。毎分ごとにCO₂の値を読み取り、ホワイトボードに記入。太陽の明るさ(照度)や温度、湿度なども計器で読み取り記入します。5~6分の測定後、ビニール袋を開放し、その後人間の吐く息（呼気）も測定します。
- ④ ホワイトボードの数字をグラフに移し、「葉っぱのCO₂吸収曲線」を完成し、写真を撮って、グラフと復習用メモを渡します。オリズランの幼鉢も希望者に配布。

実験に参加して頂いた方は13組で保育所から、高齢者まで多彩な参加があった。

5) 理事同士の意見交換会

12月13日の当会理事会・サイエンスフェア打合せのあと17時より、大阪駅周辺の飲食店で、大阪環境カウンセラー協会の関係者と意見交換会を実施した。

自由な意見交換を実施するとともに、サイエンスフェアで実施予定の熊よる被害のリスクを例としたリスクリテラシーに関するヒアリングも行えた。

4. 会の運営

4.1 総会

4.1.1 定時総会

1) 総会の議案等

定款等に則り、以下の内容を議案とした。

(1) 決議事項（社員総会承認事項）

第1号議案 2024 事業年事業報告の件

第2号議案 2024 事業年決算報告の件

第3号議案 監査報告の件

第4号議案 任期満了に伴う役員改選の件

(2) 報告事項（理事会承認事項）

2025 事業年 一社) 日本リスクマネージャネットワーク事業計画（案）

2025 事業年 一社) 日本リスクマネージャネットワーク予算計画（案）

2) 準備・活動内容

2025 年度総会の準備として、定款に従い 12 月の理事会で、2025 年度の事業計画書、収支予算書の案を承認し、2 月の理事会で、2024 年度の事業報告書、収支決算書の案を承認した。また今回の総会では、理事・監事の役員改選があったため、1 月 12 日から 2 週間、役員の内候補・推薦を受付、2 月 2 日にメール発信した総会資料に役員候補を記載した。昨年度から総会資料を印刷し会員に送付しており、今回も総会の 2 月 24 日の 2 週間以上前の 2 月 8 日に発送した。

2025年度総会 準備・活動内容

年月	日	曜	会合	総会資料等 (分担作成)	会員への案内 (刑部)	会計監査 税申告納付 (久保田)	その他
2024.12	14	土	理事会	事業計画書、収支予算書(案)承認			
2025.1	11	土	理事会	事業報告書、決算書案内書、議案書確認			
	12	日			役員改選の会員への案内通知		
	24 29	金 水				監査 税申告	
2	1	土	理事会	事業報告書、決算書案内書承認、議案書		決算確定	
	2	日			総会案内書、出欠通知書兼議決権行使書等のメール送信		
	8	土					資料発送準備 12:00中之島センター
	16	日			出欠確認の再送		
	24	月	総会・懇親会				(祝日)
3	2	日				総会議事録、 振返り作成(刑部)	
12	24	水				役員交代の法務局への届出 (久保田、刑部)	

3) 総会にあたっての作成資料

(1) 会員への配布資料

- ・ 2025 事業年 JRMN (第 17 回) 定時社員総会のご案内
- ・ 定時社員総会等出欠通知書 兼 議決権行使書
- ・ 議案書 (役員改選含む)
- ・ 2024 年度事業報告書
- ・ 2024 年度決算報告書
- ・ 2024 年度会計監査報告書
- ・ 2025 年度日本リスクマネージャネットワーク事業計画 (案)
- ・ 2025 年度日本リスクマネージャネットワーク予算計画 (案)

(2) 事務局用資料

- ・ 定時社員総会に関する規定について
- ・ 定時社員総会に関するスケジュール
- ・ 定時社員総会の出欠通知書・議決権行使書の集計結果

4) 総会資料をHPに掲載

総会資料は以下のURLの箇所に掲載した。

<https://jrmn.sakura.ne.jp/ms/soukai2025/> (会員専用ページでログインが必要)

掲載資料

(1) 2025 年 2 月 24 日に開催の定時総会の結果

- 2025 事業年 JRMN (第 17 回) 定時社員総会記録

(2) 2025 年の事業計画書と予算書

- ⑧ 2025JRMN 事業計画書
- ⑨ 予算書

(3) 総会の案内書、2024 年度事業報告・決算等の資料

- ① 2025 事業年 JRMN (第 16 回) 定時社員総会のご案内
- ② 定時社員総会等出欠通知書
- ③ 2025 年度定時社員総会 議事次第
- ④ 2025 年度定時社員総会 議案
- ⑤ 2024JRMN 事業報告書
- ⑥ 決算書
- ⑦ 監査報告書

5) 結果1 (出席連絡)

総会の出席連絡の結果は、正会員 21 名のうち現地出席 8 名、議決権行使 5 名の 13 名であった。

番号	氏名	連絡	出席 現地	出席 オンライン	欠席	議決権行使			
						議案 1	議案 2	議案 3	議案 4
合計			○8	0	×5	○5	○5	○5	○5

6) 結果2 (当日進行)

当日の進行を、記録動画をもとに次表のように整理した。1号議案の説明に時間を要し、全体で予定より10分余り長くなった。

区分	開始時刻	内容	進行	担当	終了時刻				
					14:00:00	経過(分:秒)	経過(分)	経過(時:分)	
総会	14:00	1. 開会の辞	司会	古澤	14:00:40	0:00:40			
	(10分)	2. 代表理事挨拶		古澤	14:05:10	0:04:30			
		3. 議長の選出	司会	古澤	14:05:50	0:00:40			
	14:10	4. 総会成立確認 総議決権数21個のうち、出席社員数12名以上(過半数)	議長	刑部	14:07:00	0:01:10			
		5. 議事録署名人の任命(出席理事)	議長	出席理事	14:07:10	0:00:10	0:07	0:07	
		6. 決議事項(社員総会承認事項)							
		・ 第1号議案 2024年度事業報告の件	(全体)	東	14:26:10	0:19:00			
			(補足)	刑部	14:40:00	0:13:50			
			質疑応答・採決	議長	西村	14:40:20	0:00:20	0:33	
		(30分)	・ 第2号議案 2024年度決算報告の件		久保田	14:48:20	0:08:00		
			・ 第3号議案 監査報告の件		池田	14:50:00	0:01:40		
			質疑応答・採決	議長	西村	14:50:20	0:00:20	0:10	
		14:40	・ 第4号議案 任期満了に伴う役員改選		久保田	14:53:10	0:02:50		
	質疑応答・採決		議長	西村	14:53:30	0:00:20	0:03	0:46	
	7. 報告事項(理事会承認事項)								
	・ 2025年度事業計画			刑部	15:03:50	0:10:20			
	意見				15:05:00	0:01:10	0:11		
(20分)	・ 2025年度収支予算計画		久保田	15:10:10	0:05:10				
	質疑応答、その他意見			15:16:10	0:06:00	0:11			
	8. 議長の解任	司会	古澤	15:16:30	0:00:20				
	9. 閉会の辞	司会	古澤	15:16:40	0:00:10	0:00	0:23		
休憩	15:00	(臨時理事会:代表理事の選出) (10分)			15:27:20	0:10:40	0:10	0:11	
		代表理事の選出結果報告		古澤	15:28:00	0:00:40			
挨拶	15:10	新旧代表理事のあいさつ (5分)		古澤	15:33:00	0:05:00	0:05	0:06	
報告会	15:15	1. ディスカッショングループ活動・結果の報告 (30分)		東	16:03:20	0:30:20			
	(75分)	15:45	2. 知の市場に関する報告 (5分)		西村				
	15:50	3. サイエンスフェアin兵庫に関する報告 (20分)		西村	16:17:20	0:14:00			
	16:10	4. JRMNのHP活用に関する報告とお願い (20分)		刑部	16:35:30	0:18:10		(69分)	
		意見			16:42:10	0:06:40	1:09	1:09	
終了	16:30								

7) 結果3 (総会記録)

現地出席者は予定通り8名であった(東代表理事は2024年末で退会したが任期が総会までであり出席して頂いた。ただし出席者数には含めず)。次表に示すように、報告会は、活動結果を共有でき有意義であった。総会は1時間では短く、次回は30分早く始めるなど余裕をもつ。参加者を増やす工夫が必要を総括と課題であった。

2025 年度総会に関する記録

件名	2025 年度 JRMN 社員総会及び報告会
目的	2024 年度の事業報告・決算報告、2025 年の度事業計画・収支予算の共有
日時	2025 年 2 月 24 日 (月：祝) 14:00～ 16:30 (予定) 14:00～ 16:45 (結果)
場所 (開催方法)	大阪大学中之島センター 6A セミナー室 + オンライン
参加者	現地(8名): 久保田、古澤、西村、新田、池田、奥村、石橋、刑部 オンライン(1名): 東 以上 9 名
項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 決議事項の承認 ・ 報告事項の共有 ・ 活動報告の共有
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 司会：古澤、議長：西村 ・ 正会員数 21 名、出席者 8 名、議決権行使 5 名の計 13 名で総会は成立 ・ 1 号議案 (2024 年度事業報告) は全員一致で可決 (主な意見) 意見は特になし ・ 2 号議案 (2024 年度決算)、3 号議案 (監査報告) は全員一致で可決 (主な意見) 意見は特になし ・ 4 号議案 (役員改選) は全員一致で可決 (主な意見) 意見は特になし ・ 報告事項 1 (2025 年度事業計画書) (主な意見) 賛助会員は法人と個人をわけて会費を設定する案もある。 ・ 報告事項 2 (2025 年度収支予算書) (主な意見) ・ 法人税 14 万円は決算を 12 月末としているため 2 月に払う未払金と、当年の法人税を合計した値である。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 繰越金は毎年一定になるような対策が必要である。 ・ 2025 年度の予算は 24 年度の実績と比較できるように表にしている。 (その他の意見) ・ 農業が産業として成立しておらず食料に関するリスクが今後大きくなる。・ 市民目線が重要であり田植え体験のような交流集会は一般市民にも呼び掛けてはどうか。 (10 分休憩しその間に臨時理事会で久保田理事を代表理事に選出) ・ 新旧代表理事のあいさつ (東前代表理事、久保田新代表理事) (挨拶の内容は HP に掲載予定) ・ 報告会 ・ 報告 1 (ディスカッショングループ活動・結果の報告) 東前理事(30 分) (主な意見) 時間がなく意見は求めなかった ・ 報告 2 (知の市場に関する報告) 西村さん(5 分) ・ 報告 3 (サイエンスフェア in 兵庫に関する報告) 西村理事(10 分) (主な意見) 時間がなく意見は求めなかった ・ 報告 4 (JRMN の HP 活用に関する報告とお願い) 刑部理事(20 分) (主な意見) ・ 会員ページにアクセスできない人がいる。HP の管理を委託している増本さんに問い合わせる。・ 受講会員は共催セミナーの参加者(JRMN からの案内希望の人)や知の市場の受講者に呼び掛けて集める予定である。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術士会でのセミナーの案内がきており、連携することも考えられる。 ・ 賛助会員の会費 10,000 は今後見直していく必要がある。
総括と課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告会は、活動結果を共有でき有意義であった ・ 総会は 1 時間では短く、次回は 30 分早く始めるなど余裕をもつ ・ 参加者を増やす工夫が必要
備考	

4.1.2 臨時総会

2025 年度に臨時総会は実施しなかった。

4.2 理事会・執行理事会

4.2.1 理事会

定期理事会は原則として2月に1回、第2土曜日の午後に開催した(1月と2月総会に向けて、12月は次年度事業計画の採択のため開催。3～11月は原則2月に1回)。

また、2月に役員改選に伴う代表理事選出のための臨時理事会を開催した。

今年度は合計10回の理事会を次の日程で開催した。理事会での主な会議内容(議事録)を次ページ以降に示す。

【実績】 理事会は次の10回実施した

- ①1月20日、②2月10日、③2月24日(臨時)、④3月8日、⑤4月12日、⑥6月14日
- ⑦7月12日、⑧9月13日、⑨11月15日、⑩12月13日

2024年度1月定期理事会議事録

会議名		JRMN 定期理事会 (2025年度1月)		
日時		2025/1/11(土) 13:30~15:30 予定	結果 13:30~15:00	場所・開催方法 枚方事務所+Zoomによるオンライン
参加者 (通知)		東、久保田、石橋、宇野、遠藤、刑部、砂川、西村、古澤、宮崎、池田 (JRMN 理事・監事以外の会員はオブザーバーとして)		
参加者 (出席)		東、久保田、石橋、宇野、刑部、西村、古澤、砂川 (14:00 まで)		
議事次第作成者		刑部	結果記入者	刑部
議事			内容 (予定)	
承認 決議	1-1	役員 (理事・監事) 改選に関する内規	刑部	・これまで、改選ごとに理事会で決議していた手続きについて今回、内規としてまとめることについて説明し、採決をとったところ過半数の賛成があり承認された。資料①-1 参照
	1-2	イベント参加者に対する日当の支給	刑部 西村	・1/26 開催の「サイエンスフェア in 兵庫」への参加者に対して、「会計細目に関する内規」に従い、日当 3000 円を支給することについて説明し、採決をとったところ過半数の賛成があり承認された。 なお対象となる活動については年間予定が決まった段階で一括して理事会で承認をとるようになる。
確認 報告	2	内規に基づく改選の会員への通知	刑部	・2025 年度役員改選についての通知文を、上記の「改選に関する内規」に基づき作成したことを確認した。改選について 1 月 12 日に会員に通知する。資料②参照。
	3	総会までの予定と作業分担など	刑部	・スケジュール表、総会の案内書、様式-1 出欠通知書、総会議事次第、総会議案書、出席者集計表、会費のお願い文の案を確認した (資料③-1~資料③-7)。総会は 2 月 24 日 (月: 祝日) とし、会場は本予約する。次回理事会は 2 月 1 日とし、2 月 2 日に総会資料をメールで会員に送れるようにする。
	4	2024 年度事業報告書作成状況	刑部	・事業報告書について、分担内容を説明し、今月中に提出してもらい、次回理事会で承認を得る予定であることを確認した。
	5	2024 年度決算作成状況	久保田	・決算での留意事項について説明し、例年通り税申告・会計監査を行い、次回理事会で承認を得る予定であることを確認した。
	6	知の市場について	西村	・1 月 6 日の講義で今回の全 14 回の講義は終了した。受講者は 21 名で毎回 20 名弱の出席があった。1 月末がレポートの提出期限であり、その後、終了証、皆勤賞、優秀賞など発行する予定である。発行にあたっては、関西大学と打合せを行う予定である。
	7	サイエンスフェア in 兵庫	西村 刑部	・アンケート項目 (30 個) や、配布資料内容について確認した。資料⑦-1~資料⑦-4 参照。 ・アンケートは答えやすいように項目数を絞るほうがよく、できれば他の機会でも使えるような内容にするのがよい。スマホのリスクについてはオーストラリアで 16 歳未満禁止になるが、その措置についての意見をいれることも考えられる。また、環境リスク (地球温暖化など) についても今後検討する。
	8	2/8 日本リスク学会との共催セミナー	刑部	・セミナーの案内書の最終版を竹田先生より入手し内容を確認した。進捗状況は、建設コンサルタンツ協会の CPD 認定プログラムには 12/25 に認定されたが、最終版のプログラムとしての変更が必要であり至急手続きをする。また、広報については Facebook への投稿などを行う。資料⑧-1、資料⑧-2 参照
その他 意見聴取	9	その他	—	
今後の予定				
次回理事会ほか		2 月 1 日 (土) 2 月理事会 (2024 年度事業報告、決算報告)		

(定款 28 条 理事会の権限) 1. この法人の業務執行の決定、2. 理事の職務の執行の監督、3. 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職承認・決議は理事の過半数が出席し出席者の過半数の賛成が必要な議事。確認・報告は理事の意見を求める議事。

2024 年度 2 月 定期理事会 議事録

会議名		JRMN 定期理事会 (2025 年度 2 月)			
日時		2025/2/1 (土) 13:30~15:30 予定	結果 13:30~15:10	場所・開催方法	枚方事務所+Zoom によるオンライン
参加者 (通知)		東、久保田、石橋、刑部、西村、古澤、宮崎、池田 (JRMN 理事・監事以外の会員はオブザーバーとして)			
参加者 (出席)		東、久保田、刑部、西村、古澤、池田			
議事次第作成者		刑部	結果記入者	刑部	
議事			内容 (予定)		
承認 決議	1	2024 年度事業報告書、決算報告書	刑部 久保田	<ul style="list-style-type: none"> 2024 事業報告書について概要をもとに説明した(資料①-1)。日本リスク学会との連携に、「新規リスク マネジャ養成講座について議論したが結論には至らなかった」という内容を追加する。以上の条件付きで採択したところ全員の賛成が得られた。 2024 決算書・会計監査について説明(資料①-2)し、採決したところ全員の賛成が得られた。 2025 予算書に変更があったため説明(資料①-3)し、採決したところ全員の賛成が得られた。 総会における電子的方法による議決権行使(資料③-1、資料③-2)を説明した。電子的方法にグループ フォームでの議決権行使も含めることとし、採決したところ全員の賛成が得られた。 	
確認 報告	2	総会までの予定と作業分担	刑部	<ul style="list-style-type: none"> スケジュール表等 (資料②) について確認し、2 月 8 日のセミナー前の 12 時に担当者が集合し、総会資料を発送することとした。資料は 20 部準備する。 	
	3	総会資料の確認	刑部	<ul style="list-style-type: none"> 総会に関する資料 (資料③-3~③-6) を確認した。 	
	4	総会当日スケジュール案	刑部	<ul style="list-style-type: none"> 総会のタイムスケジュール (資料④)、総会後に報告会を実施することを確認した。司会は東理事、議長は西村理事とし、各議案の説明者を決定した。 	
	5	サイエンスフェア in 兵庫	西村	<ul style="list-style-type: none"> 1/26 実施結果 (資料⑤) を確認した。 アンケートについては、その場で回答できるような項目数、説明のしかたとするなどが課題であった 	
	6	2/8 日本リスク学会との共催セミナー	刑部	<ul style="list-style-type: none"> 進捗状況 (資料⑥-1) を確認した。 当日準備資料 (資料⑥-2) を確認した。13 時セミナー室に関係者は集合する。 	
その他 意見聴取	7	その他		<ul style="list-style-type: none"> . 	
今後の予定					
次回理事会ほか		2 月 8 日 (土) 日本リスク学会との共催セミナー 2 月 24 日 (月: 祝日) 2025 年度総会 3 月 8 日 (土) 3 月理事会 (2025 年度予定の確認、交通費等支給対象のイベント確認、決算報告)			

(定款 28 条 理事会の権限) 1. この法人の業務執行の決定、2. 理事の職務の執行の監督、3. 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職承認・決議は理事の過半数が出席し出席者の過半数の賛成が必要な議事。確認・報告は理事の意見を求める議事。

2024 年度 2 月 臨時 理事会議事録

会議名		JRMN 臨時理事会 (2025 年度 2 月)		
日時		2025/2/24 (土) 15:00~15:10 予定	結果 15:20~15:30	場所・開催方法
参加者 (通知)		久保田、石橋、刑部、西村、古澤、宮崎、池田、奥村		
参加者 (出席)		久保田、石橋、刑部、西村、古澤、池田、奥村		
議事次第作成者		刑部	結果記入者	
		議事	内容 (予定)	
承認 決議	1	代表理事の選出	刑部	<ul style="list-style-type: none"> ・定款にのっとり理事が改選されたことから代表理事を選出した。 ・代表理事の立候補がなかったことから、久保田理事を代表理事に推薦した。久保田理事が「立候補がないので、全員で協力頂けるようであれば受託する」との意思表示があり、全員一致で代表理事に選出した。
その他 意見聴取				
次回理事会ほか				

(定款 28 条 理事会の権限)1. この法人の業務執行の決定、2. 理事の職務の執行の監督、3. 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職承認・決議は理事の過半数が出席し出席者の過半数の賛成が必要な議事。確認・報告は理事の意見を求める議事。

2024 年度 3 月 定期理事会 議事録

会議名	JRMN 定期理事会 (2025 年度 3 月)		
日時	2025/3/8 (土) 13:30~15:30 予定	結果 13:30~15:40	場所・開催方法 枚方事務所+Zoom によるオンライン
参加者 (通知)	久保田、石橋、刑部、西村、古澤、宮崎、池田、奥村 (JRMN 理事・監事以外の会員はオブザーバーとして)		
参加者 (出席)	久保田、刑部、西村、池田		
議事次第作成者	刑部	結果記入者	刑部
	議事		内容 (予定)
		はじめに	久保田 代表理事挨拶
承認 決議	1	今年度事業における交通費支給対象事業	久保田 刑部 2024 年度の実績(資料①)を確認し、今年度も、知の市場の関西大学での開催の運営管理スタッフ、知の市場の講師、サイエンスフェア in 兵庫の説明スタッフを対象とする。金額は内規どおり 3000 円とするが、交通費が 3000 円を超える場合は実費支払いとする。なお、スタッフの人は選は理事会へ報告する。
確認 報告	2	会員についての内規の案 (勉強会、深読み会への参加者増員)	久保田 刑部 勉強会、深読み会等の参加者数が昨年度は一桁であったことから、参加者数を増やす取り組みとして、今回のそのための会員を増やすことを確認した。それに必要な「会員に関する内規」の改定案(資料②-1)、「御縁会員に関する内規」「受講会員に関する内規」の新設案(資料②-2)についても確認できたので次回 4 月の理事会で採択の方針とする。なお「御縁会員」の名称は次回までより良い案を募集する。 なお、これとは別に、定款の改定も含め、これまでの代表理事を「特別会員」のような形で、会員として残ってもらう方法も検討していく。
	3	総会の振返り	久保田 刑部 総会の振返り(活動記録)(資料③)をもとに、総会で出た意見を確認した。次回に向けては、2 時からの開催を繰り上げて時間を確保すること、参加者を増やすことが課題となった。
	4	日本リスク学会リスクマネージャ委員会について	久保田 刑部 3/7 に行われた日本リスク学会リスクマネージャ委員会の結果について渉外活動記録(資料④)をもとに報告した。JRMN の勉強会等を日本リスク学会の CPD 対象イベントとってもらう方法を確認し、深読み会(読書考察会)の推薦本について教えて頂くなどの新たな連携をはかることができた。
	5	勉強会の予定	刑部 勉強会は 5 月からの奇数月(5 月、7 月、9 月、11 月)の第 2 土曜日に実施予定。テーマは一般分野としてスマホのリスクについて(ドコモ資料)、環境分野として化学物質のリスク管理の変遷などを予定。
	6	情報交換会の予定	刑部 情報交換会は 5 月からの偶数月の理事会のあと 1 時間程度で実施する。6 月は池田理事、8 月は久保田、4 月・10 月は会員に呼び掛け、情報を提供してもらう予定である。
	7	深読み会(読書考察会)について	刑部 上記の御縁会員、受講会員にも呼び掛け、考察を行う参加者は 1 グループ最大 10 名、視聴のみの参加者も可能とする方向で検討中である。6 月~12 月まで毎月特定の平日夕刻に開催する方針である。
	8	会員交流集会について	西村 刑部 5 月田植え体験、9 月稲刈り体験、11 月見学会を開催する予定である。見学会については、欠席している理事の意見も今後聞いていくようにする。
	9	知の市場、サイエンスフェアの予定	西村刑部 知の市場の準備は 4 月理事会から、サイエンスフェアの準備は 10 月理事会から行う。
	10	年間予定の確認	刑部 年間予定を資料⑩をもとに確認した。日が決まっていない事業は表の下に対象月を記載した。
その他 意見聴取	11	その他(今後の検討項目)	刑部 <ul style="list-style-type: none"> ・4 月 20 日長居公園でのイベントの「二酸化炭素の実験」有志の参加募集 ・HP の有用資料のページの作成、会員専用ページへのアクセスについては今後検討していく。 ・「大阪府環境保全活動補助金」などの助成金についての応募も考えていく。
次回理事会ほか	4 月 12 日(土) 4 月理事会(リスクマネージャ以外の正会員の必要要件の検討他)		

(定款 28 条 理事会の権限) 1. この法人の業務執行の決定、2. 理事の職務の執行の監督、3. 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職承認・決議は理事の過半数が出席し出席者の過半数の賛成が必要な議事。確認・報告は理事の意見を求める議事。

2024 年度 4 月 定期理事会 議事録

会議名		JRMN 定期理事会 (2025 年度 4 月)		
日時		2025/4/12 (土) 13:30~14:30 予定	結果	場所・開催方法
参加者 (通知)		久保田、石橋、刑部、西村、古澤、宮崎、池田、奥村 (JRMN 理事・監事以外の会員はオブザーバーとして)		
参加者 (出席)				
議事次第作成者		刑部	結果記入者	
議事			内容 (予定)	
		はじめに	久保田	代表理事挨拶
承認 決議	1	会員についての内規 (勉強会、深読み会への参加者増員)	久保田 刑部	・「会員に関する内規」の改定 資料①-1 ・「御縁会員に関する内規」「受講会員に関する内規」の新設 資料①-2
確認 報告	2	新規リスクマネージャ書類審査他	久保田 刑部	・書類審査についての報告 (JRMN 委員の 3 月 17 日作成資料) ・日本リスク学会と JRMN の連携スケジュール 資料②
	3	大阪市子どもカーニバル	古澤	・「葉っぱと遊ぼう CO2 を目で見える実験」のお手伝い募集 ・4 月 20 日(日)10 時から 15 時、長居公園 資料③
	4	会員交流集会 田植え他イベント	西村	・5 月 3 日~4 日 南山城村 西村理事管理の田と畑 ・田植え、茶摘みイベント 資料④
	5	勉強会の予定	刑部	・内容はスマホを例にしてリスク管理について考える ・受講会員へ参加を呼び掛ける ・グーグルフォームの作成 ・年間計画の作成 資料⑤
	6	深読み会 (読書熟考会) について	刑部	・6 月~12 月 毎月 1 回 19:00 から 20:30 頃 ・日本リスク学会へ推薦本を依頼中 (4 月末まで)
	7	正会員「この法人の目的を達成するための知識を有すると認められる者」	刑部	・必要知識 ・知識があると認める方法 資料⑦
	8	年間予定の確認	久保田 刑部	・資料⑧
その他 意見聴取	9	その他 (今後の検討項目)	刑部	・HP の有用資料のページの作成 ・役員変更の法務局への届出
次回理事会ほか	本日理事会のあとに情報交換会 (西村理事から情報提供) 4 月 20 日 大阪市子どもカーニバル 5 月 3 日~4 日 会員交流集会 田植え他イベント 5 月 10 日 (土) 第 1 回勉強会 6 月 14 日 (土) 6 月理事会 (交流センター)、理事会後に情報交換会 (池田理事)			

(定款 28 条 理事会の権限)1. この法人の業務執行の決定、2. 理事の職務の執行の監督、3. 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職承認・決議は理事の過半数が出席し出席者の過半数の賛成が必要な議事。確認・報告は理事の意見を求める議事。

2024 年度 6 月 定期理事会議事録

会議名	JRMN 定期理事会 (2025 年度 6 月)			
日時	2025/6/14 (土) 13:30~15:00 予定	結果 13:30~15:00	場所・開催方法	大阪公立大学文化交流センター 大阪駅前第 2 ビル 6 階
参加者 (通知)	久保田、石橋、刑部、西村、古澤、宮崎、池田、奥村 (JRMN 理事・監事以外の会員はオブザーバーとして)			
参加者 (出席)	久保田、古澤、西村、池田、刑部			
議事次第作成者	刑部		結果記入者	
	議事		内容 (予定)	
		はじめに	久保田	代表理事挨拶
決議	—	—	—	—
確認報告	1	4/12 情報交換会の振返り	西村 刑部	・ 4 月情報交換会「労働安全衛生とリスクマネジメント」の結果について資料①で確認した ・ 鉛管理についてはその後、労働基準監督署の追加の要請はないようだが、管理実績のフォローは必要
	2	4/20 大阪市子どもカーニバル振返り	古澤 刑部	・ 「葉っぱと遊ぼう CO2 を目で見える実験」についての結果を資料②で確認した ・ 通常大阪城公園で実施するのを、長居公園で実施したので音や電源の課題があった。
	3	会員交流集会 田植え他イベント振返り	西村 刑部	・ 5 月 3 日~4 日 南山城村 田植え、茶摘みイベントの結果を資料③で確認した ・ 送迎車の手配についての問題については今後のイベントでは確認事項として徹底する
	4	5/17 勉強会の振返り	刑部	・ 「化学物質のリスク管理について」の勉強会の結果を資料④で確認した ・ 人数が 3 名であり、会員以外からの参加をはかっていく必要がある
	5	日本リスク学会リスクマネージャ委員会他	久保田 刑部	・ 6/11 リスクマネージャ委員会の結果について資料⑤で確認した ・ JRMN からの「青森大学」でのリスクマネージャ養成講座への意見を次のようにまとめた 1) 「リスク」と「マネジメント」の両方を講座の中で学び身につけられるようにする 2) 講義を受けたのち何らかの試験を実施する (防災士も試験を受けて資格取得できる) 3) リスクマネージャの資格を防災士の資格にあわせてとれるのではなく、リスクマネージャを主とする 4) これまでのリスクマネージャと区別しリスクマネージャ (防災) のような区分とする ・ 会員への意見はこの議事録をもってきく。ただし、メール本文に上記意見を記述する
	6	今年度の知の市場について	西村 刑部	・ 5/29 準備会の結果や、今後の予定を資料⑥で確認した ・ 次回 6/23 準備会実施し、7 月中旬に JRMN の HP に募集案内を掲示する (HP は昨年同様古澤理事が担当)
	7	7 月勉強会の予定	刑部	・ 延期することを確認した
	8	今後の予定の確認	刑部	・ 深読み会は 6/19 発行の「基準値のからくりの続編」をみてから検討することを確認した
その他意見聴取	9	会の活動について	刑部 池田	・ 5/3 交流イベントでの送迎車に関する問題について上述のように今後確認事項として徹底する ・ その他今後の活動について収支がとれるよう検討していく (一つの案として NUMO の支援事業がある)
	10	その他 (今後の検討項目)	刑部	・ HP の有用資料のページの作成について (今後の課題) ・ 役員変更の法務局への届出について (今後の課題)
次回理事会ほか	本日理事会のあとの情報交換会は延期。7/12 は勉強会の予定であったが理事会と情報交換会に変更する。			

(定款 28 条 理事会の権限)1. この法人の業務執行の決定、2. 理事の職務の執行の監督、3. 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職承認・決議は理事の過半数が出席し出席者の過半数の賛成が必要な議事。確認・報告は理事の意見を求める議事。

2024 年度 7 月 定期理事会議事録

会議名	JRMN 定期理事会 (2025 年度 7 月)			
日時	2025/7/12 (土) 13:30~15:00 予定	結果 13:30~14:40	場所・開催方法	枚方事務所+Zoom によるオンライン(予定)
参加者 (通知)	久保田、石橋、刑部、西村、古澤、宮崎、池田、奥村 (JRMN 理事・監事以外の会員はオブザーバーとして)			
参加者 (出席)	久保田、刑部、西村、古澤、池田			
議事次第作成者	刑部	結果記入者	刑部	
議事			内容 (予定)	
	はじめに	久保田	代表理事挨拶	
承認決議	—	—	—	
確認報告	1	6/20 日本リスク学会総会視聴報告	刑部	・総会資料について資料①を用いて説明した。 ・日本リスク学会の取組方針や事業収支を知ることは JRMN の活動にとっても意味があることを確認した
	2	6/23 第 2 回知の市場準備会報告	西村 刑部	・第 2 回準備会について資料②を用いて説明した。 ・今回はチャット機能を用いて、質疑応答を増やすことを確認した。
	3	日本リスク学会リスクマネージャ委員会関係 (青森大学の養成講座について)	刑部	・青森大学の養成講座について資料③を用いて説明した。 ・JRMN からの希望や意見の内容について確認した。
	4	日本リスク学会共催セミナーについて 8/9(土)	久保田 刑部	・進捗状況について資料④を用いて説明した。 ・JRMN 会員への連絡をすることを確認した。
	5	深読み会について	刑部	・対象となる本「世界は基準値でできている」の選定などについて資料⑤を用いて説明した。 ・準備を進めることを確認した。
	6	今後の予定の確認	久保田 刑部	・次回 8 月第 2 土曜日は日本リスク学会との共催セミナーであり日程の変更が必要であることを確認した
	7			
	8			
その他意見聴取	9			
次回理事会ほか	本日理事会のあとに情報交換会 (池田理事から情報提供)			

(定款 28 条 理事会の権限)1. この法人の業務執行の決定、2. 理事の職務の執行の監督、3. 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職承認・決議は理事の過半数が出席し出席者の過半数の賛成が必要な議事。確認・報告は理事の意見を求める議事。

2024 年度 9 月 定期理事会議事録

会議名	JRMN 定期理事会 (2025 年度 9 月)			
日時	2025/9/13 (土) 13:30~14:30 予定	結果 13:30~14:30	場所・開催方法	枚方事務所+Zoom によるオンライン(予定)
参加者 (通知)	久保田、石橋、刑部、西村、古澤、宮崎、池田、奥村 (JRMN 理事・監事以外の会員はオブザーバーとして)			
参加者 (出席)	久保田、石橋、刑部、西村、古澤、池田			
議事次第作成者	刑部	結果記入者	刑部	
議事			内容 (予定)	
		はじめに	久保田	代表理事挨拶
承認決議	—	—	—	—
確認報告	1	8/9 実施リスクマネージャ公開セミナーについて	刑部	<ul style="list-style-type: none"> 2025 年度第 1 回リスクマネージャ公開セミナー記録 (資料①-1) をもとに結果を振返った。 受講者のアンケート結果 (資料①-3) より、昨年度と同様、満足度が高いことを確認した。
	2	日本リスク学会理事会 (9/1) 資料について	久保田 刑部	<ul style="list-style-type: none"> 日本リスク学会理事会資料 (資料②-1) をもとに、学会の立場からまとめた 8/9 実施リスクマネージャ公開セミナーの結果、青森大学の地域貢献防災論の状況、11/8 予定のリスクマネージャ公開セミナーの予定について情報を共有した。 11/8 日本リスク学会第 3 8 回年次大会での青森大学の久保先生と防災科研との企画セッションへの参加について、JRMN から発表できるとすれば会の活動の紹介程度であることを確認した。
	3	次回以降のリスクマネージャ公開セミナーについて	刑部	<ul style="list-style-type: none"> 11/8 の第 2 回リスクマネージャ公開セミナーについては、昨年と同様、日本リスク学会のほうで一般セッションをオンラインで配信することを確認した。
	4	知の市場の開講について	西村 刑部	<ul style="list-style-type: none"> 9/1 に第 1 回、9/8 に第 2 回を実施した。申込者は 17 名で 2 回とも参加者は 16 名であった。 講義での質問が 2 回とも活発に行われていること、講師の小レポートへのコメントについて今回は講師にアピールしていることを報告した。
	5	会員交流集会 稲刈り他イベント	刑部	<ul style="list-style-type: none"> 9 月 20 日 (土) と 9 月 23 日 (祝) に、南山城村の西村理事管理の田で稲刈りイベントを行うことを確認し、出席理事の参加意向を明らかにした。
	6	エコ緑日について 資料⑥	古澤 刑部	<ul style="list-style-type: none"> 11 月 8 日 (土) 10 時~15 時、鶴見緑地公園で、昨年同様「葉っぱと遊ぼう CO2 を目で見える実験」のお手伝いをすることを確認した。 セミナーとの人員配分の調整が必要である
	7	深読み会 (読書熟考会) の予定	刑部	<ul style="list-style-type: none"> 10 月~12 月に毎月 1 回、19:00 から 20 : 30 頃に実施予定であり、至急、参加案内を作成し、理事の意見を聞くようにする
その他意見聴取	8			
次回理事会ほか	本日理事会のあとに情報交換会 (久保田理事から情報提供) 次回理事会は 11 月 15 日とする			

(定款 28 条 理事会の権限) 1. この法人の業務執行の決定、2. 理事の職務の執行の監督、3. 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職承認・決議は理事の過半数が出席し出席者の過半数の賛成が必要な議事。確認・報告は理事の意見を求める議事。

2024 年度 11 月定期理事会議事録

会議名	JRMN 定期理事会 (2025 年度 11 月)			
日時	2025/11/15 (土) 13:30~15:30 予定	結果 13:30~15:50	場所・開催方法	枚方事務所+Zoom によるオンライン(予定)
参加者 (通知)	久保田、石橋、刑部、西村、古澤、宮崎、池田、奥村 (JRMN 理事・監事以外の会員はオブザーバーとして)			
参加者 (出席)	久保田、刑部、西村、古澤、池田			
議事次第作成者	刑部	結果記入者	刑部	
議事		内容 (予定)		
	はじめに	久保田	代表理事挨拶	
承認決議	—	—	—	
確認報告	1	知の市場の開講について	西村 刑部	・第 8 回まで開催の出席者数、レポート提出数、講師コメント数などを資料①をもとに報告した。 ・運営にあたっての留意事項についても報告した。
	2	会員交流集会 稲刈り他イベント	西村	・9 月 23 日(火曜：祝日)に稲刈りイベント(南山城村西村理事管理の田)を実施した結果を報告した。 ・当日の写真も含めた簡単な報告書を西村理事が作成する。
	3	11/8-9 日本リスク学会年次大会への参加報告について	刑部	・一般公開セッションについて資料③-1 をもとに報告した。 ・青森大学久保先生の企画セッション:急がれる大都市激甚災害に対応する共助の再構築について資料③-2 をもとに報告した。青森大学東京キャンパスは大水害時に江戸川区の避難箇所になっているが、避難者は、受入数の 10 倍あり、ヒト、モノ、カネの確保が重要で、人については、防災士を年間 50 人増やすことを目的としている。
	4	エコ縁日について	古澤 刑部	・「葉っぱと遊ぼう CO2 を目で見える実験」を 11 月 8 日(土)10 時から 15 時、鶴見緑地公園で実施。 ・JRMN の参加者は古澤、石橋、西村の 3 名であり、遠藤さんの報告書に内容はまとまっている。資料④
	5	サイエンスフェアについて	西村 刑部	・昨年度は、11 月中旬に申込締切で今年も今月中の締切が予想される。締め切りの前に、一度サイエンスフェアだけについてズームで打合せする。
	6	サクラインターネットログインの 2 要素認証について	刑部	・メールでの 2 段階認証とし、刑部理事の予備の G メールアドレスを桜の登録アドレスに変更し、そのアドレスから、西村理事・古澤理事に自動転送できるようにする。
その他 意見聴取	7	今年度の振り返りと次年度の計画について	刑部	・今年度の振り返りから、次年度は作業分担を増やす。また、理事以外の会員に個別に話をする機会を設けるなど意見の聴取や、参加を働きかけていく。
	8			
次回理事会ほか	12 月 次年度の計画			

(定款 28 条 理事会の権限)1. この法人の業務執行の決定、2. 理事の職務の執行の監督、3. 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職承認・決議は理事の過半数が出席し出席者の過半数の賛成が必要な議事。確認・報告は理事の意見を求める議事。

2024 年度 12 月定期理事会議事録

会議名		JRMN 定期理事会 (2025 年度 12 月)			
日時		2025/12/13 (土) 13:00~15:00 予定	結果 13:00~15:00	場所・開催方法	大阪公立大学文化交流センター+Zoom によるオンライン(予定)
参加者 (通知)		久保田、石橋、刑部、西村、古澤、宮崎、池田、奥村 (JRMN 理事・監事以外の会員はオブザーバーとして)			
参加者 (出席)		久保田、石橋 (ズーム参加)、刑部、西村、古澤			
議事次第作成者		刑部		結果記入者	刑部
議事			内容 (予定)		
承認 決議	1	2026 年度事業計画について	久保田 刑部	<ul style="list-style-type: none"> 取組方針として 2025 年度の活動を継続することを基本とし、重点事項については、実践的な取組(リスクリテラシー資料の作成等)と理事と会員の意見交換会実施を追加することを資料①により確認した。 勉強会については、話題の本等の輪読、環境白書を読む会への参加などの意見が出た。 以上を反映することで 2026 年度事業計画は、全員一致で承認した。 	
	2	2026 年度予算計画について	久保田	<ul style="list-style-type: none"> 2025 年度収支概要を当日配布の資料で確認した。 2026 年度予算計画案は 2025 実績等をもとに作成するのでよいことを確認し、収入の未払い金戻し入れ金額の精査、支出の部の計を正しい算出値にすることを条件に全員一致で予算計画書を承認した。 	
確認 報告	3	知の市場「防疫薬総合口座」実施状況	西村 刑部	<ul style="list-style-type: none"> 12/8 までの実施状況は資料③を用いて確認した。現時点で 11 回まで終了し、残りは 2 回である。 12/8 の第 11 回のあとで懇親会を実施し、受講生 3 名と JRMN 執行理事 4 名の計 7 名が参加したことを報告した。懇親会では受講生に受講場所のヒアリング等も行った。 	
	4	サイエンスフェアについて	西村 刑部	<ul style="list-style-type: none"> 前回 11 月の理事会のあと、サイエンスフェア事務局から連絡があり、今年度も参加を申し込んだ。 内容について執行理事で 12/8 打合せを行った。その結果は資料④を用いて確認した。 実施に当たっての内容の詳細については、本理事会のあとで、執行理事で打合せする。 	
	5	総会について	久保田 刑部	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の振返りは資料⑤を用いて行った。 日程は、2026 年 2 月 28 日の 10:00 から、開催場所は大阪公立大学文化交流センター(大阪駅前第 2 ビル 6F)とする。開催場所は仮予約であり、古澤理事が本予約を担当する。 	
	6	サクラインターネットログインの 2 段階認証について	刑部	<ul style="list-style-type: none"> 2 段階認証でのメールの連絡先が 3 名となっていることを確認した。また、2 段階認証が何らかの事情でできなくなったときのための復旧用バックアップコード (8 桁の数字: 10 個) があり、刑部理事が管理していることを確認した。 	
	7	2025 事業報告書・決算書について	久保田 刑部	<ul style="list-style-type: none"> 次回理事会に 2025 事業報告書・決算書が採択できるように、分担して作業を進める。 次回理事会は作成のための時間を確保することから第 2 土曜ではなく、1/24 (土) とする 	
	8	登記変更	刑部	<ul style="list-style-type: none"> 役員変更の登記変更が遅れており至急刑部理事担当で進める。 代表理事が退任し本会も退会したことから、代表理事を選出する理事会の議事録の各理事の押印は、市町村に届けた印鑑証明の印とする必要があり、印鑑証明書の取得等を依頼した。 	
次回理事会ほか		1 月 2 4 日 (土) 13:30 枚方事務所 総会資料・サイエンスフェアについて 2 月 1 4 日 (土) 13:30 枚方事務所 理事会 総会資料発送			

(定款 28 条 理事会の権限) 1. この法人の業務執行の決定、2. 理事の職務の執行の監督、3. 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職承認・決議は理事の過半数が出席し出席者の過半数の賛成が必要な議事。確認・報告は理事の意見を求める議事。

4.2.2 執行理事会

理事会では、成案についての決議をはかり、理事会での確認・報告事項についてもその整理が必要なため、必要に応じて理事会の前に執行理事会を開催し、成案の作成、検討事項の要点の整理等を実施した。また、理事会で提起された課題についての対応をはかるためにも、理事会を受けて執行理事会を開催した。

【執行理事会の構成】：代表理事・業務執行理事(3名)の計4名

執行理事会は次の3回実施した

① 2月26日、②4月4日、③8月30日

本年度開催した3回の執行理事会の概要と資料などを次表に示した。

表 4-1 執行理事会の開催概要

年月日	会議内容
2025.2.26	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本日の内容、進め方について 2. 総会の振返り 3. 総会後の手続き 4. 重要物の確認 5. 理事会の運営方法の確認 6. 名誉会員について 7. 受講会員について 8. 日本リスク学会リスクマネージャ委員会について 9. メーリングリストの整理、会員専用ページへのアクセス、理事専用ページへのアクセセル 10. 年間予定 11. 学会発表 12. 交通費を会で負担する活動 13. 3月理事会の内容 14. その他
2025.4.4	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本日の内容、進め方について 2. 御縁会員について 3. 受講会員について 4. 新規リスクマネージャ書類審査他 5. 大阪市子どもカーニバル 6. 会員交流集会 田植え他イベント 7. 第1回勉強会について 8. 深読み会（読書熟考会）の予定 9. MLの整理結果、会員専用ページへのアクセス者、理事専用ページへのアクセセル者 10. 年間予定 11. 総会後の手続き 12. 4月理事会の内容 13. 正会員「この法人の目的を達成するための知識を有すると認められる者」 14. 知の市場について
2025.8.30	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本日の内容、進め方について 2. 8/9 実施リスクマネージャ公開セミナーについて 3. 日本リスク学会理事会（9/1）資料について 資料② 4. 次回リスクマネージャ公開セミナーについて 5. 知の市場の開講について 6. 会員交流集会 稲刈り他イベント 7. エコ縁日について 8. 深読み会（読書熟考会）の予定 9. 9月理事会の内容 10. 年間予定 11. 正会員「この法人の目的を達成するための知識を有すると認められる者」 12. 日本リスク学会会員アンケート分析 13. 外部の講演会の紹介

4.3 HP活用等

1) HPのメニューの追加

後述(4.7)するように、会員拡大につなげるため、定款には規定のない「ご縁会員」と「受講会員」を内規として位置付けた。

その紹介をするため、下記に示すように会員用のメニューの中に、「ご縁会員」と「受講会員」を追加し、詳細を記載した(受講会員については現時点では簡易な記載)。



2) 2025年度活動予定・成果のページの作成

2024年度と同様、2025年度活動予定・成果のページを作成し、随時内容を更新した。活動成果は以下のとおりである。

1. リスク管理に関する公開セミナー（日本リスク学会と共催）

①第1回リスクマネージャ公開セミナー	2025.8.9	一般向け
②第2回リスクマネージャ公開セミナー	2026.3.28予定	一般向け
11/8開催予定のリスクマネージャ公開セミナーは日本リスク学会の独自セミナーとなり配信できませんでした		

2. リスク等勉強会（環境部門、一般部門）

①第1回化学物質のリスク管理について	2025.5.17実施(環境)	主に会員
②第2回スマホを例にリスク管理について学ぶ	中止(一般)	主に会員
③第3回SDG sと環境リスク管理について	中止(環境)	主に会員
④第4回スポーツにおけるリスク管理について	中止(一般)	主に会員

3. 知の市場（講演会）2025.9.1～2025.1.5 週1回開催 以下はJRMNが担当する講演

12/8予定 リスクマネジメントの基礎	古澤理事	受講者向け
---------------------	------	-------

4. 深読み会（読書熟考会） 1冊の本を1年かけて熟読する会 対象の本：「世界は基準値でできている」ブルーボックス

第1回	中止	主に会員
第2回	中止	主に会員
第3回	中止	主に会員

5. 情報交換会

第1回 労働安全衛生とリスクマネジメント	2025.4.12 西村理事	主に正会員 公開資料
第2回 令和7年版環境白書について	2025.7.12 池田理事	主に正会員
第3回 探求学習のPC×Rサイクル	2025.9.13 久保田理事	主に正会員
第4回	中止	主に正会員

6. 会員交流集会

①南山城村田植え体験	2025.5.3と5.4実施	主に会員
②南山城村稲刈り体験	2025.9.23実施	主に会員
③見学会	中止	主に会員

7. その他

① 大阪市子どもカーニバル参加（CO2を見る）	2025.4.20 長居公園	短い記録動画 報告書
②エコ縁日（CO2を見る）	2025.11.8 鶴見緑地	
②サイエンスフェアin兵庫	2026.1.25 参加	当日資料公開
③サイエンスフェアin兵庫リスクリテラシー調査	2026.2.21予定	調査結果

3) 会員専用ページへの活動結果のアップ

会員専用ページは、2024年度に作成したカテゴリーに従い、資料をアップした。
カテゴリー別に2025年度に掲載した件数は以下のとおりである

No	カテゴリー	内容	2025 件数
1	精力的に取り組む事業の成果	情報交換会	2
2	継続的に取り組む事業の成果	知の市場関連講座 第15回防疫薬総合管理セミナー	1
3	必要に応じて取り組む事業の成果	こどもカーニバル・葉っぱで遊ぼう	1
4	総会資料・内規等・様式等	総会資料、定款・内規、様式・書式	4
5	理事会・執行理事会の結果		13
6	広報・会員交流集会		1

4) HPの投稿機能を利用したJRMNからのお知らせ

2025年度のHPの投稿機能を利用したJRMNからのお知らせは、次表のように8件であった。

No	月日	内容	備考
1	1/25	2024年度第3回リスクマネージャ公開セミナー（無料）のご案内	
2	2/8	本日の2024年度第3回リスクマネージャ公開セミナーについて	
3	2/24	2025.2.24開催 JRMN2025年度定期社員総会の結果	
4	3/9	JRMN代表理事の交代	
5	4/14	南山城村での田植え体験・茶摘み体験に参加してみませんか！2025.5.3（土）または5.4（日）	
6	7/13	2025年度第1回リスクマネージャ公開セミナー（無料）のご案内	
7	7/22	（知の市場関連講座）第15回防疫薬総合管理セミナー-身近な生活・環境害虫防除- 開催のお知らせ	
8	9/15	南山城村での稲刈り体験に参加してみませんか！2025.9.20（土）または9.23（祝）	

5) さくらインターネット利用における2段階認証等

(1) さくらインターネットのログインパスワード

さくらインターネットは、セキュリティ向上のため、ログインパスワード等の変更を2025年に行った。

なお、ログインパスワードが設定されているのは次の4項目である

- ・会員メニューログインのパスワード
- ・データベースログインのパスワード
- ・サーバー（コントロールパネル）ログインのパスワード
- ・メールログインのパスワード

(2) ログインパスワードを12文字以上に変更

上記うち、つぎの2つが12文字以上にする必要がある。

- ・サーバー（コントロールパネル）ログインのパスワード
- ・メールログインのパスワード

このうち、サーバー（コントロールパネル）ログインのパスワードは、保守点検を依頼している増本さんから2025年10月に、12文字以上にする必要があると連絡があり対応した。（ID、パスワードはJRMNの重要物のファイルに記載）

なお、会員メニューからログインした場合は、コントロールパネルはパスワードなしで入力できる。

また、メールログインのパスワードは利用時に変更すればよく、必要に応じ対応するものとした。

(3) 会員メニューログインを2段階認証変更

2025年12月から、2段階認証とする必要があったため、メールでの2段階認証とした（メール以外にはアプリなどの方法があった）。

会員メニューから今まで通りパスワードを入力すると、さくらインターネットへ登録したメールにログインのURLが送られてきて、そこから会員メニューにログインできる。現状のさくらインターネットへの登録メールアドレスは古川理事のアドレスとなっているが、さくらインターネットを使っている3名の理事（西村理事・古澤理事・刑部理事）に自動でメールが届くようにする必要がある。そこで、登録メールアドレスとして刑部理事の予備のGメールアドレスに変更し、そのアドレスから、3名の理事に自動転送できるようにした。なお、さくらインターネットからの連絡メールも刑部理事の予備のGメールアドレスに届くため、3名の理事へも転送される。

また、2段階認証が何らかの事情でできなくなったときのための復旧用バックアップコード（8桁の数字：10個）があり、2段階認証の手続きを行った刑部理事が管理している。

4.4 広報

1) HPの利用

上記のHPの活用に示すように、トップページからは一般向けに、会員専用ページでは会員向けに広報を行った。

2) 会員へのメールでの広報

会員へのメールでの広報を行った。

広報の内容は「総会関係」・「理事会の開催案内（会員も参加可能）」・「講演会の案内（外部団体講演会含む）」・「勉強会・意見交換会などへの参加」・「会員交流集会の案内」などであった。

3) 冊子「環境基礎論」等の活用

当会作成の冊子「環境基礎論」を配布することなどにより、環境への認識を広げることで社会貢献につなげる。2026年1月開催のサイエンスフェア in 兵庫で数冊配布した。

4) SNSの活用

昨年度はfacebookを開設し、日本リスク学会との共催セミナーの参加者募集に利用し、加えてユーチューブを開設し、日本リスク学会との共催セミナーの参加者募集や会員向けには会員交流会の様子の紹介に利用した。

2025年度は、4月20日開催の「大阪市子どもカーニバル」での「CO2はかり隊」の参加紹介のユーチューブ動画を作成し、広報に利用した。

Facebook、ユーチューブともJRMNのHPのトップページにリンクがあるが、年度末時点でFacebookがリンクしていない状況にあり、改善が必要となっている。

4.5 会計

1) 収支管理

会計については収支決算報告に示す。

2) 郵便局の振替口座の利用

年会費の振込用に、郵便局の振替口座を昨年度に引き続き今年度も利用した。

【口座記号番号】00960-8-326820

【口座名称】一般社団法人 日本リスクマネジャネットワ（20文字制限のため）

作成郵便局（口座からの引出し郵便局） → 大阪西本町郵便局

3名の方の会費の振込があり、11月にまとめて口座管理担当から会計へ会費を引き渡した。

4.6 会員交流集会等

会員の交流を図るため、昨年度も実施した西村理事が活動している南山城村での田植え体験イベント等の実施、見学会の検討を行った。

1) 南山城村での田植え等体験イベント

令和7年5月3日と4日、各日とも同じ内容で、田植えとお茶摘み→お茶づくりイベントを実施した。案内チラシを以下に示す。

田植え&手づくりお茶 イベント

「稲作と茶摘み体験 in 南山城」 ～田植えと茶葉摘みで自然を満喫！～

令和7年5月3日(土)・4日(日)
日帰り
参加費：3,000円/日
お弁当・お米予約券3kg付



開催概要
宇治茶の名産地で茶摘み&田植え体験ができる
ヤギとも遊べる自然体験に最適！
手摘み茶で手づくりのお茶おつくろう！
どちらか日帰り、宿泊可能

場所：南山城村 高尾地区 葉笑庵
対象：一般参加者（子供歓迎）
定員：30名
参加費：日帰り3,000円/日、☆宿泊（要相談）+1,000円
（返礼品：お米3kg予約券）
お子様1500円

《体験内容》
田植え体験（9:00～12:00 / 13:00～15:00）
茶葉摘み & お茶づくり
（11:00～12:00 / 13:00～15:00）
昼食：「おかん弁当」村茶付き（1,500円相当）

宿泊者向け：「やぶっちゃんの湯」温泉&交流会
知人のみ対応 食事等実費

スケジュール
【電車組】10:02 月ヶ瀬口駅 集合
【車組】10:00 グリーンティ高尾
（旧高尾小学校体育館横 駐車場集合）

体験開始 → 昼食 → 体験続行 → 帰宅 or 宿

服装：長靴等田植えしやすい服装（要相談）

＜申込方法 & お問い合わせ先＞
申込締切：4月30日まで
連絡先：office@eco-crea.jp
090-3652-3877 西村庄司
090-1507-6279 渡辺リンダ



集合場所：高尾生涯学習センター（旧高尾小学校）体育館前
<https://maps.app.goo.gl/dg7YzJpDgbcPzJ4QIG>

結果の概要を次表に示すがイベントは予定通り実施でき、3日は12名、4日は13名の参加者があった。貴重な体験ができ、会員の交流もはかられ、外部からの参加者もあり盛況であった。

JRMN 事業報告書書（案）

1	タイトル（テーマ）	稲作体験
2	予定通り開催できたか → 予定通り	<p>日時：令和7年5月3日（土）と4日（日） 場所：南山城村高尾地区 水田、薫笑庵、茶畑 プログラム：田植え体験、茶摘み・茶もみ体験</p> <p>5/3 10：30～13：00 田植え（下側の田） 13：10～13：30 昼食・自己紹介他 13：30～15：30 田植え残り4名、お茶摘み・茶づくり8名 15：30～16：30 日帰り参加者を送迎、休憩 16：30～19：00 掃除、準備、お風呂（薫笑庵で）、買出し 19：30～21：00 パーベキュー（森田さん帰る、先生2名参加） 21：00～22：00 片付け、22：00頃就寝</p> <p>5/4 6：30～8：00 朝食、準備 8：00～10：30 田植え（下側の田手植え、上の田機械植え） 10：50～12：00 田植え（上側の田、手植えスペース）ハフニング 12：00～13：00 昼食・自己紹介他 13：00～15：30 お茶摘み・茶づくり 15：30 JRMN以外の参加者の見送り 15：30～16：30 片付け、道具等の水洗い 16：30 JRMN参加者出発</p>
3	参加者（参加者）	<p>予定： 定員30名 結果： 3日：12名（内子供2名） 4日：13名（内小中高生2名）</p>
4	うち（主催側）	<p>予定： 6名（3日）～7名（4日）、宿泊5名 結果： 6名（3日）～7名（4日）、宿泊5名 主催者 エコ・クリエ：西村、渡辺（4日のみ） 地元支援者：森田 お手伝い（JRMN）：久保田、古澤、池田、刑部</p>
5	費用（事業実施）	<p>収入：（エコ・クリエで対応） 支出：（エコ・クリエで対応） 収支結果と対応：</p>
6	JRMN負担金	<p>科目：なし（保険はエコ・クリエ） 金額：なし</p>
7	開催趣旨・目的は 達成できたか	<ul style="list-style-type: none"> ・2日とも晴天で予定通りのスケジュールで実施できた ・自然の中での体験で交流も深まった ・お茶づくり、試飲までできた
8	良かった点	<ul style="list-style-type: none"> ・JRMN以外の参加者が2日ともありよかった ・2日とも子供の参加がありなごやかだった ・田植えは、手植えスペースを作りイベント的にできた
9	反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎の車で一部定員オーバーになり、確認・調整不足が問題であった ・2日目の田植えは午前中だけで、手植えを全部できなかった ・2日目のお茶づくりの人数が多く時間がかかった ・食材が余った ・道具等の水洗いは1日目も行った方がよかった
10	参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中での交流で楽しかった ・お茶に興味のある参加者が2日ともいた ・ハフニング（田でのしりもち）がやっぱりあった
11	今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・9月の稲刈りも実施したい。 ・次年度に向け今年度の反省をいかす ・1日目の参加者にJRMNの活動への参加案内を送る

田植えの状況 田植え機と手植え



一部区画は、手植えのみで楽しく行った。



昼食会の様子（3日）



茶摘みの様子



手もみ茶づくりの様子



1日目夜のお楽しみバーベキュー



2) 南山城村での稲刈り体験イベント

令和7年9月20日と23日の予定で、各日とも同じ内容で、稲刈りイベントを計画した。案内チラシを以下に示す。

稲刈りイベントIN南山城村

令和7年9月20日(土)・23日(火祝日)

参加費：3,000円/日
お弁当・お米予約券3kg付

《体験内容》

体験 (9:00~12:00/13:00~15:00)

昼食：「おかん弁当」村茶付き (1,500円相当)

(スケジュール)

【電車組】	10:02	月ヶ瀬口駅	集合
【車組】	10:00	グリーンティ高尾	

(旧高尾小学校体育館横 駐車場集合)

体験開始 → 昼食 → 体験 → 帰宅

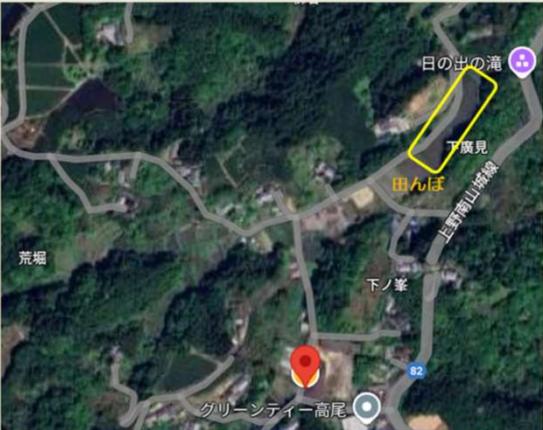
服装：長靴等稲刈りしやすい服装 (要相談)

<申込方法 & お問い合わせ先>

申込締切：9月18日まで

連絡先： office@eco-crea.jp 090-3652-3877 西村庄司







集合場所：高尾生涯学習センター (旧高尾小学校) 体育館前

残念なたら、天候の影響で23日のみの実施となった。
稲刈りの様子は以下のとおりである。



3) 見学会の実施検討

近畿地方およびその周辺で開催予定の、環境や科学技術に関する見学会を実施している施設を近畿経済産業局のHPから調べた結果を次表に示す。

見学会の実施には至らなかったが、今後も検討していく。

<https://www.kansai.meti.go.jp/2kokuji/tvlist/list.html>

近畿経済産業局 国際部 投資交流促進課

関西の見学可能な産業施設一覧(福井県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県)

	施設名 Facility Name	施設概要 Outline	府県 Prefecture	市区町村 City	カテゴリー Category	展示見学 Exh	現場見学 Fie	産業体験 Ind	費用 Fee
1	日本原子力発電(株)	原子力発電全般の説明	福井県	敦賀市	環境 リサイクル エネルギー	○	○	×	無料
2	敦賀原子力館								
4	あいとうエコプラザ菜の花館	バイオ燃料・廃油石けん・搾油プラント 見学バイオ燃料精製実験等	滋賀県	東近江市	環境 リサイクル エネルギー	×	○	○	有料
7	京都市南部資源リサイクルセンター	缶・瓶・ペットボトルの選別処理ライン	京都府	京都市	環境 リサイクル エネルギー	○	○	×	無料
8	京都市南部クリーンセンター環境学習施設「さすてな京都」	ごみ処理施設の見学、環境学習に関する展示・イベント、展望台、ビオトープ	京都府	京都市	環境 リサイクル エネルギー	○	○	○	無料
11	関西リサイクルシステムズ(株)	使用済家電4品目の分解工程等の説明	大阪府	枚方市	環境 リサイクル エネルギー	○	○	×	無料
19	大阪公立大学植物工場研究センター	人工光型植物工場に関する研究の紹介と関連施設の見学	大阪府	堺市	科学技術一般 研究所	○	○	×	有料
24	エコファーム((株)エコファーム)	エコファームの説明と施設および農場見学	兵庫県	三木市	環境 リサイクル エネルギー	×	○	○	有料
26	神戸発電所	石炭火力発電の概要説明と発電所見学	兵庫県	神戸市	環境 リサイクル エネルギー	○	○	×	無料
33	有田川町営二川小水力発電所	小水力発電所の見学・視察、有田川エコプロジェクトの説明	和歌山県	有田郡 有田川町	環境 リサイクル エネルギー	○	○	×	無料

アンモニア製造施設、利用施設、研究施設

4.7 会員拡大の検討

1) 検討の経緯

2022年度に会員拡大に関する検討を行ったが、当時は勉強会や情報交換会等の会員の満足度を上げる事業が少なかった。現在徐々に増えてきており、改めて会員拡大等、定款の見直し等について検討した。

2) 会員拡大の方法

会員拡大の方法としては、「正会員を増やす案」、定款にはないサポーター的な会員を一般から募集する案が考えられる。

3) 正会員を増やす案

本会の定款第5条では、「正会員は「日本リスク学会」登録のリスクマネージャ及びこの法人の目的を達成するための知識を有すると認められる者」とあり、「リスクマネージャ」と「この法人の目的を達成するための知識を有すると認められる者」に分けて考える必要がある。

- ・「リスクマネージャ」
- ・「この法人の目的を達成するための知識を有すると認められる者」

①リスクマネージャ

リスクマネージャは「日本リスク学会」が認定する学会資格であり、日本リスク学会への働きかけが重要である。

次年度に向けて、青森大学の東京キャンパスでの防災士養成とあわせたリスクマネージャ養成講座の開講の検討が始まっており、当会としても注視している。

②この法人の目的を達成するための知識を有すると認められる者

定款では「この法人の目的を達成するための知識を有すると認められる者」についての条件等は、具体的に示されていない。

そこで、本年度は条件案として以下のような内容を抽出したが、今後詰めていく必要がある。

1) 必要とされる知識

- ①リスクに関する基礎用語の理解
- ②リスクマネジメントに関する専門用語の理解
- ③リスクマネジメントの一連の手法（認知・分析評価・対策）
- ④リスクマップの作成に関する知識
- ⑤リスクマネジメントにおける留意点
- ⑥リスクコミュニケーションに関する知識
- ⑦社会におけるリスクマネジメントの事例

2) 知識を有すると認める方法

以下の方法の組合せ

- ・セミナーや勉強会への参加
- ・レポートの作成
- ・セミナーや勉強会の講師・指導者
- ・学会での発表
- ・雑誌への投稿

3) 会員となるためのその他の条件

- ・18歳以上（成人）
- ・日本語がわかる人
- ・反社会勢力と関係がない人

4) 定款にはないサポーター的な会員

①ご縁会員と受講会員の位置づけ

「ご縁会員」は本会からの退会者等でサポートしてもらえる人、「受講会員」は本会が実施する講演会や勉強会等に参加しサポートしてもらえる人として本年度新設した。

- ・「ご縁会員」→本会からの退会者等でサポートしてもらえる人
- ・「受講会員」→本会が実施する講演会や勉強会等に参加しサポートしてもらえる人

まず、「会員に関する内規」を変更しその中で、位置づけ、ご縁会員に関する内規と受講会員に関する内規を新設し、詳細を規定した。次ページ以降に、それぞれの会員が活動できる内容を示した（内規に添付された表）。

●ご縁会員に関する内規の抜粋

（ご縁会員の定義）

第3条 本会からの退会者で本会のご縁会員となることを希望する人、理事会で何らかのご縁があったと認めた人をご縁会員とする。

（ご縁会員の内容）

第4条 ご縁会員は、本会の運営に携わることはできないが、本会が行う事業のうち別紙1に記載する事業に参加できる。別紙1は当会のホームページに掲載し変更があれば更新するため、ご縁会員は最新の情報を確認する。

（ご縁会員の会費）

第5条 ご縁会員の会費は無料とする。

●受講会員に関する内規の抜粋

（受講会員の定義）

第3条 本会の目的のひとつ「リスクマネジメントの普及」を理解し、本会の実施する講演会や勉強会等に参加を希望する人で、本会の正会員、賛助会員、ご縁会員を除く人を受講会員とする。

（受講会員の内容）

第4条 受講会員は、本会の運営に携わることはできないが、本会が行う事業のうち別紙1に記載する事業に参加できる。別紙1は当会のホームページに掲載し変更があれば更新するため、受講会員は最新の情報を確認する。

（受講会員の会費）

第5条 受講会員の会費は無料とする。

ご縁会員が参加できる事業・活動(2025.4 時点)

項目	正会員	賛助会員	受講会員	ご縁会員	(会員以外)	備考
位置づけ	定款上の会員 (会の運営参加)		内規上の会員	内規上の会員		
会員の内容	会の運営・方向性を決定する会員	会の活動をサポートしてくれる会員	一般の方を対象とし講演会・勉強会等へ参加してくれる会員	JRMN の OB・OG を対象とした会員 (講演会・勉強会への参加)	(一般人)	
総会議決権	●	×	×	×	×	定款
理事会オブザーバー	●	●	×	×	×	会の運営
年会費 (入会金は不要)	5000 円	(HP では 10,000 円) 個人は 1000 円～3000 円への変更を検討中	なし (3 年目以降は会費・協力 金等を検討中)	なし	×	会費は内規
HP 閲覧	トップページ	●	●	●	●	
	会員専用ページ	●	●	—	×	事業計画書も
勉強会	●	●	●	●	×	
情報交換会	●	●	原則×	●	×	理事会後開催
深読み会(読書熟考会)	●	●	●	●	×	
リスク学会共催セミナー	●	●	●	●	●	
JRMN 講演会	●	●	●	●	●	
知の市場講師	●	●	×	×	×	会を代表
会員交流集会(家族可)	●	●	●	●	×	
サイエンスフェア in 兵庫	●	●	×	×	×	会を代表
大阪環境ネット連携	●	●	内容による	内容による	×	

定款の第 5 条 (法人の構成員)

- 一 正会員 「日本リスク研究学会」登録のリスクマネージャ及びこの法人の目的を達成するための知識を有すると認められる者
- 二 準会員 「日本リスク研究学会」の認定するリスクマネージャ養成プログラム受講生で、この法人の目的に賛同する者
- 三 賛助会員 本会の目的に賛同し、本会の活動を援助する企業、団体及び個人

受講会員が参加できる事業・活動(2025.4 時点)

項目	正会員	賛助会員	受講会員	ご縁会員	(会員以外)	備考
位置づけ	定款上の会員 (会の運営参加)		内規上の会員	内規上の会員		
会員の内容	会の運営・方向性を決定する会員	会の活動をサポートしてくれる会員	一般の方を対象とし講演会・勉強会等へ参加してくれる会員	JRMN の OB・OG を対象とした会員 (講演会・勉強会への参加)	(一般人)	
総会議決権	●	×	×	×	×	定款
理事会オブザーバー	●	●	×	×	×	会の運営
年会費 (入会金は不要)	5000 円	(HP では 10,000 円) 個人は 1000 円～3000 円への変更を検討中	なし (3 年目以降は会費・協礼金等を検討中)	なし	×	会費は内規
HP 閲覧	トップページ	●	●	●	●	
	会員専用ページ	●	●	—	×	事業計画書も
勉強会	●	●	●	●	×	
情報交換会	●	●	原則×	●	×	理事会後開催
深読み会(読書熟考会)	●	●	●	●	×	
リスク学会共催セミナー	●	●	●	●	●	
JRMN 講演会	●	●	●	●	●	
知の市場講師	●	●	×	×	×	会を代表
会員交流集会(家族可)	●	●	●	●	×	
サイエンスフェア in 兵庫	●	●	×	×	×	会を代表
大阪環境ネット連携	●	●	内容による	内容による	×	

定款の第 5 条 (法人の構成員)

- 一 正会員 「日本リスク研究学会」登録のリスクマネージャ及びこの法人の目的を達成するための知識を有すると認められる者
- 二 準会員 「日本リスク研究学会」の認定するリスクマネージャ養成プログラム受講生で、この法人の目的に賛同する者
- 三 賛助会員 本会の目的に賛同し、本会の活動を援助する企業、団体及び個人

②ご縁会員の募集

ご縁会員として、本会を退会し、メールアドレスがわかっている以下の16名の方にご縁会員の案内メールを送ったが、残念ながら会員への応募はなかった。

メールだけでなく、電話で直接話すなどの働きかけがあったほうがよかった。

(2025. 4. 25 ご縁会員の案内メール送信 16名)

- ☑【砂川 辰彦 様】JRMNにご縁があった方へのお知らせです
- ☑【山口 芳香 様】JRMNにご縁があった方へのお知らせです
- ☑【美馬 知美 様】JRMNにご縁があった方へのお知らせです
- ☑【前田 興治 様】JRMNにご縁があった方へのお知らせです
- ☑【谷口 了介 様】JRMNにご縁があった方へのお知らせです
- ☑【多々良 尊子 様】JRMNにご縁があった方へのお知らせです
- ☑【佐古 勇策 様】JRMNにご縁があった方へのお知らせです
- ☑【小林 知治 様】JRMNにご縁があった方へのお知らせです
- ☑【楠本 英世 様】JRMNにご縁があった方へのお知らせです
- ☑【神牧 智子 様】JRMNにご縁があった方へのお知らせです
- ☑【遠藤 憲雄 様】JRMNにご縁があった方へのお知らせです
- ☑【宇野 健一 様】JRMNにご縁があった方へのお知らせです
- ☑【伊藤 耕志 様】JRMNにご縁があった方へのお知らせです
- ☑【池淵 佐知子 様】JRMNにご縁があった方へのお知らせです
- ☑【池田 邦明 様】JRMNにご縁があった方へのお知らせです
- ☑【東 泰好 様】JRMNにご縁があった方へのお知らせです

③受講会員の募集

受講会員の募集は、「深読み会」の実施時に行う予定であったが、「深読み会」が実現できなかったため、募集自体を行えなかった。

4.8 その他

1) 会員情報の更新

HPで会員各自が自身で会員情報の更新ができるようになっているが、登録・更新が十分ではなく、会員情報を最新にすることに取組む必要があるが、昨年度同様は重点的に取り組む事業に時間が必要となり、実施には至らなかった。

2) 法務

昨年度同様、定款に現状にそぐわなくなった箇所があり、その改正等に取り組むことをめざしたが、今年度は重点的に取り組む事業に時間が必要となり、実施には至らなかった。

3) メールマガジン

広報手法としてメールマガジンは有効であるが、昨年度同様はHPの活用に重点を置いたため、メールマガジンについての検討は実施しなかった。

4) 内規・様式の作成

「会員に関する内規」を変更し、「ご縁会員に関する内規」と「受講会員に関する内規」を新設した。